

現状調査 3

圏域全体の経済成長に関する現状調査

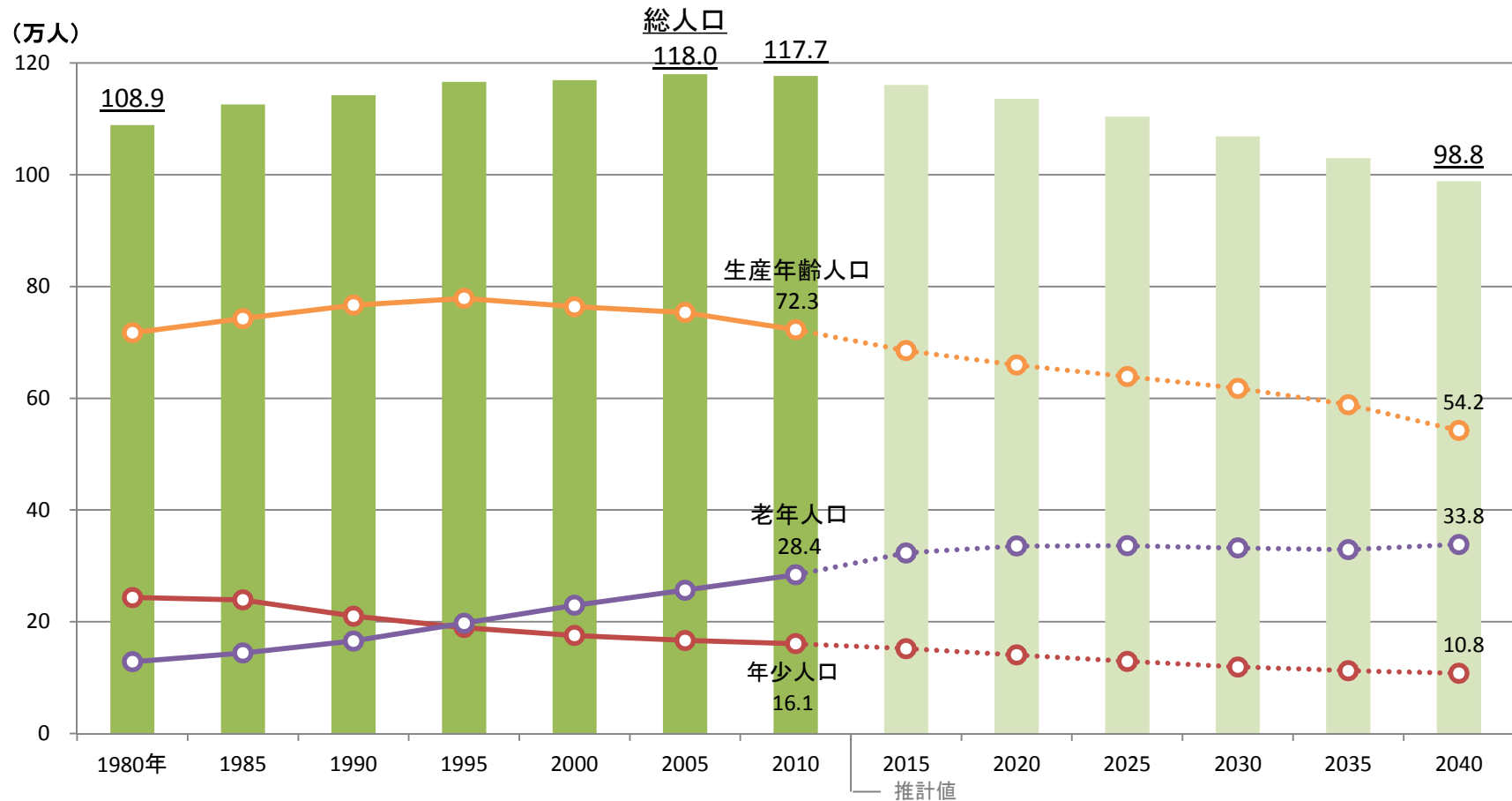
目次

Contents	Page
I 岡山都市圏の人口構造	1
1. 人口の長期推移	2
2. 人口動態	3
II 岡山都市圏産業別の現状分析	7
1. 経済規模	8
2. 産業構造	10
3. 基盤産業の動向	21
III 岡山都市圏企業アンケート結果概要	47
1. アンケート調査の概要	48
2. 岡山都市圏における企業活動の状況	49
3. 公的産業振興について	52
IV 岡山都市圏企業・団体ヒアリング結果	53
1. ヒアリング調査の概要	54
2. ヒアリング調査結果	55

人口構造【人口の長期推移】

- 岡山都市圏の人口は1980年の108.9万人から2005年の118.0万人まで増加を続けているが、2010年からは減少に転じている。今後も人口減少が続くことが予想され、2040年には98.8万人となる見通しである。
- 人口構造は、生産年齢人口が1995年をピークに減少、年少人口は長期的に減少傾向にある。その一方で老年人口の増加は続いており、高齢化が進んでいる。老年人口は今後も増加することが見込まれる。

岡山都市圏の人口の推移（総人口・年齢3区分別）

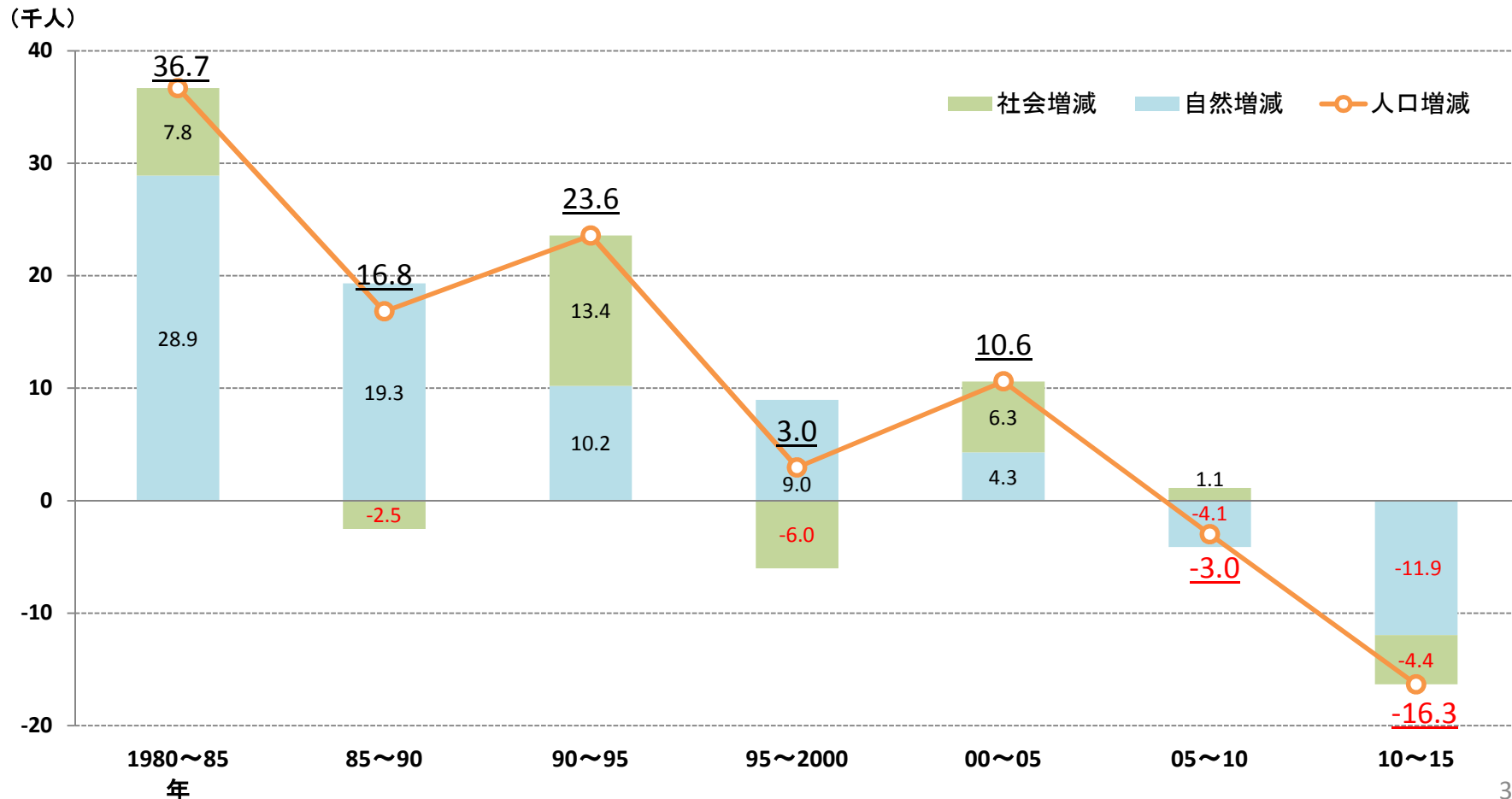


出所：総務省「国勢調査」、国立社会保障人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」
(注)「年少人口」は0～14歳、「生産年齢人口」は15～64歳、「老年人口」は65歳以上の人口を指す。

人口構造【人口動態の長期推移】

- 岡山都市圏の人口は2005年まで人口増加が続いていたが、人口動態は変化してきている。まず自然動態は1980～2005年までは出生が死亡を上回る自然増加であったが、2005～2010年には自然減少に転じている。
- また社会動態は1980～2010年までは多少のアップダウンはあるものの、転入者数が転出者数を上回る社会増加の傾向が強い。
- 2010～2015年は、自然減少に加えて、社会減少に転じていることから、総人口は減少していることが予測される。

□ 岡山都市圏の人口動態

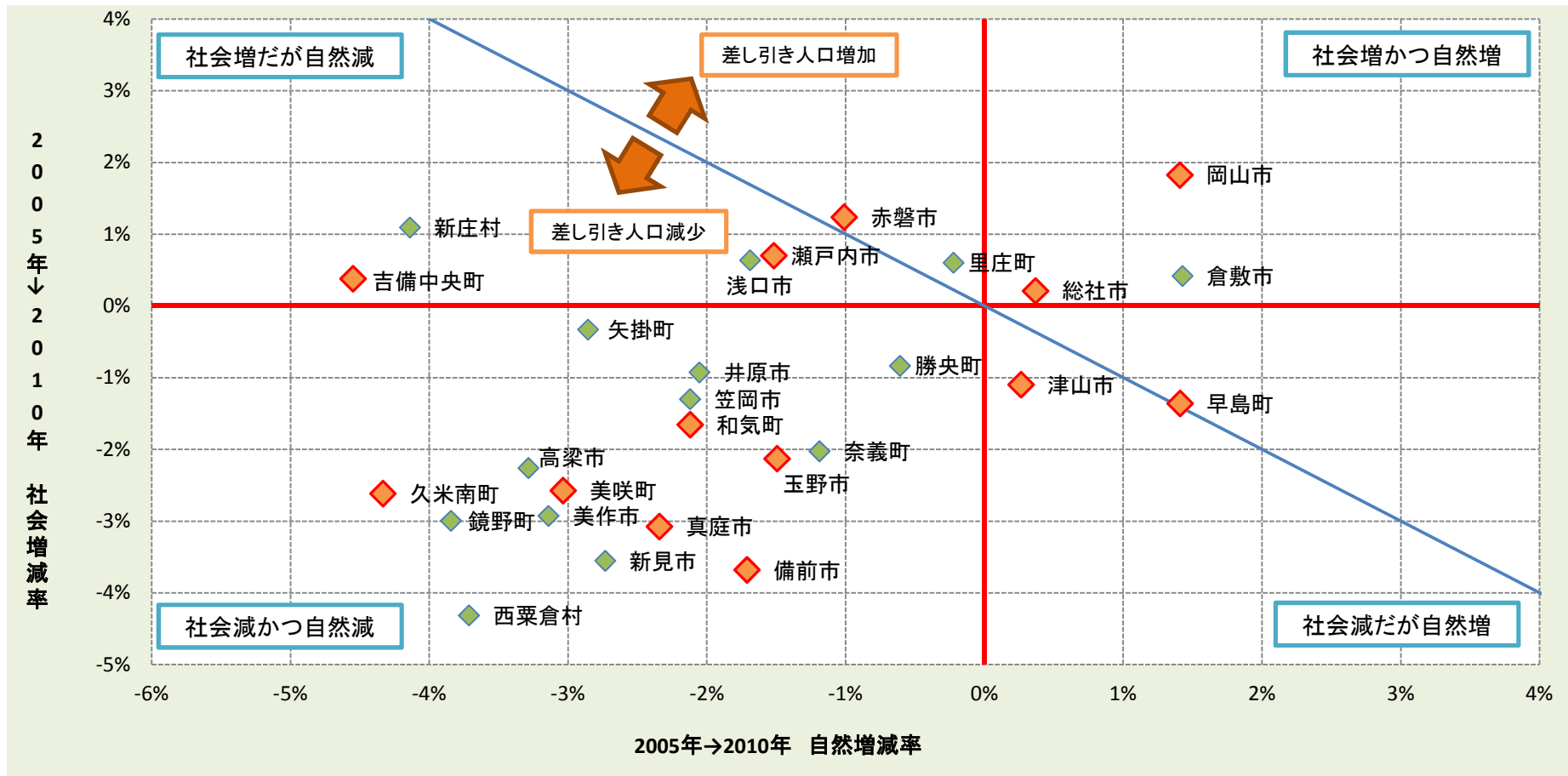


出所：総務省「国勢調査」「人口動態調査」及び岡山県「推計人口」より(株)日本経済研究所作成

人口構造【県内市町別の人口動態】

- 2005～2010年の人口動態を県内市町村別にみると、都市圏内で社会増加となっているのは岡山市・総社市・赤磐市・瀬戸内市・吉備中央町の5市町である。うち岡山市と総社市は自然増加でもある。
- 津山市と早島町は自然増加であるが、社会減少である。
- その他6市町は社会減少かつ自然減少であり、人口減少が進んでいる。

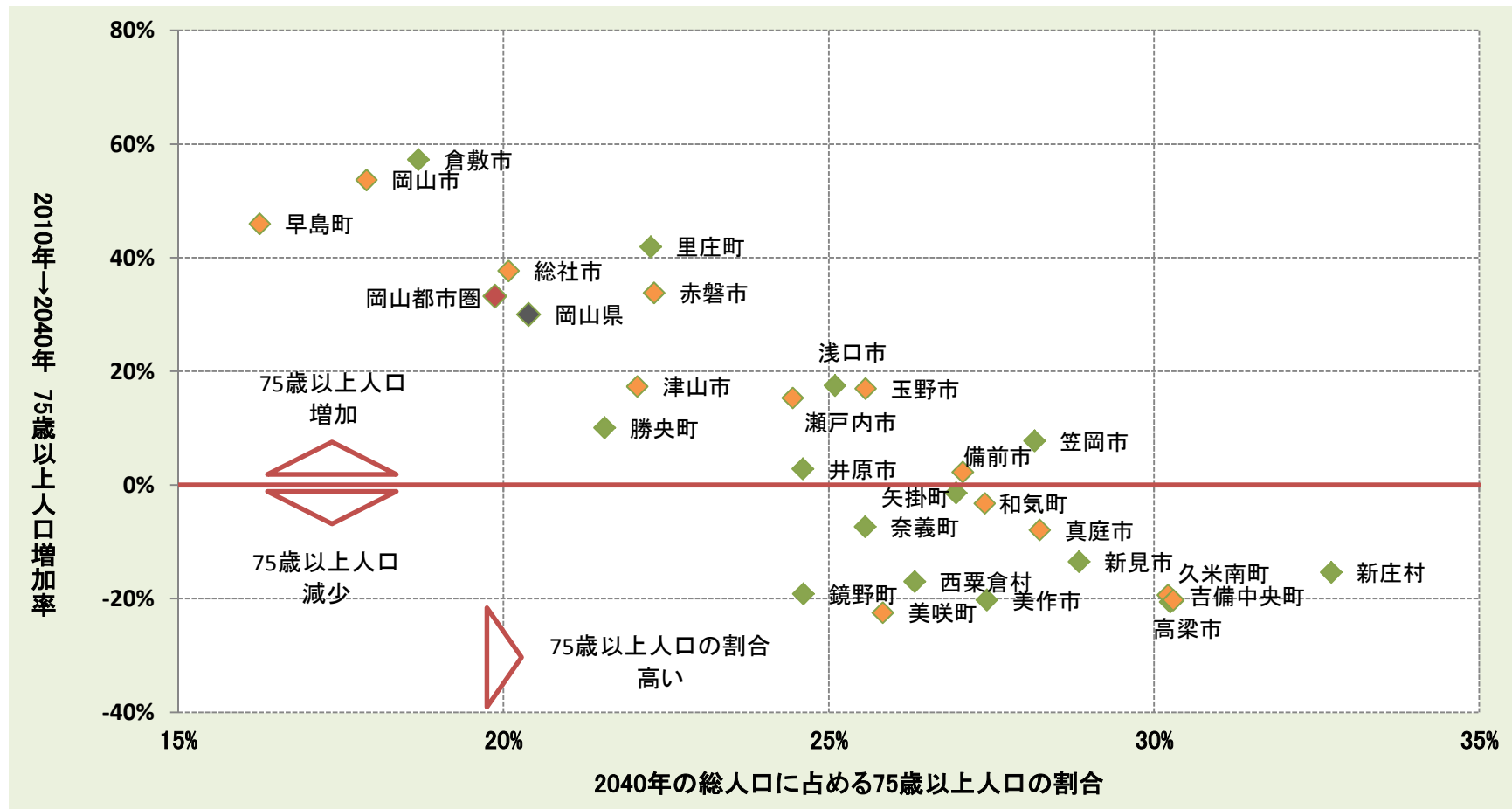
岡山県内市町村の人口動態（2005→2010年） * オレンジのマークは岡山都市圏内の市町



人口構造【県内市町別の人口動態】

- 高齢者率の高い地域は、人口規模が小さい地域ほど多くみられる。
- 2010～2040年までの75歳以上の人口の増加率を見たとき、増加率が高いのは人口規模の大きい都市部が多い。したがって、高齢化という問題は人口規模の小さな地方だけの問題ではなく、むしろ都市部の方が時間経過に伴い加速度的に高齢化が進む危険性を持っているといえる。

□ 岡山県内市町村の高齢化の進行度（2010→2040年） * オレンジのマークは岡山都市圏内の市町

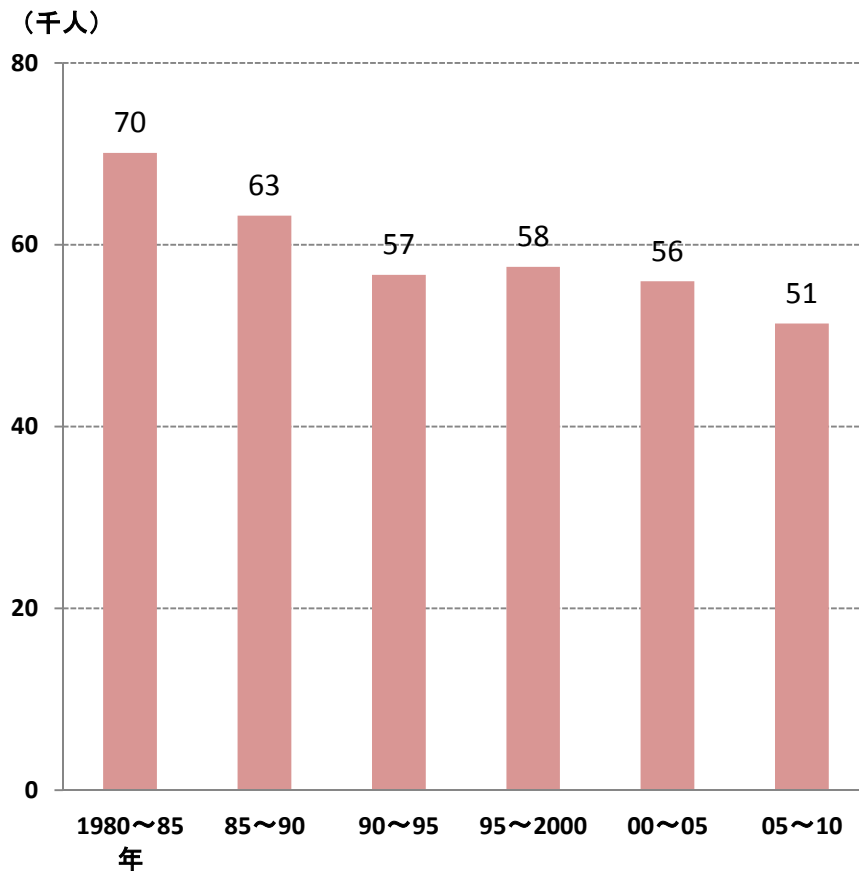


出所：国勢調査・社人研推計より(株)日本経済研究所作成

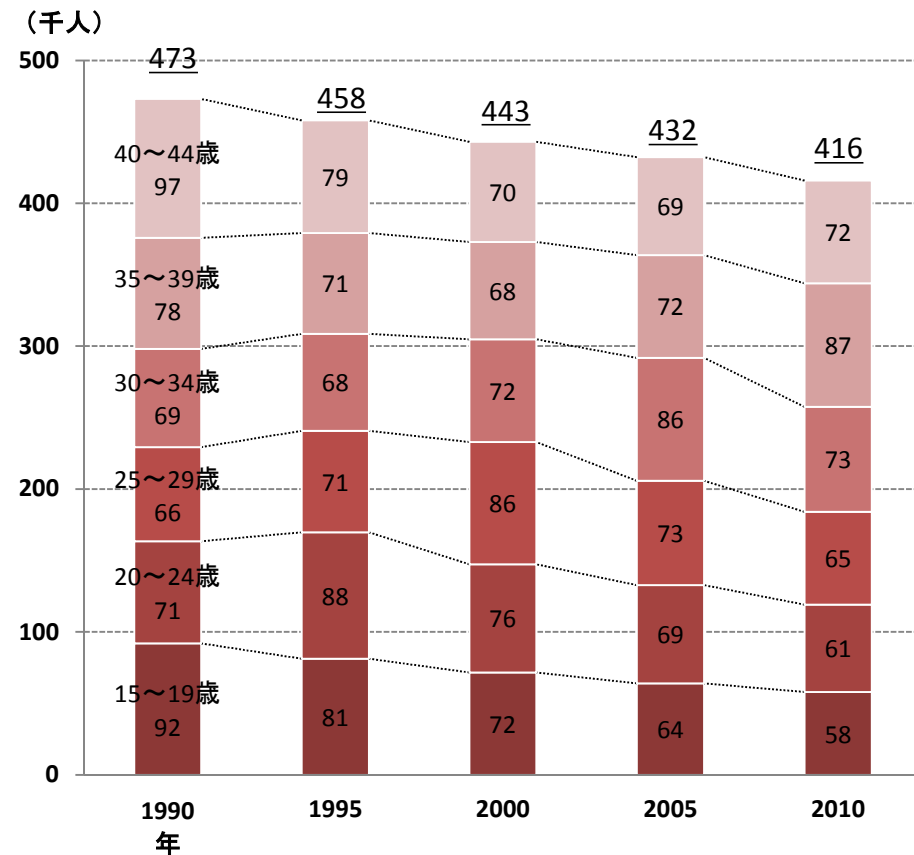
人口構造【子ども・女性人口の推移】

- 1980～2010年までの出生数（各5年間）をみると、1985年以降、減少傾向となっている。
- 一般的に子供を産み、育てるとされる15～44歳の女性人口は、2010年時点で41.6万人であり、その56%を30～44歳が占めていることから、これら世代の加齢により15～44歳の女性人口が減少し、出生数の減少につながることを懸念される。

□ 岡山都市圏の出生数の推移



□ 岡山都市圏内15～44歳女性人口の推移



目次

Contents	Page
I 岡山都市圏の人口構造	1
1. 人口の長期推移	2
2. 人口動態	3
II 岡山都市圏産業別の現状分析	7
1. 経済規模	8
2. 産業構造	10
3. 基盤産業の動向	21
III 岡山都市圏企業アンケート結果概要	47
1. アンケート調査の概要	48
2. 岡山都市圏における企業活動の状況	49
3. 公的産業振興について	52
IV 岡山都市圏企業・団体ヒアリング結果	53
1. ヒアリング調査の概要	54
2. ヒアリング調査結果	55

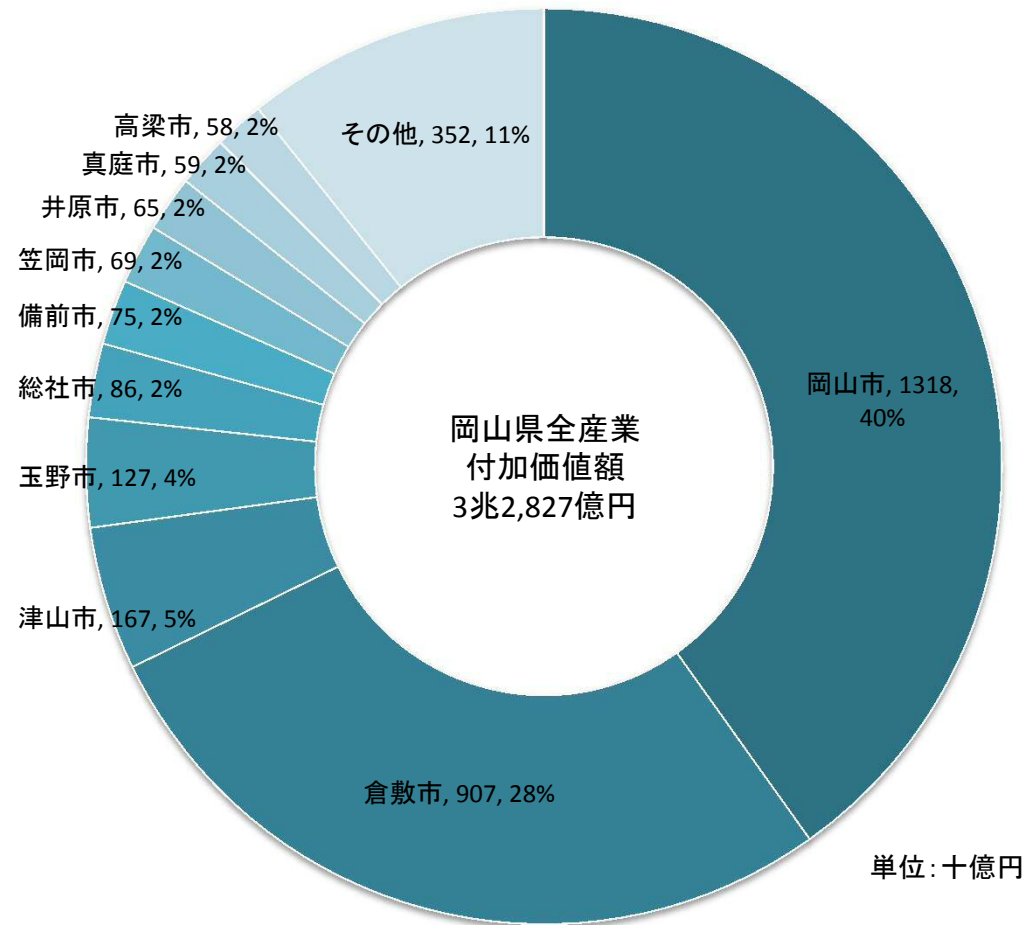
1. 岡山都市圏の経済規模 【岡山県】

- 岡山県全体で生み出された付加価値額は3兆2,827億円（2012年）であり、そのうち県経済で中核的な位置を占めている岡山市及び倉敷市が、それぞれ40%・28%を占めており、これら2市でほぼ7割のシェアを有している。
- 岡山市・倉敷市に次いで、津山市・玉野市・総社市・備前市と岡山都市圏内の市が続いている。

- 岡山県全産業付加価値額3兆2,827億円のうち、岡山市が生み出した付加価値額は1兆3,178億円で、岡山県全体の40.1%を占めている。
- 倉敷市が生み出した付加価値額は9,071億円であり、全体の27.8%を占めている
- 岡山都市圏全体で生み出した付加価値額は1兆9,911億円であり、全体の60.7%を占めている。

* 付加価値額

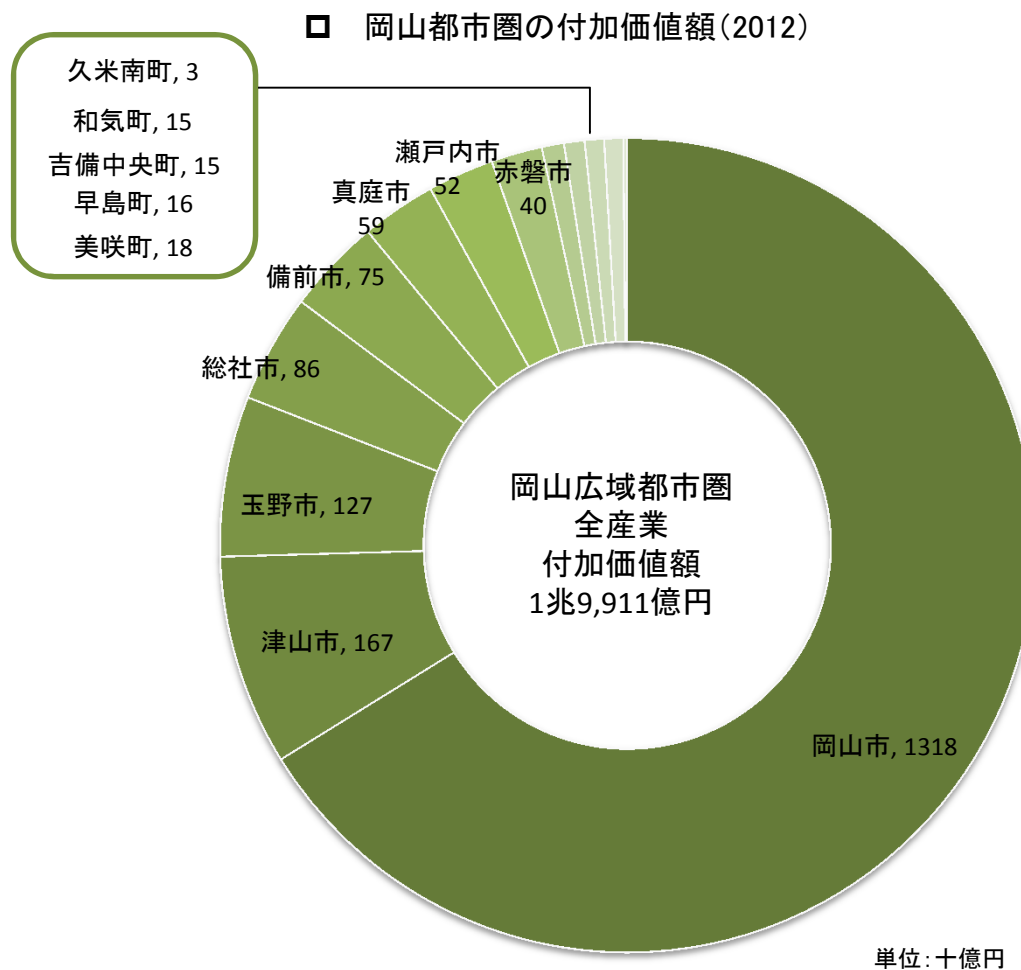
- 付加価値額とは、企業の生産活動によって新たに生み出された価値のことであり、「売上高」から「費用総額」を引いた額に、「給与総額」と「租税公課」を加えたもの。
- 地域内にどの程度の付加価値額が発生したかを把握することは、地域の経済力を図る重要な指標となる。



1. 岡山都市圏の経済規模 【都市圏】

- 岡山都市圏で2012年に生み出された付加価値額は1兆9,911億円であり、そのうち圏域の中心都市である岡山市が全体の66.2%を占めている。
- 岡山市に次いで付加価値額の構成比が高いのは、津山市（1,665億円、8.4%）・玉野市（1,267億円、6.4%）、総社市（856億円、4.3%）となっている。

市町村名	付加価値額 (億円)	構成比 (%)
岡山市	13,179	66.2
津山市	1,665	8.4
玉野市	1,267	6.4
総社市	856	4.3
備前市	753	3.8
真庭市	592	3.0
瀬戸内市	524	2.6
赤磐市	404	2.0
美咲町	175	0.9
早島町	162	0.8
吉備中央町	153	0.8
和気町	150	0.8
久米南町	31	0.2



2. 岡山都市圏の産業構造 【産業の特徴（民営事業所）】

- 岡山都市圏の産業の中で雇用・付加価値額ともに高いウェイトを占めているのは、「建設業」「製造業」「卸売・小売業」「医療・福祉」である。
- また、「農業」も多くの労働力を吸引している産業である（後述）。

□ 岡山都市圏の産業大分類別の主要指標（各指標上位5産業に赤で色づけ）

	事業所数		従業者数		売上額		付加価値額		付加価値率 (%)
	(所)	構成比(%)	(人)	構成比(%)	(百万円)	構成比(%)	(百万円)	構成比(%)	
総数	50,278		492,355		9,750,519		1,991,173		
農林漁業	268	0.5	3,030	0.6	32,290	0.3	6,497	0.3	20.1
鉱業, 採石業, 砂利採取業	31	0.1	177	0.0	1,570	0.0	345	0.0	22.0
建設業	5,093	10.1	35,200	7.1	681,024	7.0	121,572	6.1	17.9
製造業	3,983	7.9	86,938	17.7	2,318,341	23.8	504,016	25.3	21.7
電気・ガス・熱供給・水道業	25	0.0	1,441	0.3	27,290	0.3	16,360	0.8	59.9
情報通信業	549	1.1	10,037	2.0	166,989	1.7	42,375	2.1	25.4
運輸業, 郵便業	1,389	2.8	29,222	5.9	381,282	3.9	112,940	5.7	29.6
卸売業, 小売業	13,711	27.3	106,052	21.5	3,481,422	35.7	396,775	19.9	11.4
金融業, 保険業	999	2.0	14,595	3.0	831,164	8.5	143,319	7.2	17.2
不動産業, 物品賃貸業	3,317	6.6	11,201	2.3	221,247	2.3	50,157	2.5	22.7
学術研究, 専門・技術サービス業	2,051	4.1	12,092	2.5	119,714	1.2	48,958	2.5	40.9
宿泊業, 飲食サービス業	5,598	11.1	41,397	8.4	144,220	1.5	55,169	2.8	38.3
生活関連サービス業, 娯楽業	4,343	8.6	20,068	4.1	237,314	2.4	58,166	2.9	24.5
教育, 学習支援業	1,329	2.6	13,798	2.8	127,263	1.3	64,633	3.2	50.8
医療, 福祉	3,475	6.9	64,201	13.0	665,195	6.8	254,721	12.8	38.3
複合サービス事業	371	0.7	3,441	0.7	34,100	0.3	13,346	0.7	39.1
サービス業(他に分類されないもの)	3,746	7.5	39,465	8.0	280,094	2.9	101,824	5.1	36.4

出所: 経済産業省「経済センサス活動調査」(2012年)

(注1) 事業所を調査対象としているため、個人事業主の多い農林漁業の値が小さくなるため、農林漁業については別に分析する必要がある。

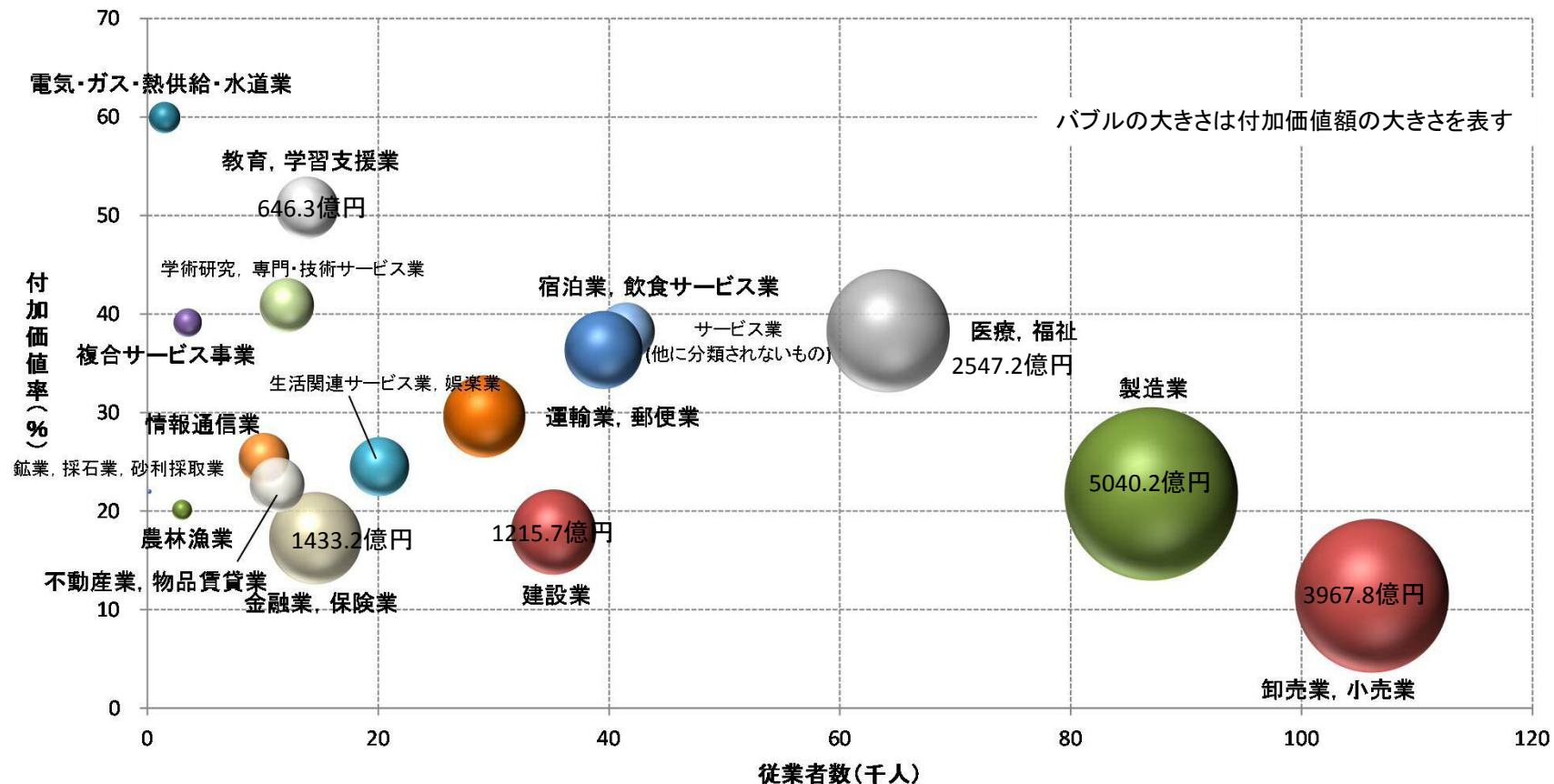
(注2) 「付加価値率」は、「付加価値額」を「売上金額」で除したものである。売上のうち付加価値(企業の利益・従事者への給与・行政への納税)が発生した割合を表す。

(注3) 各市町及び各産業の調査結果には「秘匿処理」された値があることに留意が必要。「秘匿処理」とは、ある区分に該当する客体数が少なく、その結果数値を公表することにより、調査客体の個別の情報が判明してしまうおそれがある場合に、該当する値を非公表(秘匿値「X」と表記)すること。

2. 岡山都市圏の産業構造 【産業の特徴（民営事業所）】

- 岡山都市圏の雇用吸引力・稼ぐ力を民営事業所ベースで見ると、「卸売・小売業」「医療・福祉」「製造業」「教育学習支援業」が付加価値額・従業者数の両面では目立つ存在である。
- 産業の特性として、「卸売・小売業」「医療・福祉」は典型的な域内市場産業であるため、域内の人口動向に左右される。一方で、域外から外貨を獲得する産業としては、主に域外を市場とする（もしくは域外からの資金で仕事が発生する）「製造業」「建設業」「観光業（宿泊業・飲食サービス業）」があり、圏域の経済成長にとって重要な産業といえる。

□ 岡山都市圏産業の雇用吸引力・稼ぐ力（民営事業所の付加価値額・従業者・付加価値率に関するバブルチャート）



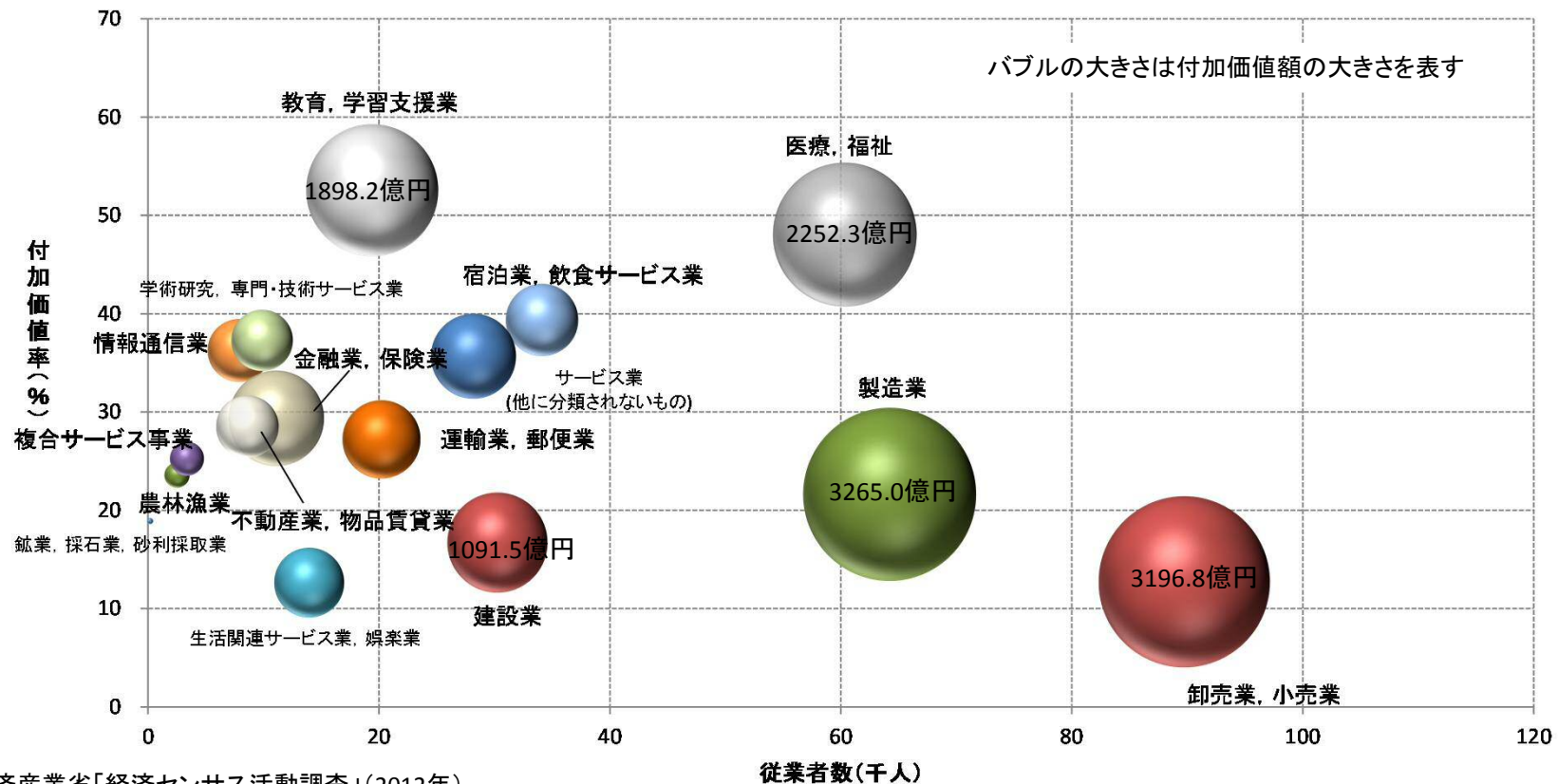
出所：経済産業省「経済センサス活動調査」(2012年)

- (注1) 企業・民営事業所を調査対象としているため、個人事業主の多い農林漁業の値が小さくなる傾向がある。
 (注2) 「就業者数」が多いほど雇用吸引力が高い、「付加価値額」が大きい(バブルが大き)、若しくは、又は「付加価値率」が高いほど稼ぐ力が高いといえる。
 (注3) 上記数値は、各市町及び各産業の調査結果に秘匿値があるため、各産業の全事業所の合計値とはならない。

2. 岡山都市圏の産業構造 【産業の特徴（企業）】

- 岡山都市圏の雇用吸引力・稼ぐ力を企業ベースで見ると、ほぼ全ての産業は事業所ベースと比べると従業者数、付加価値額ともに低下する。
- 「教育・学習支援業」では企業ベースで見た方が従業者数、付加価値額ともに数値が大きくなる。これは岡山市内にある大手教育サービス企業の本社が岡山市内に立地していることが背景にある。

□ 岡山都市圏産業の雇用吸引力・稼ぐ力（企業の付加価値額・従業者・付加価値率に関するバブルチャート）



出所: 経済産業省「経済センサス活動調査」(2012年)

(注1) 企業・民営事業所を調査対象としているため、個人事業主の多い農林漁業の値が小さくなる傾向がある。

(注2) 「就業者数」が多いほど雇用吸引力が高い、「付加価値額」が大きい(バブルが大き)、若しくは、又は「付加価値率」が高いほど稼ぐ力が高いといえる。

(注3) 上記数値は、各市町及び各産業の調査結果に秘匿値があるため、各産業の全企業の合計値とはならない。また、「電気・ガス・熱供給・水道業」は秘匿となっているため、グラフ内に掲載していない。

2. 岡山都市圏の産業構造 【産業の特徴（民営事業所・企業の比較）】

- 先述の2つのバブルチャートにおける「民営事業所」「企業」について下表のとおり比較した。表右の「民営事業所・企業の比率」が「1.0」以下であれば、都市圏内に本社を持つ企業の事業活動が、都市圏内のすべての事業所が行う事業活動の規模を上回っていることを表す。岡山都市圏の場合、「鉱業、採石業、砂利採取業」「教育、学習支援業」の2つが当てはまる。
- 一方で「1.0」を大きく上回っている場合は、都市圏外に本社を持ち、都市圏内で店舗・営業所・工場などをもち事業活動を行う企業の存在感が大きいことを表す。岡山都市圏では「製造業」「情報通信業」「金融業、保険業」及び各種「サービス業」等幅広い業種が当てはまる。「製造業」は都市圏内で雇用・付加価値共に重要な業種であるが、都市圏外の企業に依存している度合いは高いといえる。

□ 経済センサス活動調査における民営事業所・企業の従業者数・付加価値額

	民営事業所ベース		企業ベース		民営事業所・企業の比率	
	従業者数 A	付加価値額 B	従業者数 C	付加価値額 D	従業者数 A/C	付加価値額 B/D
農林漁業	3,030	6,497	2,516	6,748	1.2	1.0
鉱業, 採石業, 砂利採取業	177	345	209	382	0.8	0.9
建設業	35,200	121,572	30,246	109,154	1.2	1.1
製造業	86,938	504,016	64,215	326,504	1.4	1.5
電気・ガス・熱供給・水道業	1,441	16,360	401	-	3.6	-
情報通信業	10,037	42,375	7,898	42,991	1.3	1.0
運輸業, 郵便業	29,222	112,940	20,201	66,427	1.4	1.7
卸売業, 小売業	106,052	396,775	89,769	319,681	1.2	1.2
金融業, 保険業	14,595	143,319	11,137	99,300	1.3	1.4
不動産業, 物品賃貸業	11,201	50,157	8,651	42,458	1.3	1.2
学術研究, 専門・技術サービス業	12,092	48,958	9,859	40,882	1.2	1.2
宿泊業, 飲食サービス業	41,397	55,169	34,120	57,037	1.2	1.0
生活関連サービス業, 娯楽業	20,068	58,166	13,988	52,944	1.4	1.1
教育, 学習支援業	13,798	64,633	19,365	189,815	0.7	0.3
医療, 福祉	64,201	254,721	60,347	225,233	1.1	1.1
複合サービス事業	3,441	13,346	3,359	12,474	1.0	1.1
サービス業(他に分類されないもの)	39,465	101,824	28,208	78,837	1.4	1.3

- 民営事業所ベース：岡山都市圏内に事業所を置く民間事業者の事業活動を表したもの。したがって、都市圏内に本社を持つ企業の事業所はもちろんであるが、都市圏外に本社を置き、都市圏内に店舗・営業所・工場などがある場合、これらの事業活動も含む。
- 企業ベース：岡山都市圏内に本社を持つ事業者の事業活動を表したもの。したがって、都市圏内に本社を持つ事業者が、都市圏外の店舗・営業所・工場などで行う事業活動も含む。一方で、都市圏外に本社を持つ事業者の、都市圏内での事業活動は含まない。

出所：経済産業省「経済センサス活動調査」(2012年)

(注1) 企業・民営事業所を調査対象としているため、個人事業主の多い農林漁業の値が小さくなる傾向がある。

(注2) 上記数値は、各市町及び各産業の調査結果に秘匿値があるため、各産業の全事業所・企業の合計値とはならない。

2. 岡山都市圏の産業構造 【産業の特徴】

- 岡山都市圏には地方銀行・地方百貨店のような地元の顧客を中心とした企業だけでなく、製造業から小売業・サービス業に至るまで全国に展開している上場企業の本社が立地している。
- 岡山都市圏内に本社を置く上場企業

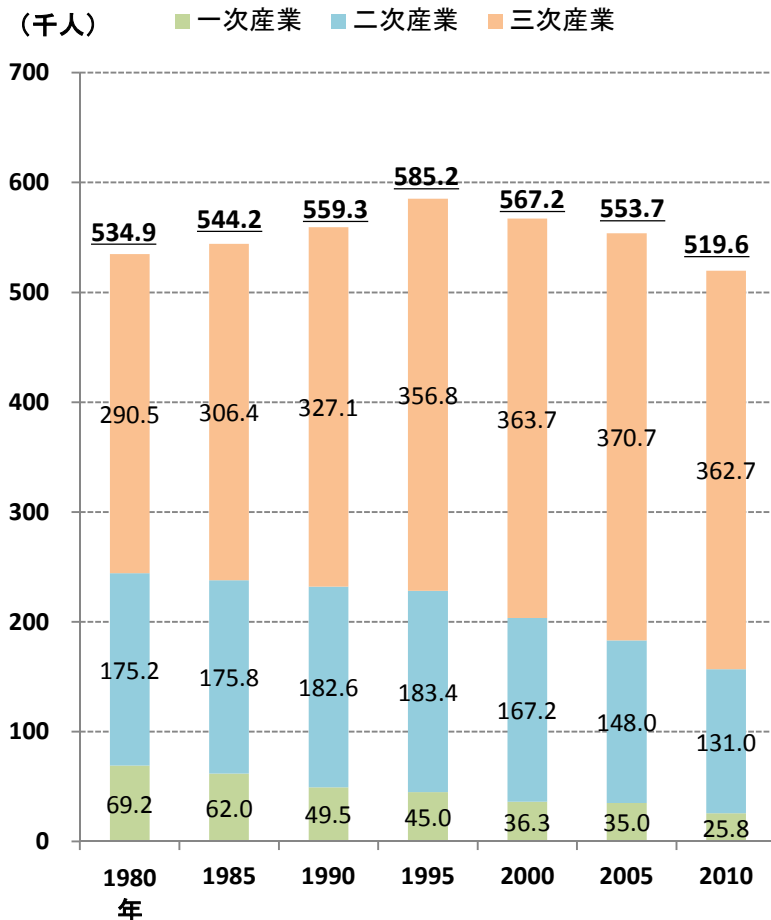
企業名	業種	本社所在地	上場市場
(株)滝澤鉄工所	機械	岡山市	東証1部
(株)トマト銀行	銀行	岡山市	東証1部
(株)中国銀行	銀行	岡山市	東証1部
(株)天満屋ストア	小売業	岡山市	東証2部
岡山県貨物運送(株)	陸送	岡山市	東証2部
はるやま商事(株)	小売業	岡山市	東証1部
(株)大本組	建設	岡山市	JASDAQ
(株)ベネッセホールディングス	サービス	岡山市	東証1部
(株)テイツー	小売業	岡山市	JASDAQ
(株)アルファ	サービス	岡山市	JASDAQ
ミサワホーム中国(株)	建設	岡山市	JASDAQ
(株)KG情報	サービス	岡山市	JASDAQ
E・Jホールディングス(株)	サービス	岡山市	東証2部
(株)岡山製紙	パルプ・紙	岡山市	JASDAQ
(株)カワニシホールディングス	卸売業	岡山市	東証2部
(株)サンマルクホールディングス	小売業	岡山市	東証1部
(株)リックコーポレーション	小売業	岡山市	JASDAQ
(株)ウェスコホールディングス	サービス	岡山市	東証2部

2. 岡山都市圏の産業構造

【就業構造】 就業者数の推移

- 圏域の就業者数は1995年の58.5万人をピークに減少し、2010年には52.0万人となっている。
- 産業別にみると、一次産業の就業者の減少が著しく、1980年から2010年で半数以上減少している。二次産業についても1995年の18.3万人から13.1万人に減少している。
- 三次産業についても2005年までは増加傾向にあったものの、2010年には減少に転じている。

□ 就業者数の推移（総数・産業別）



年次	1980年	1985	1990	1995	2000	2005	2010	80⇒10増減
就業者総数	534.9	544.2	559.3	585.2	567.2	553.7	519.6	-2.9%
第一次産業	69.2 12.9%	62.0 11.4%	49.5 8.9%	45.0 7.7%	36.3 6.4%	35.0 6.3%	25.8 5.0%	-62.7%
第二次産業	175.2 32.8%	175.8 32.3%	182.6 32.7%	183.4 31.3%	167.2 29.5%	148.0 26.7%	131.0 25.2%	-25.2%
第三次産業	290.5 54.3%	306.4 56.3%	327.1 58.5%	356.8 61.0%	363.7 64.1%	370.7 66.9%	362.7 69.8%	24.9%

単位：千人（下段は構成比）

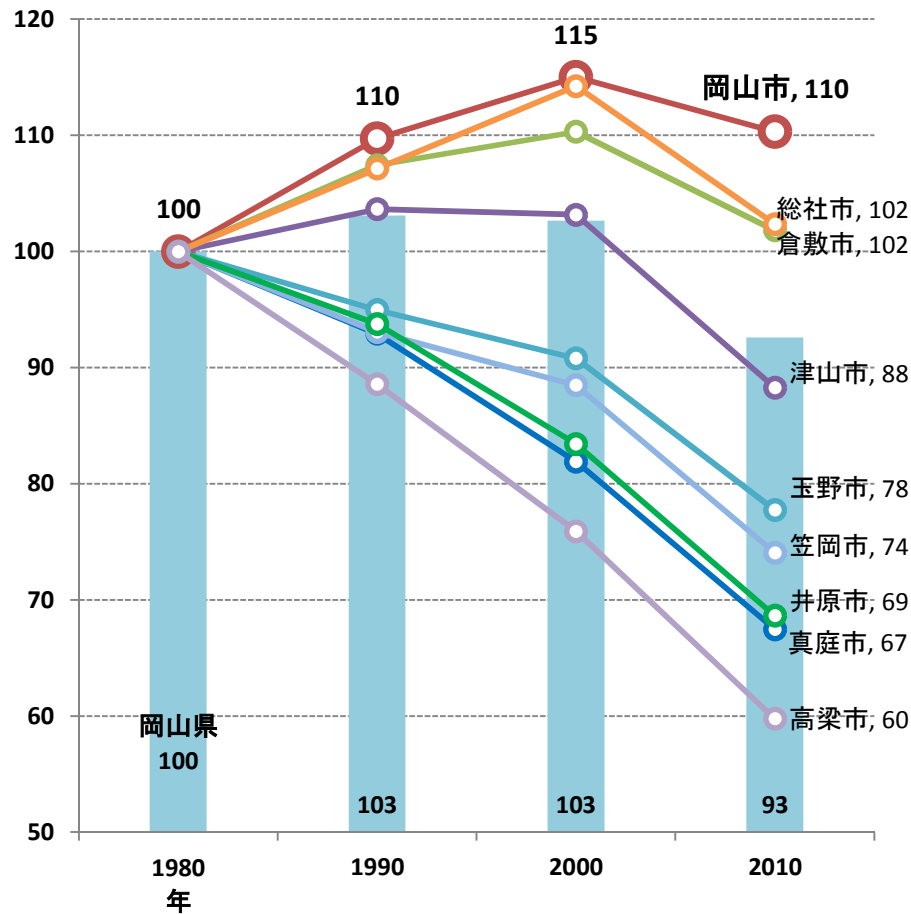
出所：総務省「国勢調査」

2. 岡山都市圏の産業構造

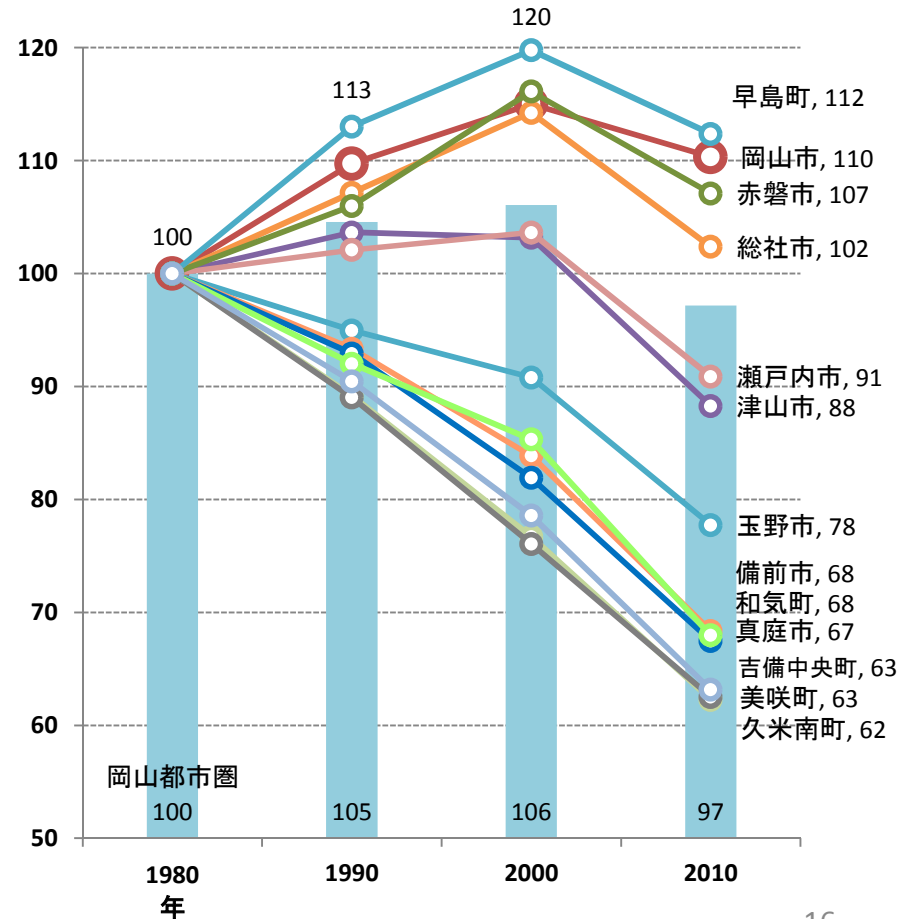
【就業構造】岡山市と県内他地域との比較

- 岡山県全体では、2000年以降全ての市町村で就業者は減少傾向にある。岡山県の各主要都市を比較すると、1980年の就業者数の水準を下回っていないのは岡山市・倉敷市・総社市・赤磐市だけとなった。
- 圏域内での就業者数の比較をしてみると、早島町が1980年比で約1～2割の増加をみせているが、その一方で、久米南町・美咲町・吉備中央町等では約3～4割の減少となっている。

□ 県内主要都市との就業者推移の比較
(1980年を100として指数化)



□ 岡山都市圏各市町との就業者推移の比較
(1980年を100として指数化)

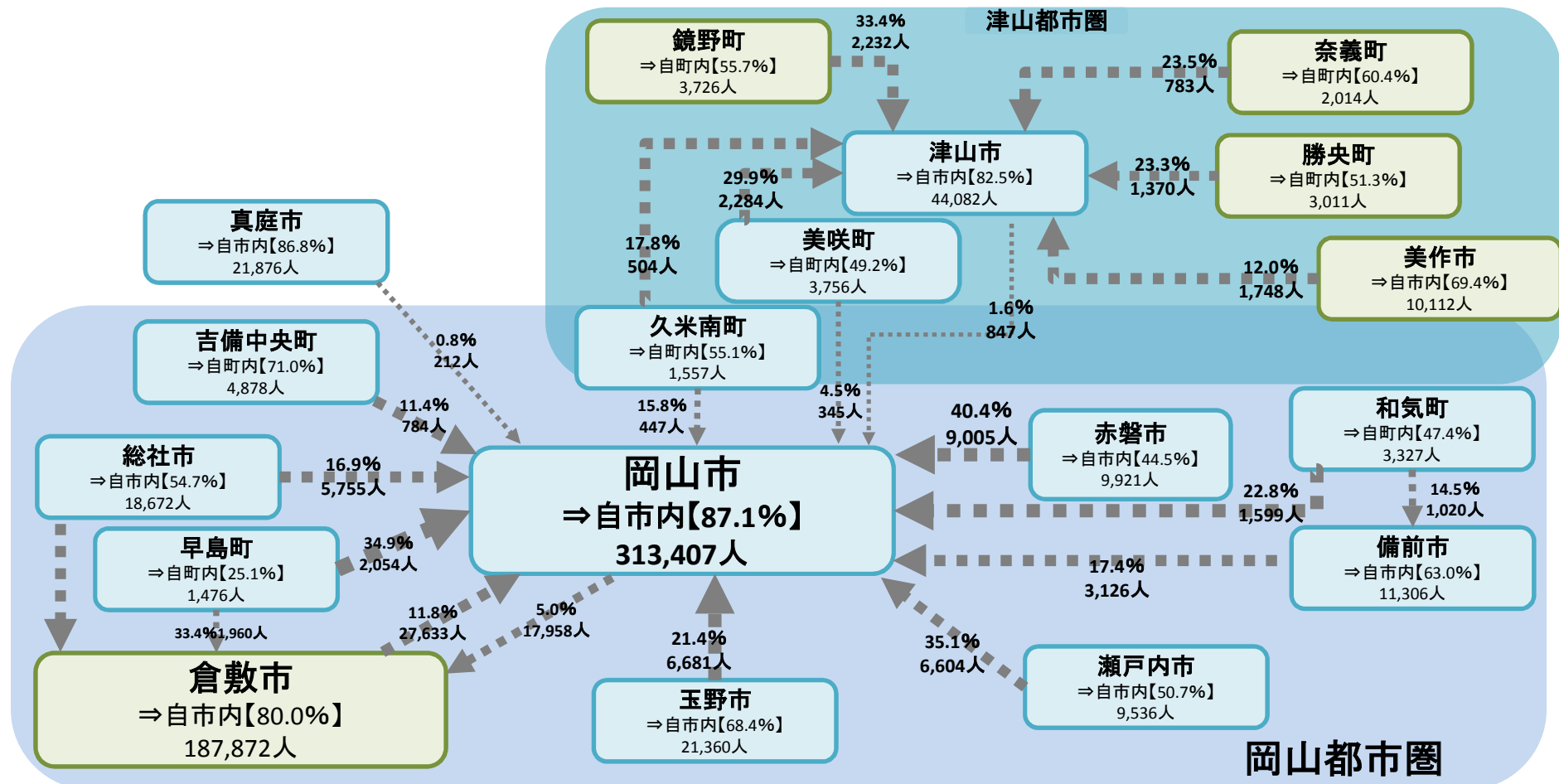


2. 岡山都市圏の経済構造

【就業構造】 都市圏の構成

- 岡山市に常在する就業者・通学者は36万27人、そのうち87.1%が市内へ通勤・通学し、残り約1割程度は他市町へ通勤・通学している状況である。
- 都市圏内の通勤・通学状況を整理すると、玉野市・総社市・備前市・瀬戸内市・赤磐市・和気町・早島町・久米南町・吉備中央町から岡山市への通勤・通学者は、各市町の通勤・通学者の10%以上を占めており、10%通勤・通学圏を都市圏とした場合、岡山都市圏に属しているということになる。
- 津山市も都市圏を形成しており、圏域内では久米南町・美咲町が、圏域外では美作市・鏡野町・奈義町・勝央町が属している。

□ 岡山都市圏・津山都市圏の構成（10%通勤・通学圏を都市圏とする）

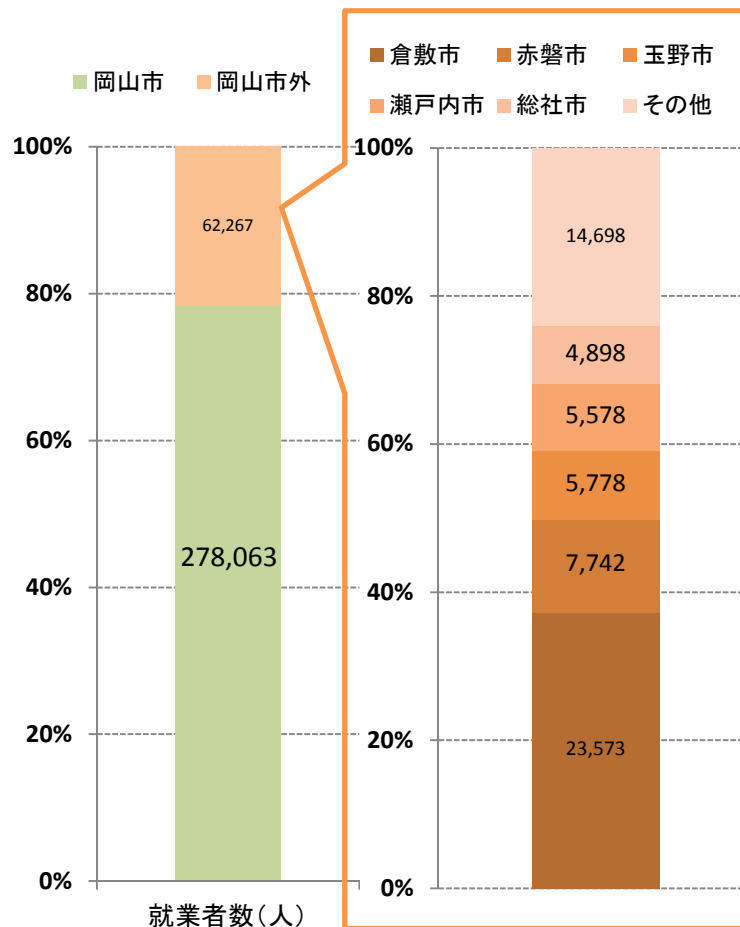


2. 岡山都市圏の産業構造

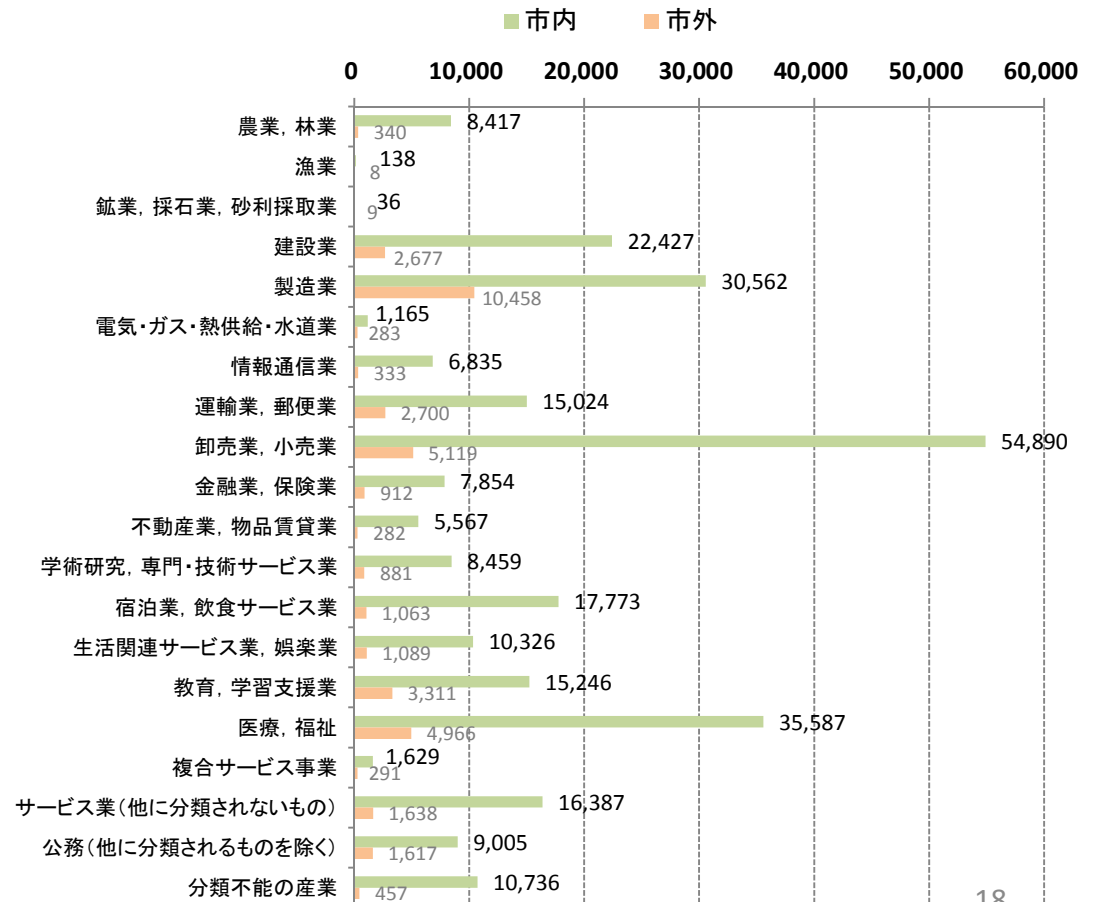
【就業構造】岡山市民の就業先

- 岡山市民のうち就業者は34.0万人であり、その就業者のうち約20%にあたる6.2万人は、市外で働いている。就業先として最も多いのは倉敷市で2.4万人となっている。
- 岡山市民が市内で最も働いている産業は「卸売・小売業」5.5万人であり、「医療・福祉」「製造業」「建設業」と続く。一方で、市外で最も働いている産業は「製造業」である。

□ 岡山市民の就業地



□ 岡山市民の産業別就業者数 (市内・市外別)

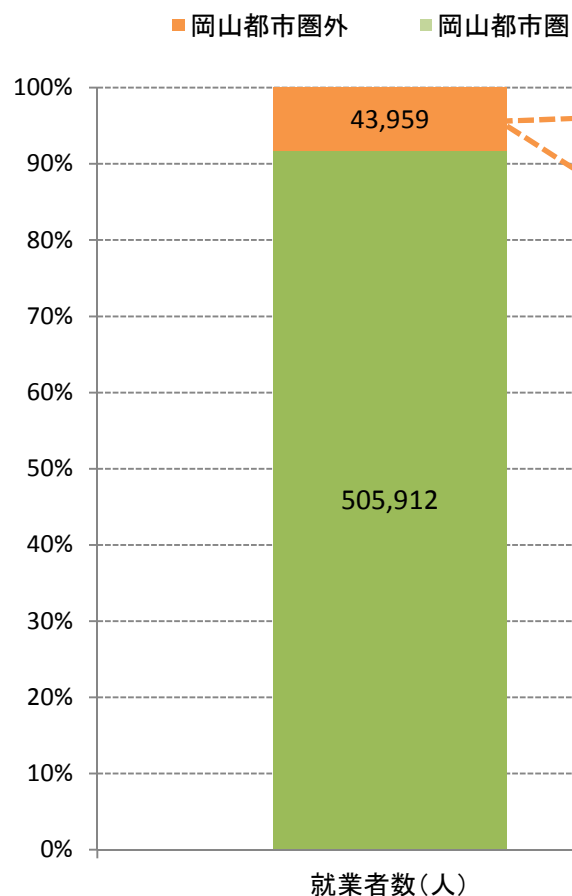


2. 岡山都市圏の産業構造

【就業構造】岡山市民の就業先

- 岡山都市圏内の就業者のうち、都市圏内で働いている人は50.6万人で全体の9割以上である。
- 都市圏外で働いている就業者数は4.4万人であり、そのうちの61.6%にあたる2.7万人を倉敷市が占めている。次いで他県が14.0%（6,137人）、高梁市が5.0%（2,187人）となっている。

□ 岡山都市圏内市町民の就業地



地名	就業者(人)	構成比
岡山都市圏外 就業者数合計	43,959	
倉敷市	27,072	61.6%
高梁市	2,187	5.0%
勝央町	2,133	4.9%
鏡野町	1,954	4.4%
美作市	1,812	4.1%
奈義町	826	1.9%
新見市	478	1.1%
笠岡市	368	0.8%
浅口市	318	0.7%
矢掛町	275	0.6%
井原市	236	0.5%
里庄町	95	0.2%
新庄村	58	0.1%
西粟倉村	10	0.0%
他県	6,137	14.0%

3. 基盤産業の動向 【農業】 農業総生産額・就業者数

- 圏域内には、県内のおよそ6割（61.7%）を占める農業経営体※が存在する。岡山市には、圏域内で最も多くの農業経営体が存在し、圏域全他のおよそ3割（33.4%）を占めており、津山市（14.7%）・真庭市（13.7%）が続いている。
- 農業就業者数も農業経営体と同様に岡山市が最も多いが、対県の特化係数をみても0.58と低い水準となっている。対県の特化係数が1以上であるのは、岡山市・玉野市・備前市・早島町を除く5市4町であり、特に久米南町（6.09）、吉備中央町（5.03）、美咲町（3.75）、真庭市（2.97）と数値が高く、これら市町において農業は雇用面で重要な産業となっている。

□ 岡山都市圏の農業経営体数（2010年）

地域	経営体数	経営体数割合 (対県)
岡山県全域	40,563	
岡山都市圏	25,010	61.7%
(市町内内訳)		経営体数割合 (対都市圏)
1 岡山市	8,344	33.4%
2 津山市	3,676	14.7%
3 真庭市	3,432	13.7%
4 総社市	1,769	7.1%
5 赤磐市	1,635	6.5%
6 吉備中央町	1,489	6.0%
8 瀬戸内市	1,264	5.1%
7 美咲町	1,169	4.7%
9 和気町	644	2.6%
10 久米南町	586	2.3%
11 玉野市	460	1.8%
12 備前市	413	1.7%
13 早島町	129	0.5%

□ 岡山都市圏の農業就業者数（2010年）

地域	農業就業者数 (人)	特化係数(対県)
岡山県全域	40,416	-
岡山都市圏	24,442	0.99
(市町別内訳)		
1 岡山市	8,703	0.58
2 真庭市	3,159	2.97
3 津山市	2,760	1.22
4 赤磐市	1,891	2.05
5 瀬戸内市	1,527	1.92
6 総社市	1,482	1.05
7 吉備中央町	1,375	5.03
8 美咲町	1,195	3.75
9 久米南町	714	6.09
10 玉野市	684	0.52
11 和気町	454	1.54
12 備前市	404	0.54
13 早島町	94	0.38

出所：総務省「国勢調査」(2010年)、農林水産省「農林業センサス」(2010年)

(注1)「農業経営体」は農林産物の生産を行うか又は委託を受けて農林業作業を行う経営体であり、生産又は作業に係る面積・頭数が、一定の水準以上に達している経営体を指す。

(注2)特化係数とは、産業・就業者等の構成比を全国や県等の構成比と比較した係数で、産業の特徴などを分析する際に利用します。(例：対県の特化係数＝〇〇市の〇〇産業構成比÷県の〇〇産業構成比)。特化係数が1よりも大きい産業は、その産業の構成比が国や県等の水準を上回っていることを意味する

3. 基盤産業の動向 【農業】 農業経営体

- 圏域内には、岡山県内の「稲作」を主力部門とする経営体27,896経営体のうち63.2%にあたる17,627経営体が存在している。加えて、県内の「露地・施設野菜」及び「雑穀・いも類・豆類」についても、県内の経営体の半数以上が存在している。
- 岡山都市圏は、農業県である岡山県において、各種の農業生産を牽引する地域であるといえる。

□ 岡山都市圏内の主要農業経営部門の経営体数と市町別の構成比（2010年）

	稲作	果樹類	野菜 (露地・施設)	雑穀 いも類・豆類	花き・花木
岡山県全域	27,896	2,746	1,365	343	332
岡山都市圏	17,627 63.2%	1,318 48.0%	781 57.2%	192 56.0%	150 45.2%
(市町村別)					
岡山市	32.4%	51.3%	38.9%	7.8%	34.7%
津山市	17.1%	1.4%	7.3%	14.6%	11.3%
真庭市	13.1%	7.7%	12.7%	30.2%	19.3%
総社市	7.2%	6.8%	4.4%	8.9%	2.0%
赤磐市	5.4%	15.8%	4.2%	8.9%	4.7%
美咲町	5.3%	3.4%	2.0%	6.3%	3.3%
吉備中央町	5.3%	4.3%	2.0%	12.0%	6.7%
瀬戸内市	4.8%	3.3%	21.3%	4.2%	4.7%
和気町	3.0%	1.0%	1.2%	1.0%	2.0%
久米南町	2.4%	1.7%	2.2%	3.1%	2.0%
備前市	1.9%	2.0%	0.5%	-	2.0%
玉野市	1.5%	1.1%	3.2%	3.1%	7.3%
早島町	0.6%	0.2%	0.1%	-	-

単位：戸

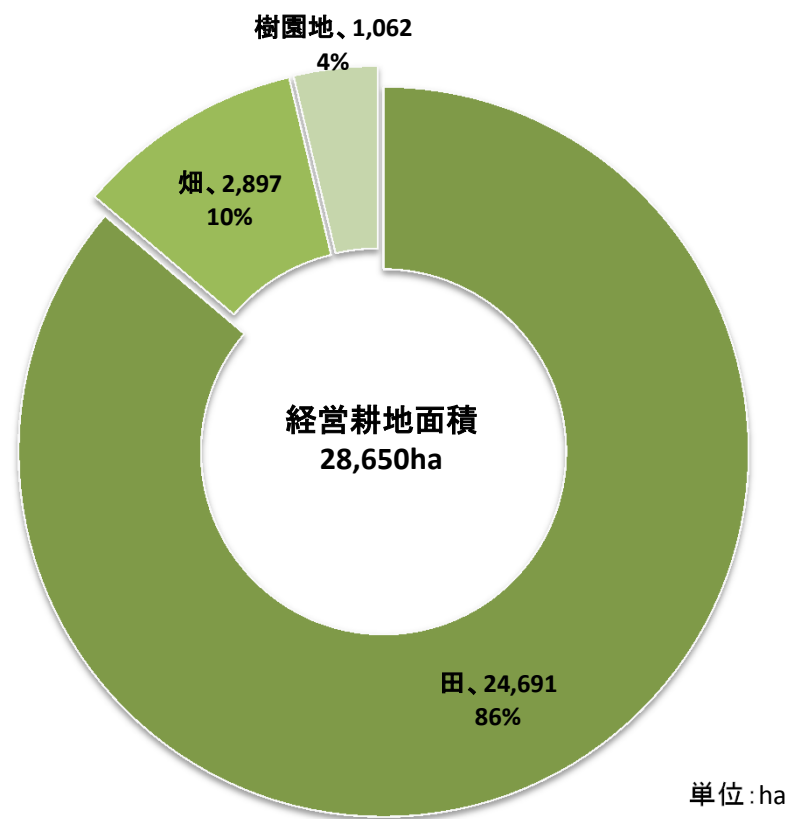
3. 基盤産業の動向 【農業】 農地

- 経営耕地面積（農業経営体が経営している耕地）で見ると、岡山都市圏は、岡山県の耕地面積の66.6%を占めている。
- 圏域内では、岡山市・津山市の経営耕地面積は、2市で全体の49.5%と半数を占めており、圏域内の農業生産の中心地となっている。
- 圏域内の経営耕地面積の状況としては、田が86%、畑が10%、樹園地が4%であり、圏域の農業生産全体では稲作が中心となっている。

□ 圏域内農業経営体の経営耕地面積

地域	経営耕地面積	経営耕地面積割合 (対県)	
岡山県全域	43,032	-	
岡山都市圏	28,650	66.6%	
(市町別内訳)		経営耕地面積割合 (対圏域)	
1	岡山市	10,177	35.5%
2	津山市	4,000	14.0%
3	真庭市	3,962	13.8%
4	瀬戸内市	1,852	6.5%
5	赤磐市	1,814	6.3%
6	吉備中央町	1,670	5.8%
7	総社市	1,628	5.7%
8	美咲町	1,221	4.3%
9	久米南町	690	2.4%
10	和気町	585	2.0%
11	玉野市	553	1.9%
12	備前市	356	1.2%
13	早島町	142	0.5%

□ 圏域内の経営耕地面積の状況



3. 基盤産業の動向 【農業】 耕作放棄地

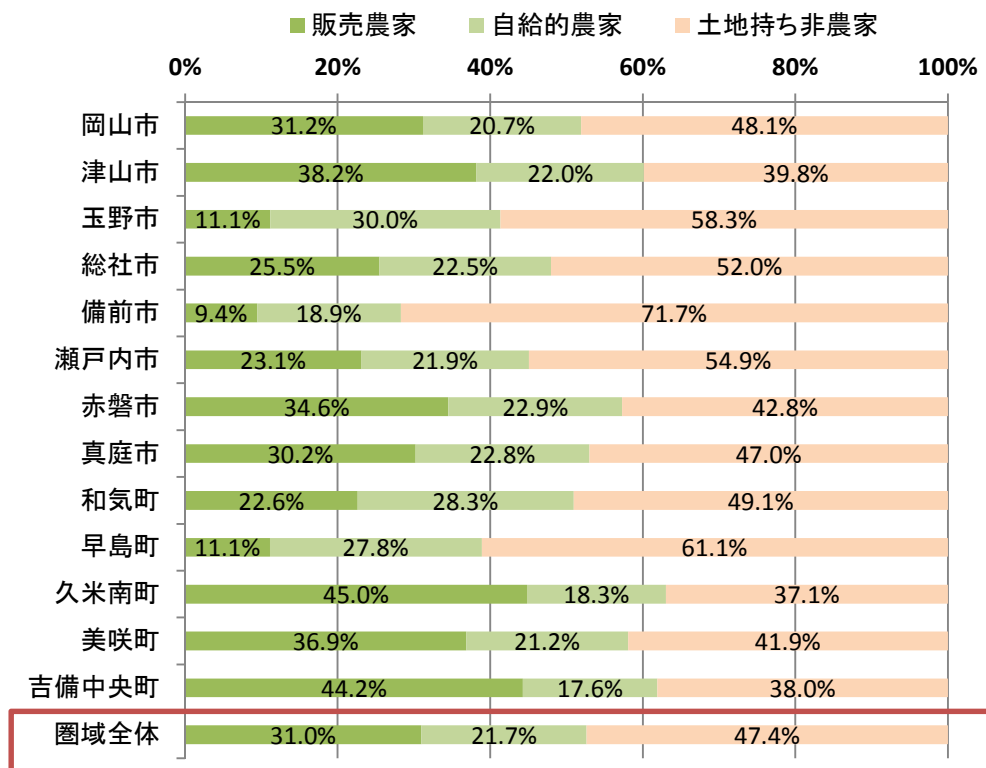
- 耕作放棄地※面積で見ると、岡山都市圏には、岡山県全域に存在する耕作放棄地面積の約5割（48.6%）の耕作放棄地が存在する。特に岡山市・真庭市・津山市の3市の耕作放棄地面積は、圏域全体における耕作放棄地面積のおよそ5割（51.1%）に及ぶ。
- 圏域全体の耕作放棄地所有農家のうち、約半数（47.4%）が土地持ち非農家である。また、備前市・早島町・玉野市・瀬戸内市・総社市の4市1町では、耕作放棄地の所有農家が土地持ち非農家である割合が特に高くなっており、これら農地としての機能の維持・存続は危うい状況にあると考えられる
※以前耕作していた土地で、過去1年以上作物を作付け（栽培）せず、この数年の間に再び作付け（栽培）する意思のない土地をいう。

□ 圏域内の耕作放棄地面積

地域	耕作放棄地面積	耕作放棄地面積割合 (対県)
岡山県全域	11,075	-
岡山都市圏	5,387	48.6%
(市町別内訳)		耕作放棄地面積割合 (対圏域)
1 岡山市	1,321	24.5%
2 真庭市	817	15.2%
3 津山市	615	11.4%
4 瀬戸内市	415	7.7%
5 美咲町	396	7.4%
6 吉備中央町	387	7.2%
7 赤磐市	341	6.3%
8 総社市	271	5.0%
9 備前市	265	4.9%
10 久米南町	202	3.7%
11 玉野市	180	3.3%
12 和気町	159	3.0%
13 早島町	18	0.3%

単位：ha

□ 所有者別の圏域内耕作放棄地面積および割合



注：農家とは、経営耕地面積が10アール以上の農業を行う世帯又は過去1年間における農産物販売金額が15万円以上の規模の農業を行う世帯をいう。

販売農家とは、経営耕地面積が30a以上又は調査期日前1年間における農産物販売金額が50万円以上の農家をいう。

自給的農家とは、経営耕地面積が30a未満かつ調査期日前1年間における農産物販売金額が50万円未満の農家をいう。

土地持ち非農家とは、農家以外で耕地及び耕作放棄地を5a以上所有している世帯をいう。

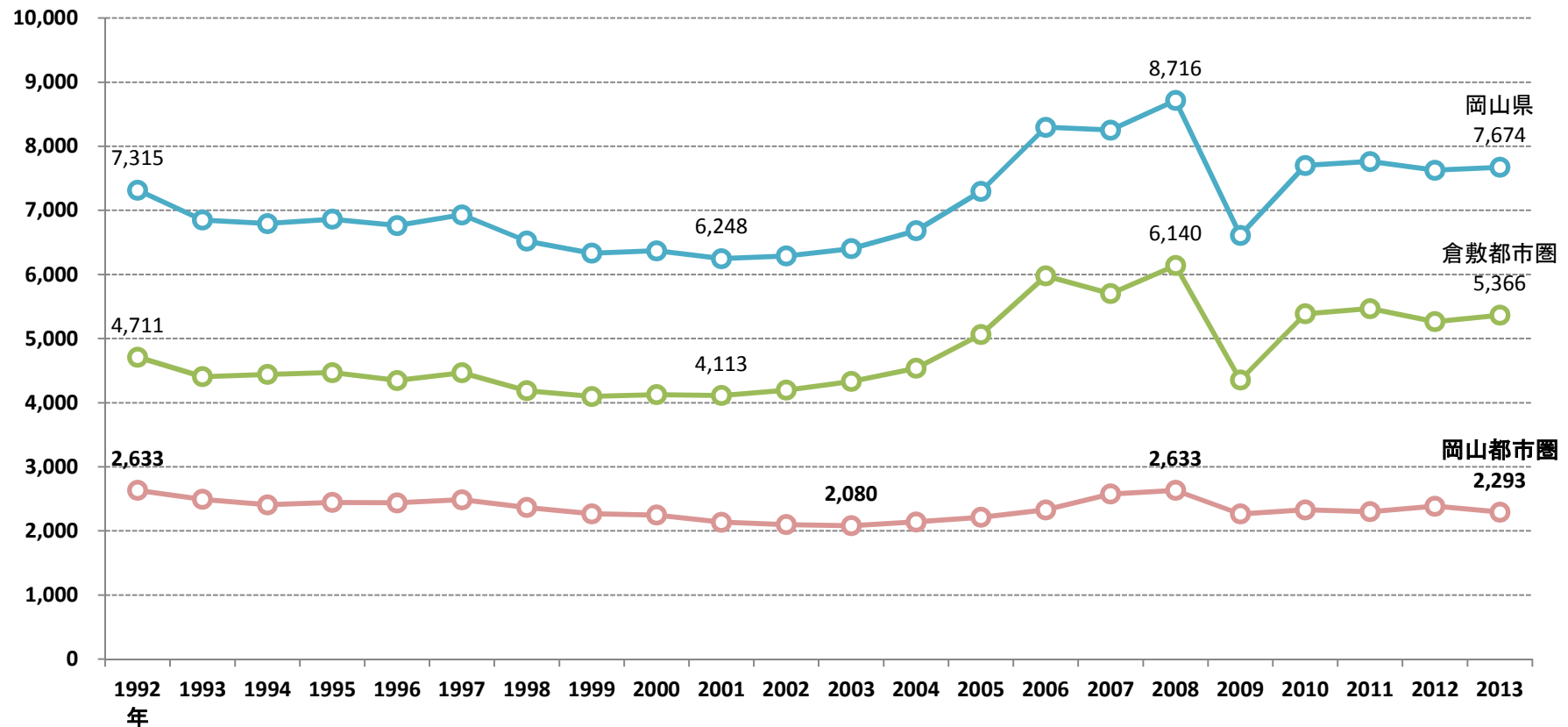
3. 基盤産業の動向

【製造業】長期推移：製造品出荷額等

- 岡山県の製造品出荷額は1992年の7.3兆円から2001年の6.2兆円まで減少傾向にあった。その後、2008年の8.7兆円まで回復・増加したが、同年の米国投資銀行の破たんに端を発した世界金融危機により2009年は大幅に出荷額を減らし、2013年は7.6兆円と金融危機前の水準まで回復した。
- 岡山都市圏の製造業は県の約3割のシェア（製造品出荷額等ベース）となっている。1992年から2013年までを通してみても、2.0兆～2.6兆円を維持しており、岡山県や倉敷都市圏と比べて世界金融危機によるダメージは少なかったといえる。
- 倉敷都市圏の製造業は県の約7割のシェアを有し、2004年以降の製造品出荷額は岡山都市圏の2倍以上となっている。

□ 製造品出荷額等の推移（岡山県・岡山都市圏・倉敷都市圏）

(十億円)

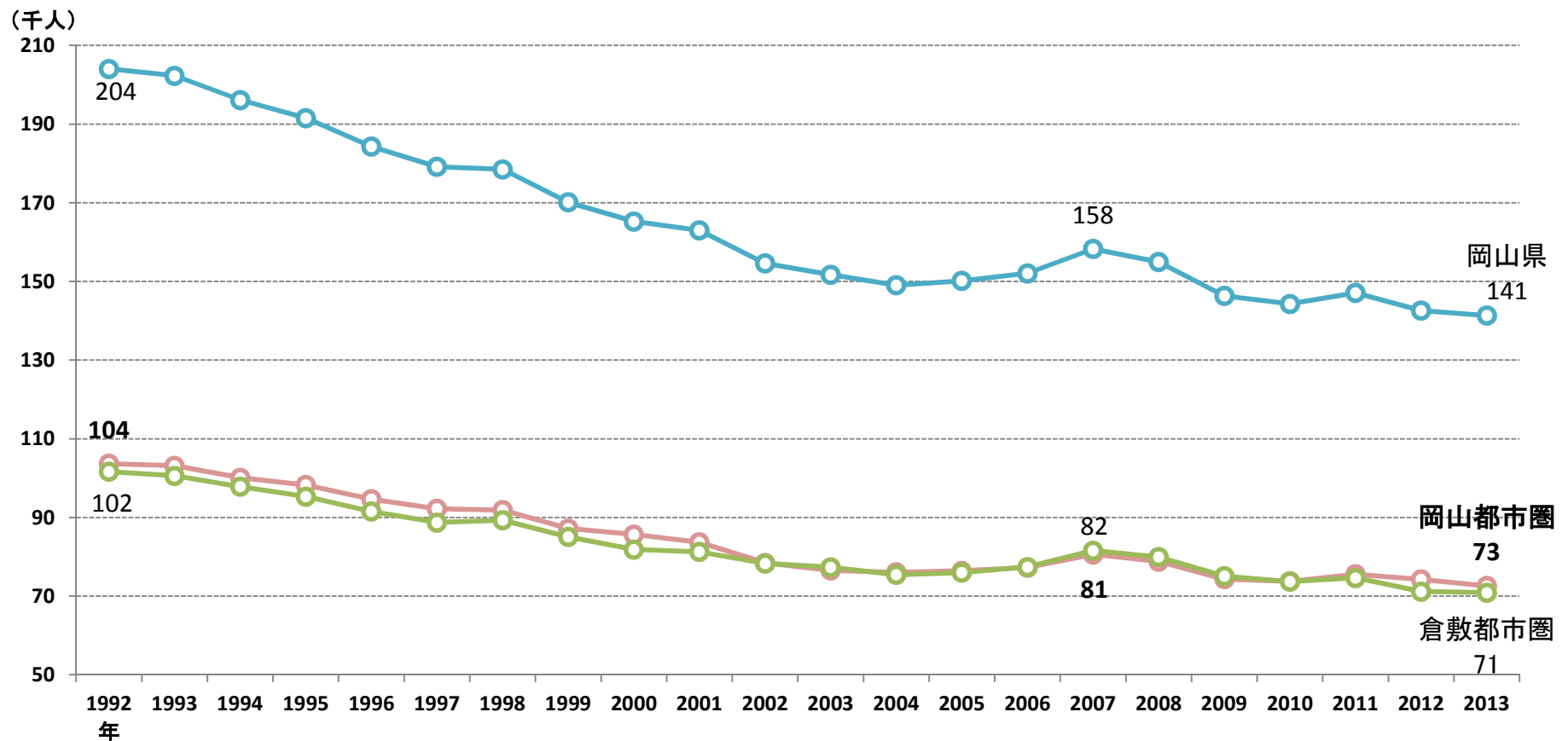


3. 基盤産業の動向

【製造業】長期推移：製造業従事者数

- 岡山県の製造業従事者数は1992年の20.4万人から、2000年代前半にやや増加が見られたものの、2013年には14.1万人と、この約20年間で31%の減少となっている。
- 岡山都市圏も倉敷都市圏も岡山県とほぼ同様の傾向であり、両都市圏とも1992年と比べて30%の減少となっている。

□ 製造業従事者数の推移（岡山県・岡山都市圏・倉敷都市圏）

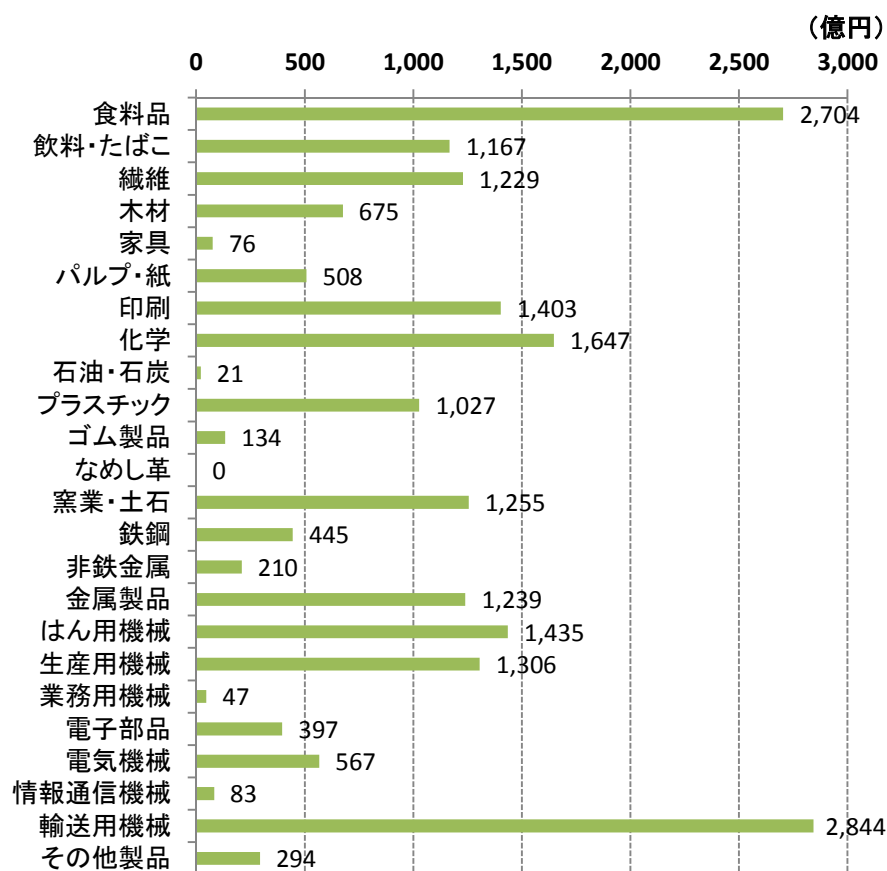


3. 基盤産業の動向

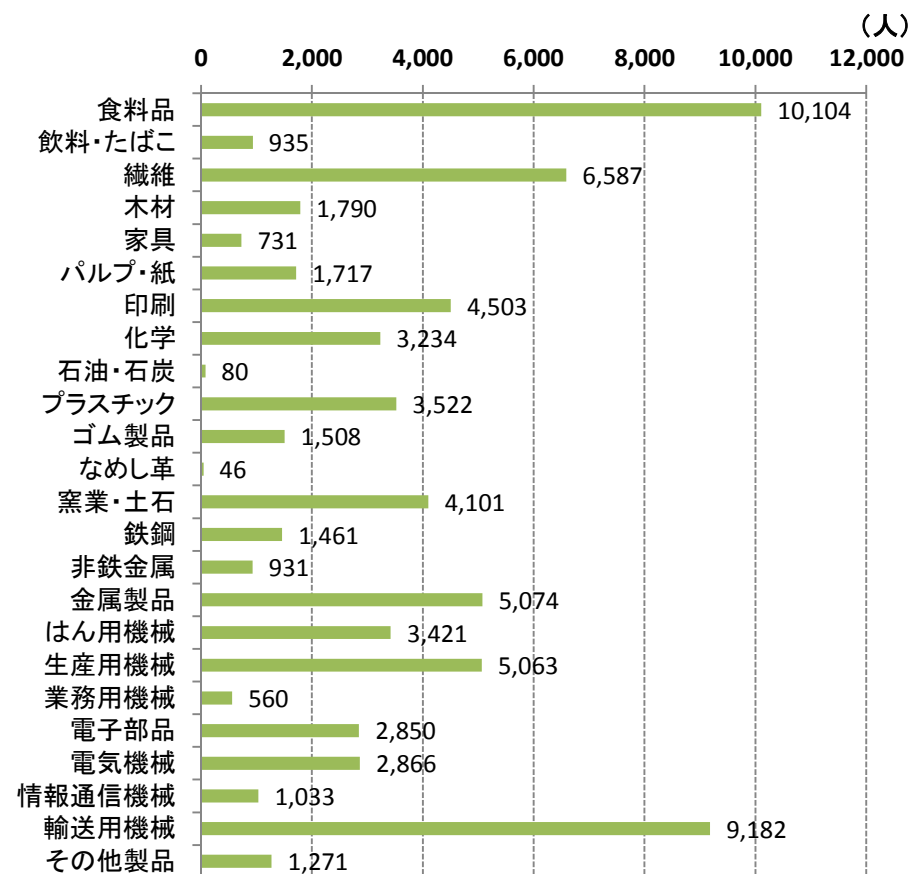
【製造業】 製造業の産業構造

- 製造業の構造は、製造品出荷額ベースでは「輸送用機械」「食料品」がそれぞれ2,000億円超であり高いウェイトを誇る。その他には「化学」「印刷」「生産用機械」「はん用機械」「窯業・土石」「金属製品」「繊維」「飲料・たばこ」「プラスチック」が1,000億円超となっている。
- 従事者数で見ると、各業種とも製造品出荷額の規模と同程度の従事者数の規模となっている。最も従事者数が多い業種は「食料品」で10,104人である。

□ 製造業出荷額等の業種別構成



□ 製造業従事者数の業種別構成



出所：経済産業省「工業統計調査」(2013年)

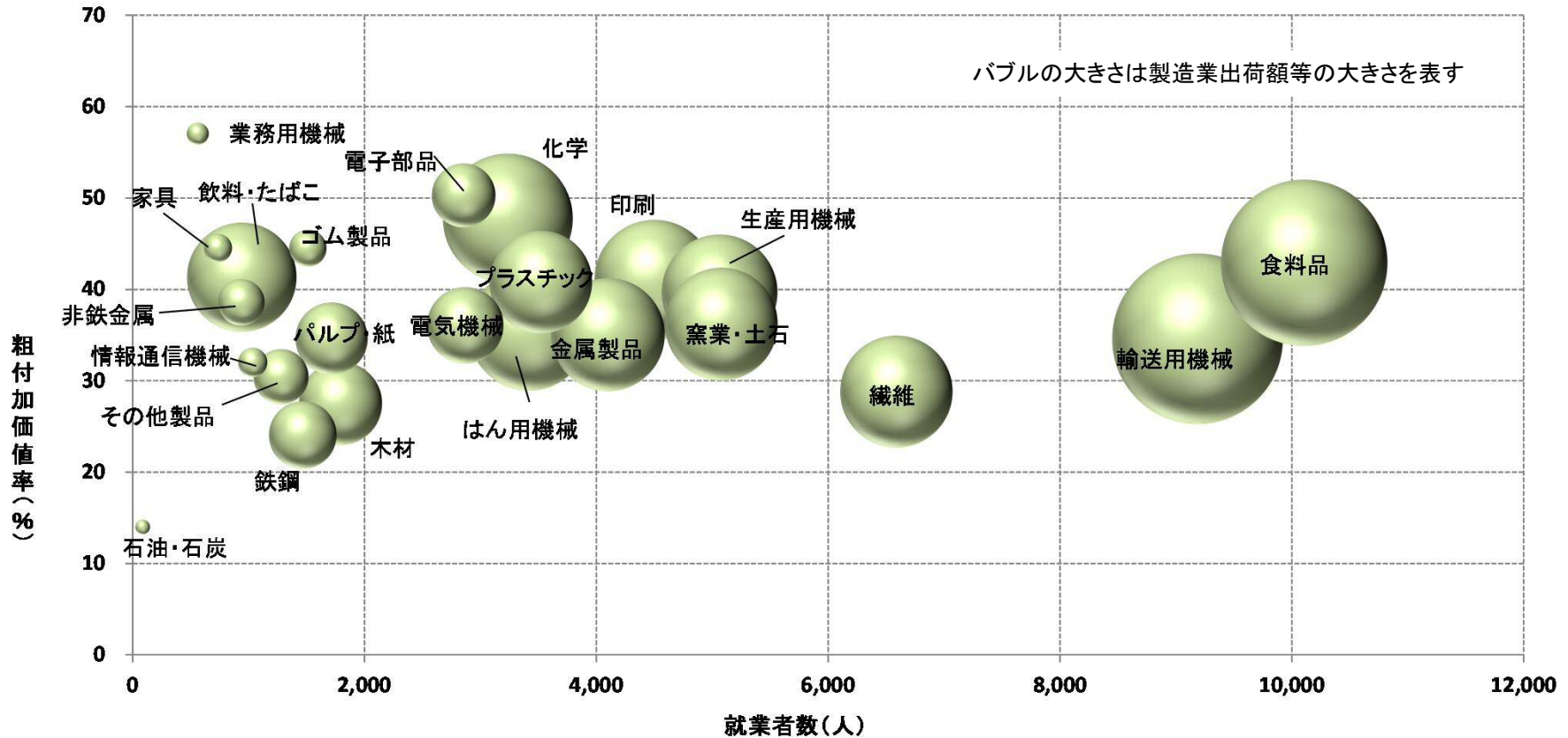
(注) 製造業出荷額等は、各市町及び各産業の調査結果に秘匿値があるため、全事業所の合計値とはなっていない。

3. 基盤産業の動向

【製造業】製造業の産業構造

- 岡山都市圏の製造業の業種別に雇用吸引力と稼ぐ力を視覚化すると、「食料品」「輸送用機械」の存在感が大きいことがみて取れる。
- 「食料品」は大手食品メーカーの製造工場がある岡山市・総社市が、「輸送用機械」は造船が盛んな玉野市、自動車部品製造工場が多く立地している総社市が製造品出荷額において高い割合を占めている（詳しい内容は後述）。

□ 製造業業種別の雇用吸引力・稼ぐ力（製造業事業所の製造業出荷額等・業務従事者・付加価値率に関するバブルチャート）



出所: 工業統計調査(2013年)

(注)「粗付加価値率」は、「粗付加価値額」を「製造品出荷額等」で除したものである。「粗付加価値額」は、製造業出荷額から消費税等の租税と原材料使用額等を引いたものであり、事業所の収益・従事者の給与・消費税以外の租税等の事業活動から生み出された付加価値の合計を表す。したがって、「付加価値率」が高いほど、地域にお金を落とす確率が高い(稼ぐ力が高い)といえる。

□ 岡山都市圏の製造業の基礎データ（製造品出荷額等が多い順に業種を並び替え）

	事業所数		就業者数		製造品出荷額等		粗付加価値額		粗付加価値率
	(事業所)	構成比	(人)	構成比	(億円)	構成比	(億円)	構成比	
都市圏計	1915		72,570		22,932		8,726		
輸送用機械	130	6.8	9,182	12.7	2,844	12.4	984	11.3	34.6
食料品	215	11.2	10,104	13.9	2,704	11.8	1,161	13.3	42.9
化学	58	3.0	3,234	4.5	1,647	7.2	787	9.0	47.8
はん用機械	58	3.0	3,421	4.7	1,435	6.3	510	5.8	35.6
印刷	127	6.6	4,503	6.2	1,403	6.1	576	6.6	41.1
生産用機械	167	8.7	5,063	7.0	1,306	5.7	519	5.9	39.7
窯業・土石	184	9.6	4,101	5.7	1,255	5.5	440	5.0	35.1
金属製品	204	10.7	5,074	7.0	1,239	5.4	449	5.1	36.2
繊維	191	10.0	6,587	9.1	1,229	5.4	354	4.1	28.8
飲料・たばこ	36	1.9	935	1.3	1,167	5.1	483	5.5	41.3
プラスチック	94	4.9	3,522	4.9	1,027	4.5	420	4.8	40.8
木材	81	4.2	1,790	2.5	675	2.9	186	2.1	27.5
電気機械	52	2.7	2,866	3.9	567	2.5	205	2.3	36.1
パルプ・紙	38	2.0	1,717	2.4	508	2.2	176	2.0	34.6
鉄鋼	53	2.8	1,461	2.0	445	1.9	107	1.2	24.1
電子部品	25	1.3	2,850	3.9	397	1.7	199	2.3	50.3
その他製品	60	3.1	1,271	1.8	294	1.3	89	1.0	30.5
非鉄金属	20	1.0	931	1.3	210	0.9	81	0.9	38.6
ゴム製品	31	1.6	1,508	2.1	134	0.6	60	0.7	44.5
情報通信機器	8	0.4	1,033	1.4	83	0.4	27	0.3	32.0
家具	49	2.6	731	1.0	76	0.3	34	0.4	44.5
業務用機械	18	0.9	560	0.8	47	0.2	27	0.3	57.1
石油・石炭	11	0.6	80	0.1	21	0.1	3	0.0	14.0
なめし革	5	0.3	46	0.1	0	0.0	0	0.0	-

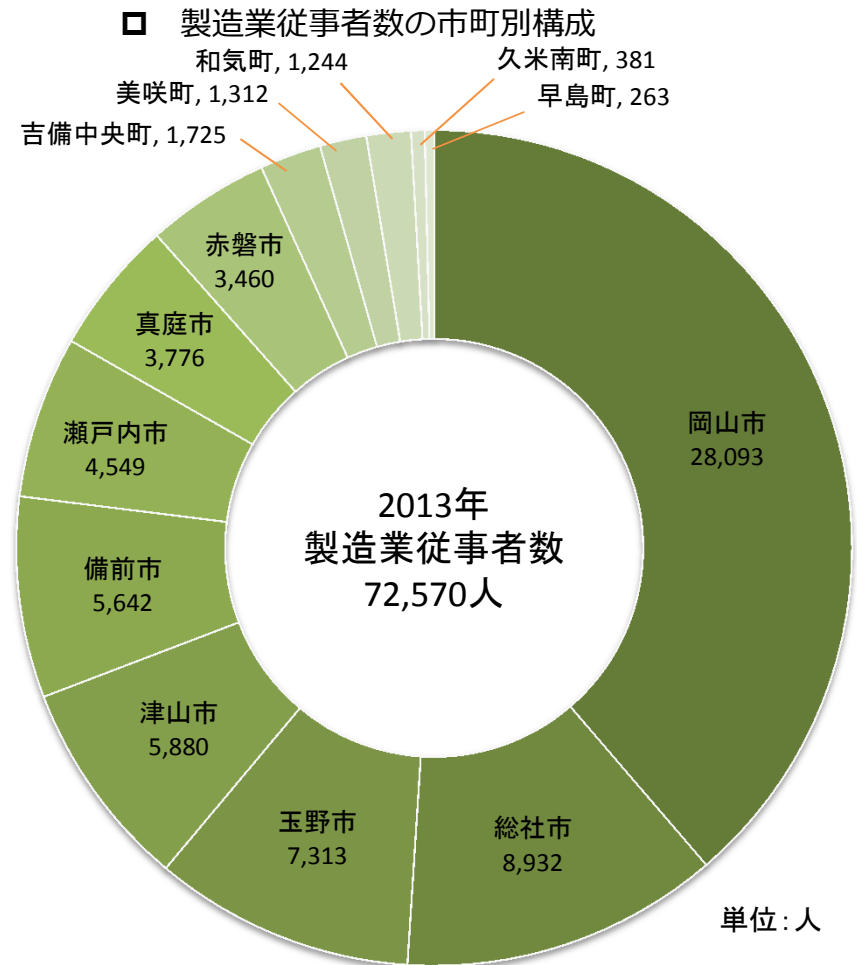
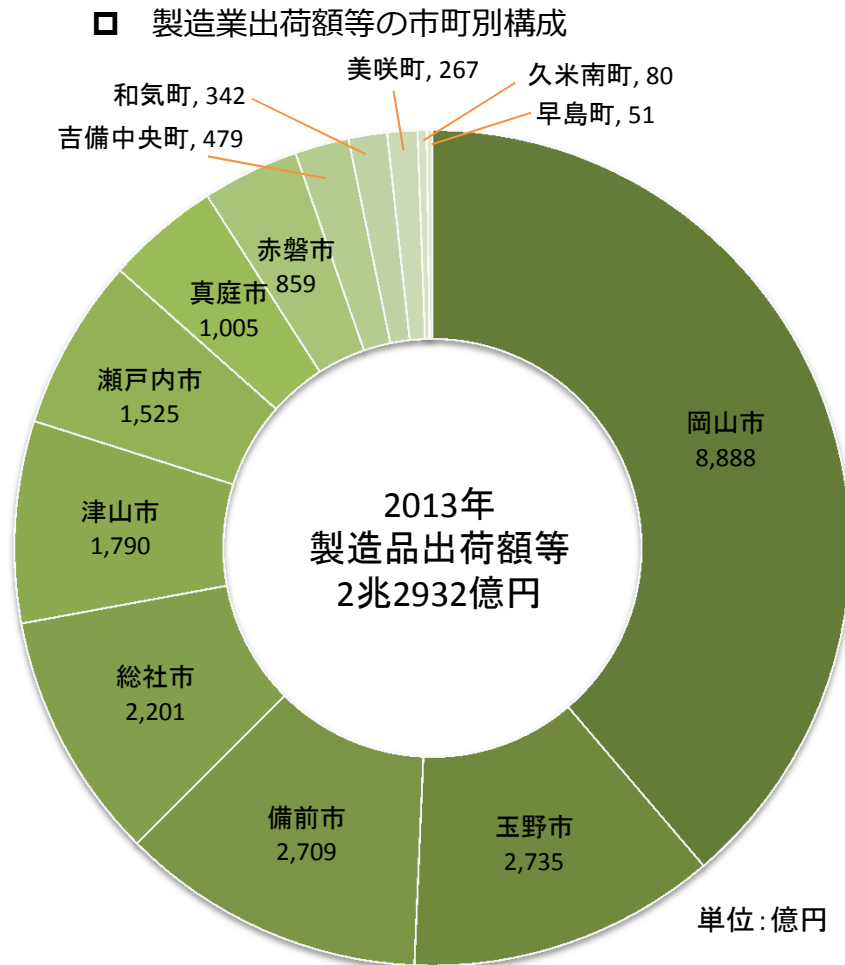
出所：工業統計調査（2013年）

（注）「製造品出荷額」「粗付加価値額」は、各市町及び各産業の調査結果に秘匿値があるため、各業種の全事業所の合計値とはならないため、各業種の合計は都市圏の合計と一致しない。

3. 基盤産業の動向

【製造業】製造業の地域別構成①

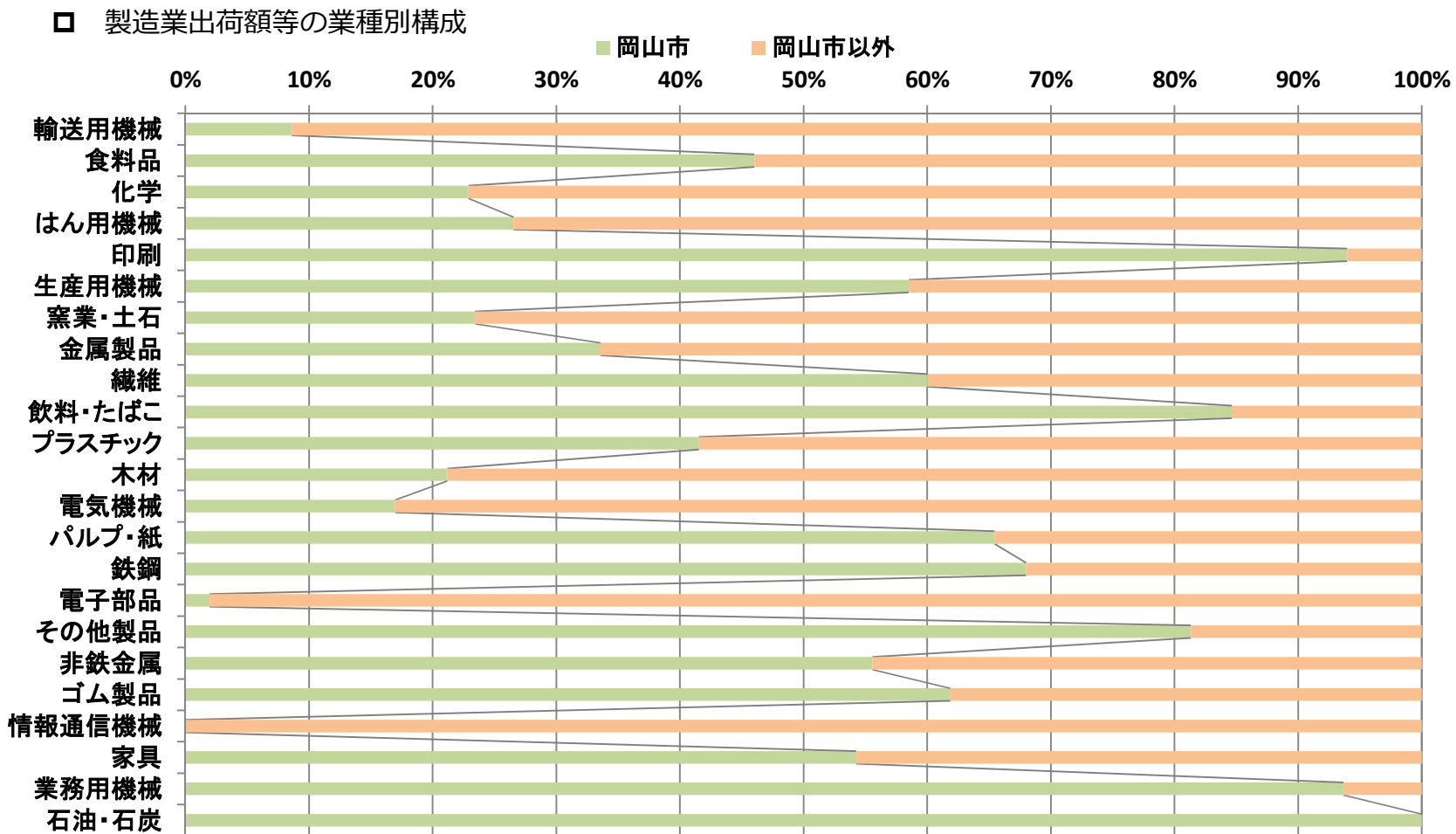
- 製造業の地域構成は、圏域内の製造品出荷額2.3兆円のうち39%を岡山市が占めている。従業者も出荷額同様に39%が岡山市に集中している。
- 製造業出荷額ベースで岡山市に次ぐのが玉野市・備前市・総社市である。玉野市は輸送用機械、備前市は窯・土石、総社市は輸送用機械・食料品といった製造業の特性を有している。



3. 基盤産業の動向

【製造業】 製造業の地域別構成②

- 圏域内の製造業各業種のうち、「輸送用機械」「食料品」「化学」「はん用機器」「窯業・土石」「金属製品」は製造品出荷額が1,000億円以上であり、かつ、岡山市以外の市町が50%以上の高いシェアを有している。
- 岡山市以外の市町の中でどの市町が高いシェアを占めているかは後述する。

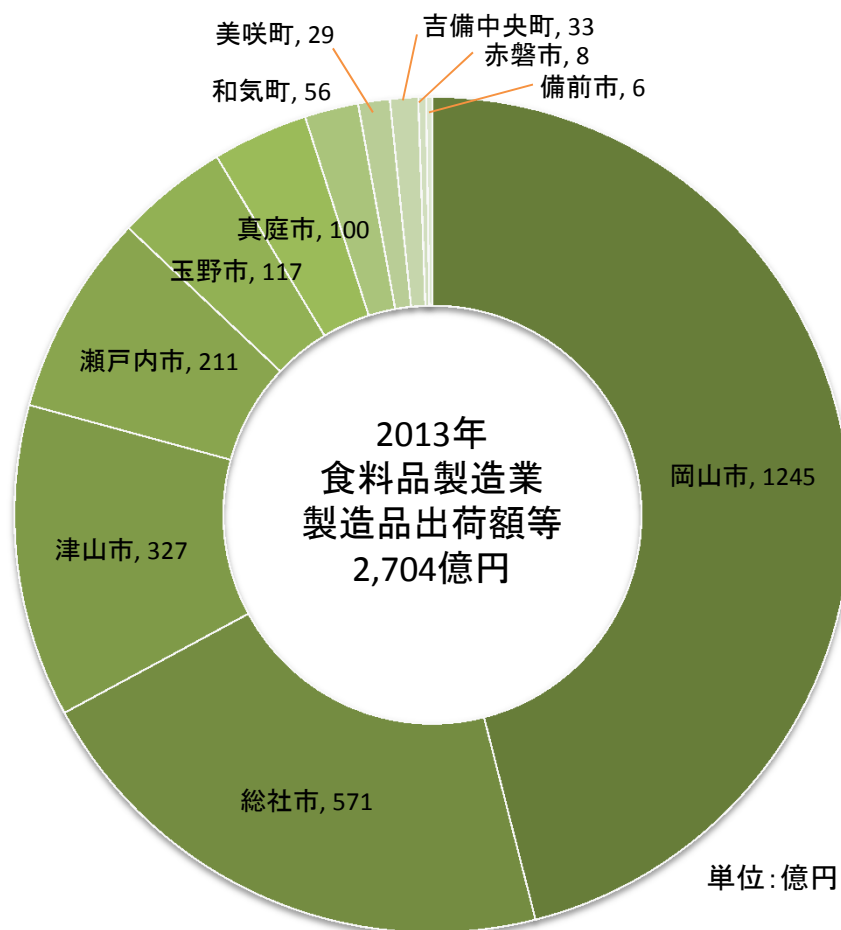


3. 基盤産業の動向

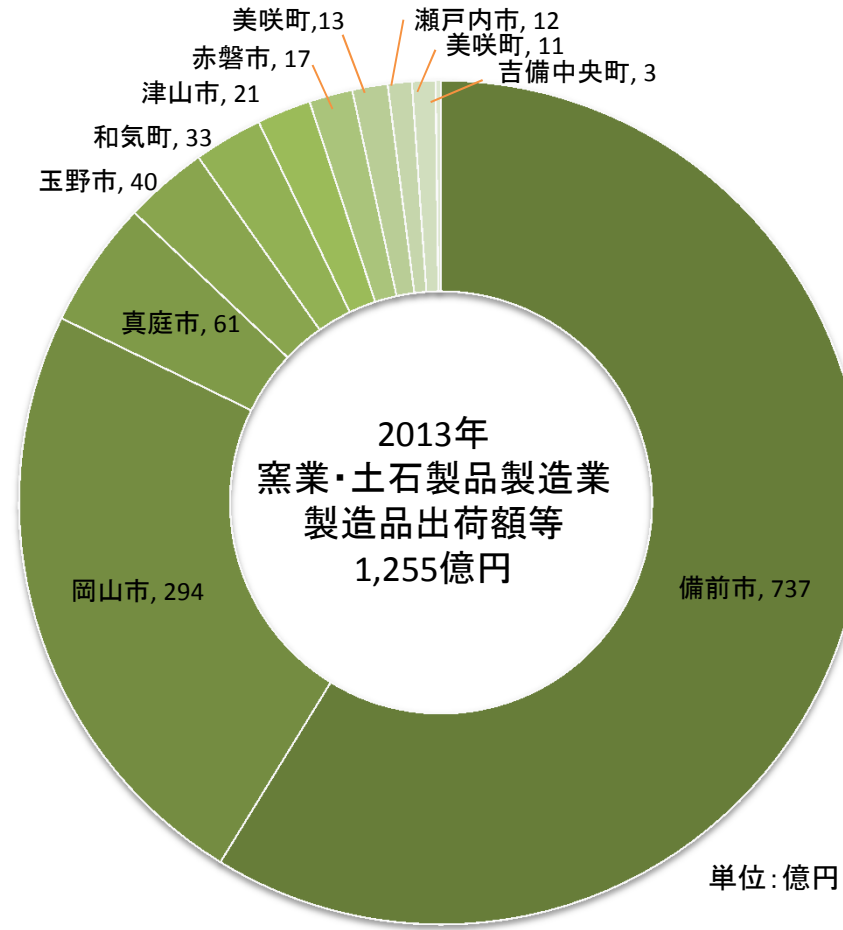
【製造業】製造業の地域別構成③

- 食料品製造業では、圏域内の製造品出荷額等2,704億円のうち46%を岡山市が占め、次いで大手水産練り製品を主体とした総合加工食品の製造拠点がある総社市（571億円、21%）、津山市（327億円、12%）と続く。
- 窯業・土石製品製造業では、圏域内の製造業出荷額等1,255億円のうち、耐火物（セラミック・煉瓦等）製造工場の集積地である備前市が59%を占める737億円を産出している。

□ 食料品製造業の製造品出荷額等の市町別構成



□ 窯業・土石製品製造業の製造品出荷額等の市町別構成



出所: 工業統計調査(2013年)

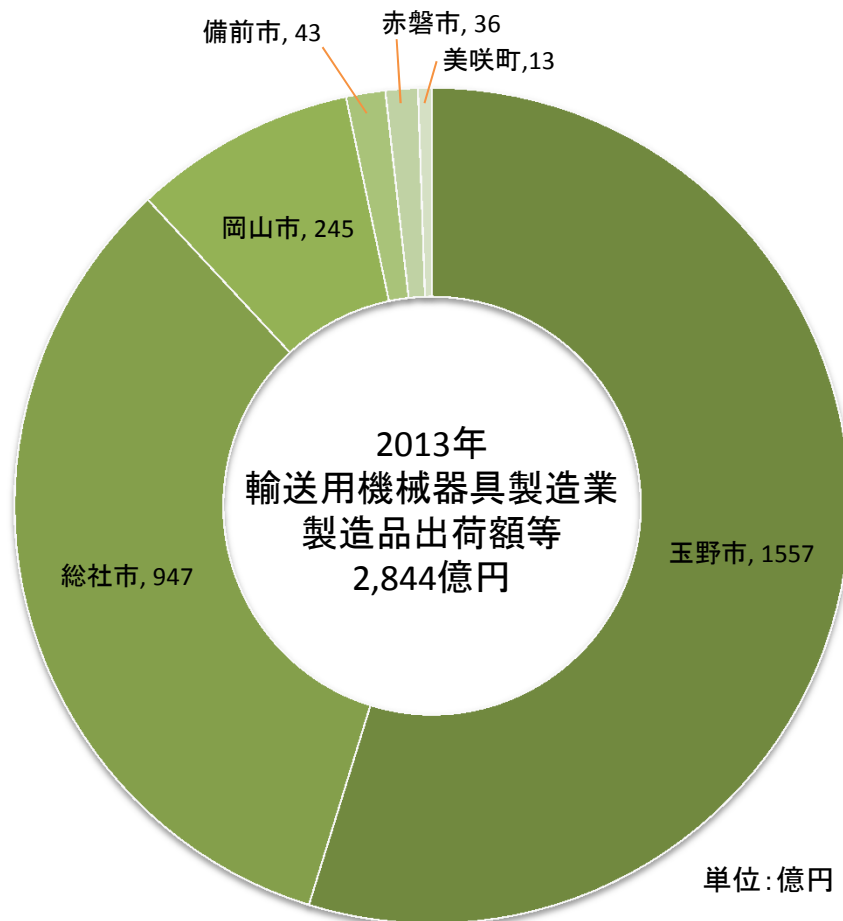
(注) 上記数値は、各市町及び各産業の調査結果に秘匿値があるため、各業種の全事業所の合計値とはなっていない。

3. 基盤産業の動向

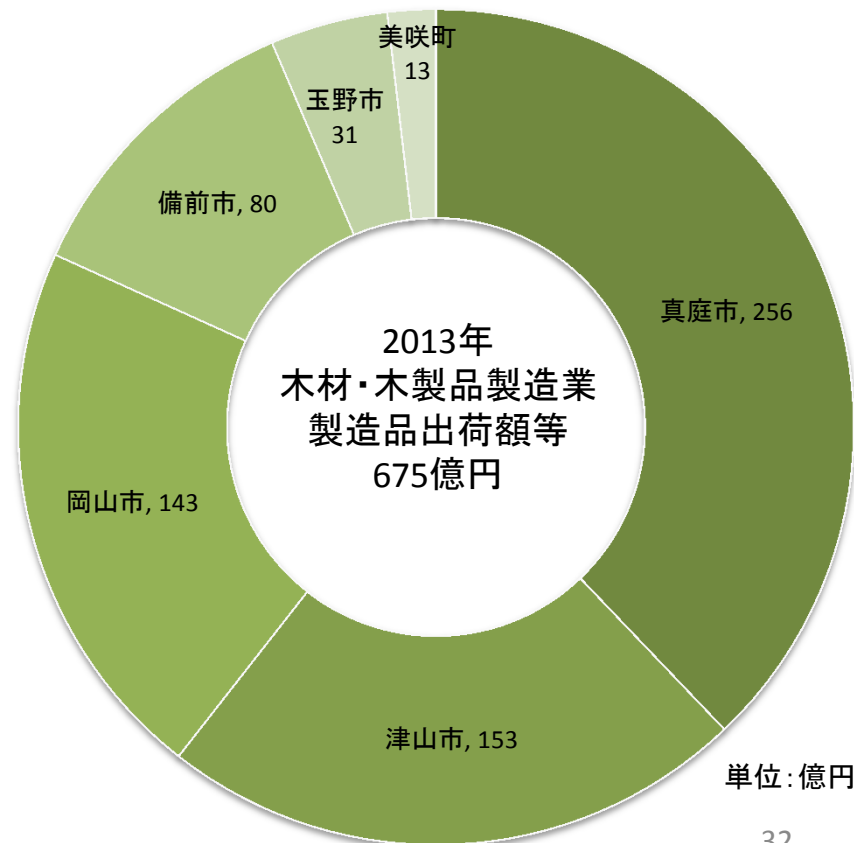
【製造業】製造業の地域別構成④

- 輸送用機械器具製造業では圏域内の製造品出荷額2,844億円のうち、造船が盛んな玉野市が1,557億円で全体の55%のシェアを有する。次いで自動車部品・産業機器車両部品製造工場が多くある総社市が947億円で33%のシェアを有している。
- 木材・木製品製造業では、大手製材会社が立地する真庭市が256億円で38%のシェアを有している。

□ 輸送用機械器具製造業の製造品出荷額等の市町別構成



□ 木材・木製品製造業の製造品出荷額等の市町別構成



出所: 工業統計調査(2013年)

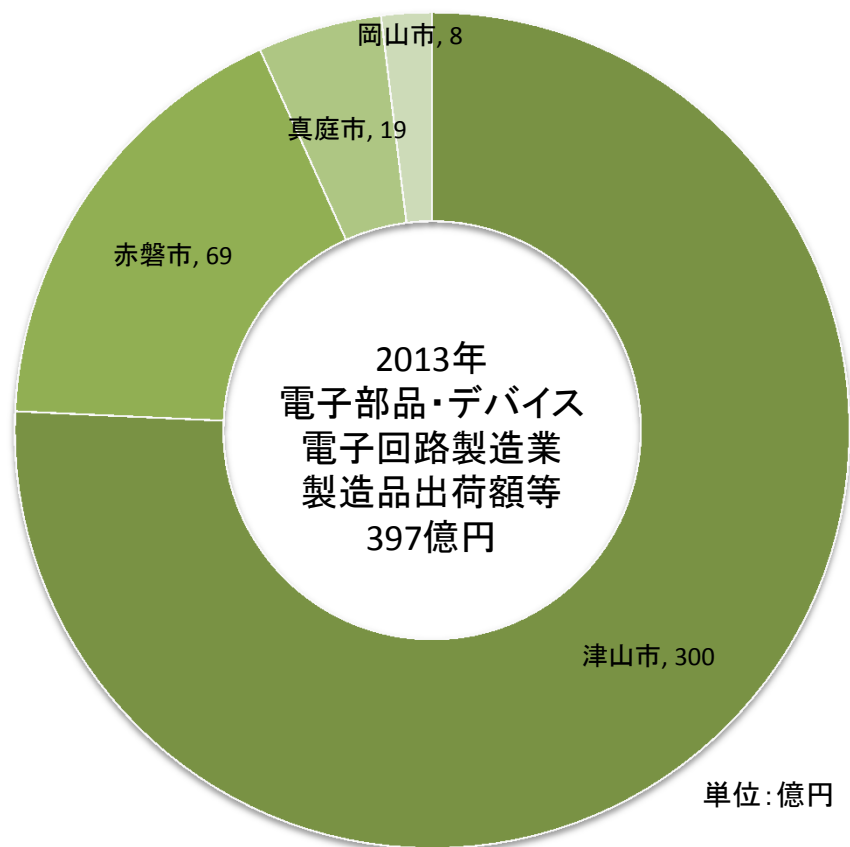
(注) 上記数値は、各市町及び各産業の調査結果に秘匿値があるため、各業種の全事業所の合計値とはなっていない。

3. 基盤産業の動向

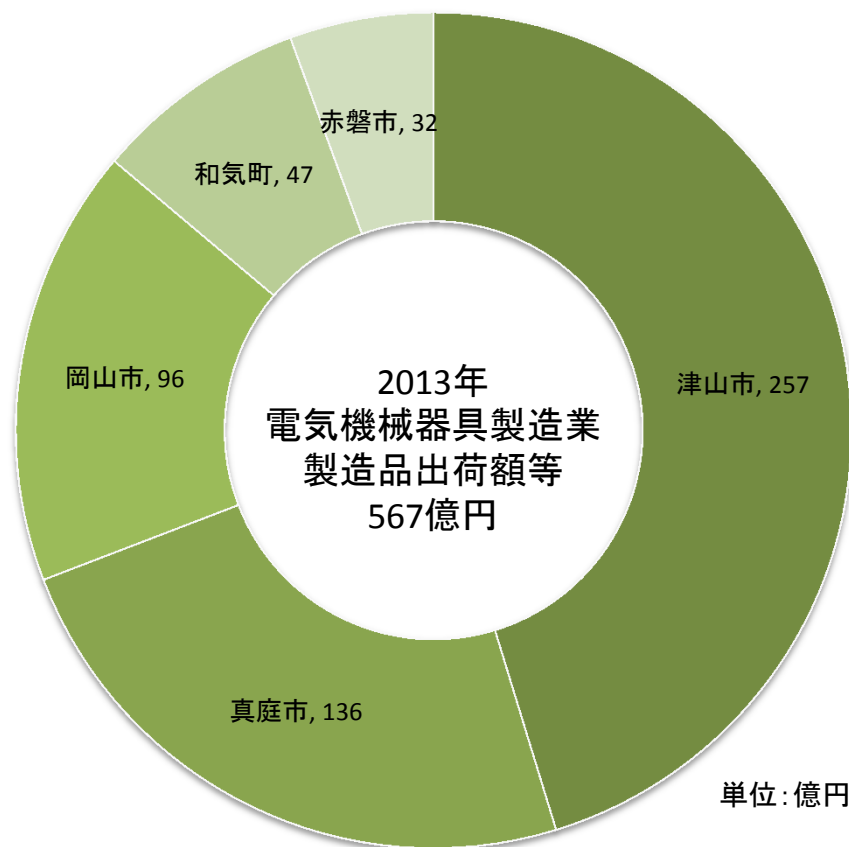
【製造業】 製造業の地域別構成⑤

- 電子部品・デバイス・電子回路製造業では圏域内の製造品出荷額等397億円のうち、大手電機メーカーのBlu-ray・DVD等の製造を行う工場が立地する津山市が76%（300億円）を占めている。
- 電気機械器具製造業では、大手電気機械器具メーカーの工場が立地する津山市が45%（257億円）を占めている。

□ 電子部品・デバイス・電子回路製造業の製造品出荷額等の市町別構成



□ 電気機械器具製造業の製造品出荷額等の市町別構成



出所: 工業統計調査(2013年)

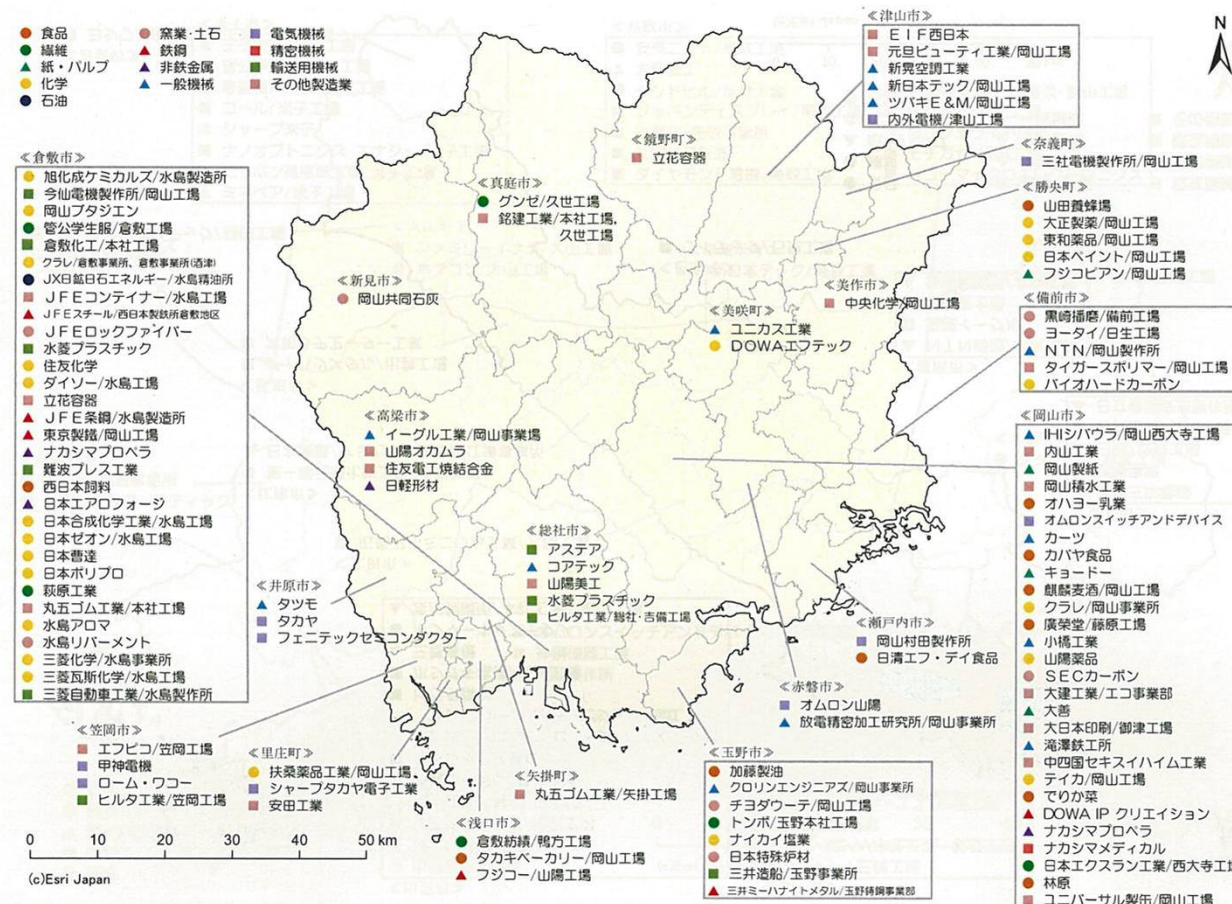
(注) 上記数値は、各市町及び各産業の調査結果に秘匿値があるため、各業種の全事業所の合計値とはなっていない。

3. 基盤産業の動向

【製造業】製造業の地域別構成⑥

- これまで見た都市圏内市町村の製造業の特徴が発現する背景となる主要な製造業の製造拠点は以下のような立地状況となっている。
- 岡山・倉敷には多様な企業の集積が見られることが分かる。

□ 岡山県内の主要製造業の工場立地状況



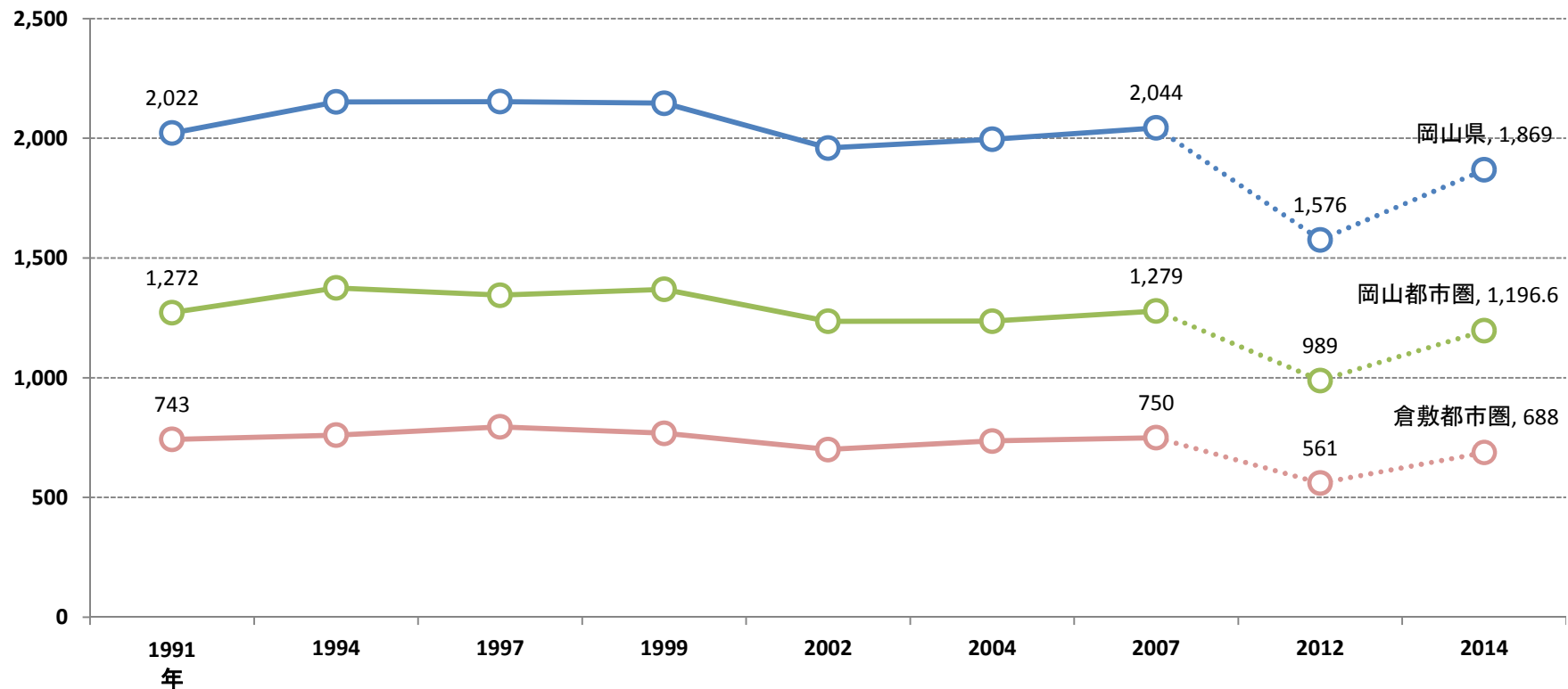
出所：(株)日本政策都市銀行中国支店「中国ハンドブック」(2015年度)

3. 基盤産業の動向 【商業】長期推移：年間商品販売額

- 岡山県の商品販売額は1991年の2兆220億円から2007年の2兆440億円まで多少のアップダウンはあるものの、ほぼ2兆円前後で推移している。2014年は1兆8,690億円であった。
- 岡山都市圏の2014年の商品販売額は1兆1970億円であり、県内の商品販売額の64%を占めている。一方、倉敷都市圏の2014年の商品販売額は6880億円であり、県全体の37%である。
- 岡山・倉敷両都市圏は岡山県下で商業をけん引する2地域であるが、岡山都市圏が倉敷都市圏の1.7倍の市場規模を有している。

□ 年間商品販売額（小売）の推移（岡山県・岡山都市圏・倉敷都市圏）

（十億円）



出所：経済産業省「商業統計調査」（1991～2007年、2014年）・「経済センサス活動調査」（2012年）

（注1）上記数値は、一部地域の調査結果に秘匿値があるため、全事業所の合計値とはなっていない場合がある。

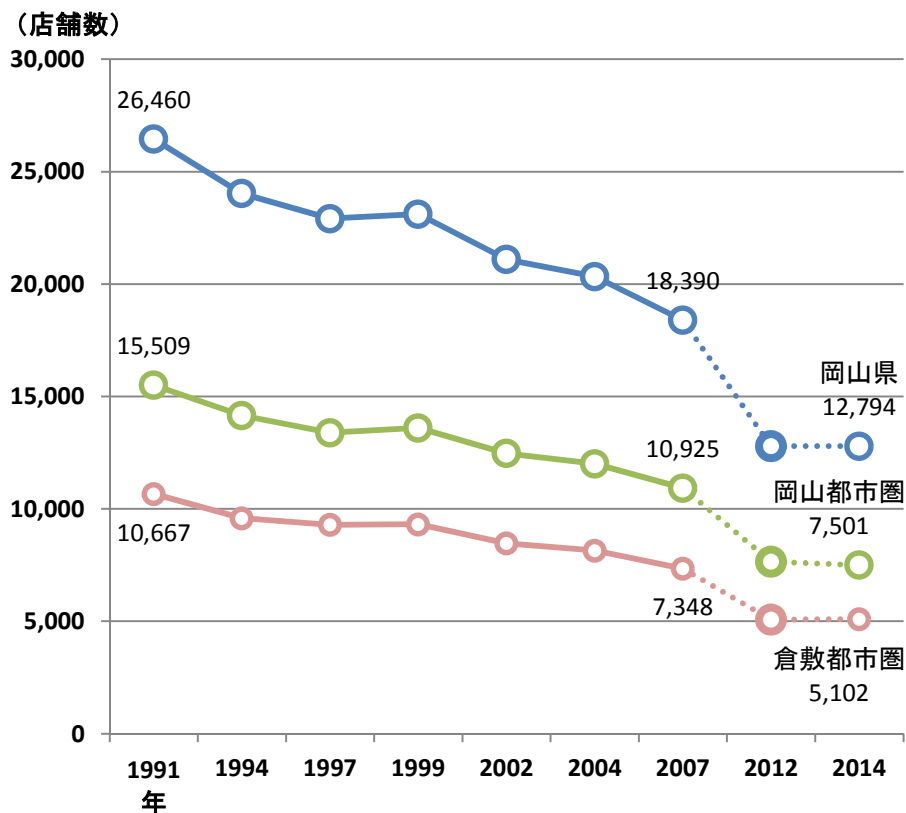
（注2）2007年以降の商業統計及び経済センサス活動調査は産業分類の変更等により調査方法が異なっているため、時系列での数値の比較はできない。

3. 基盤産業の動向

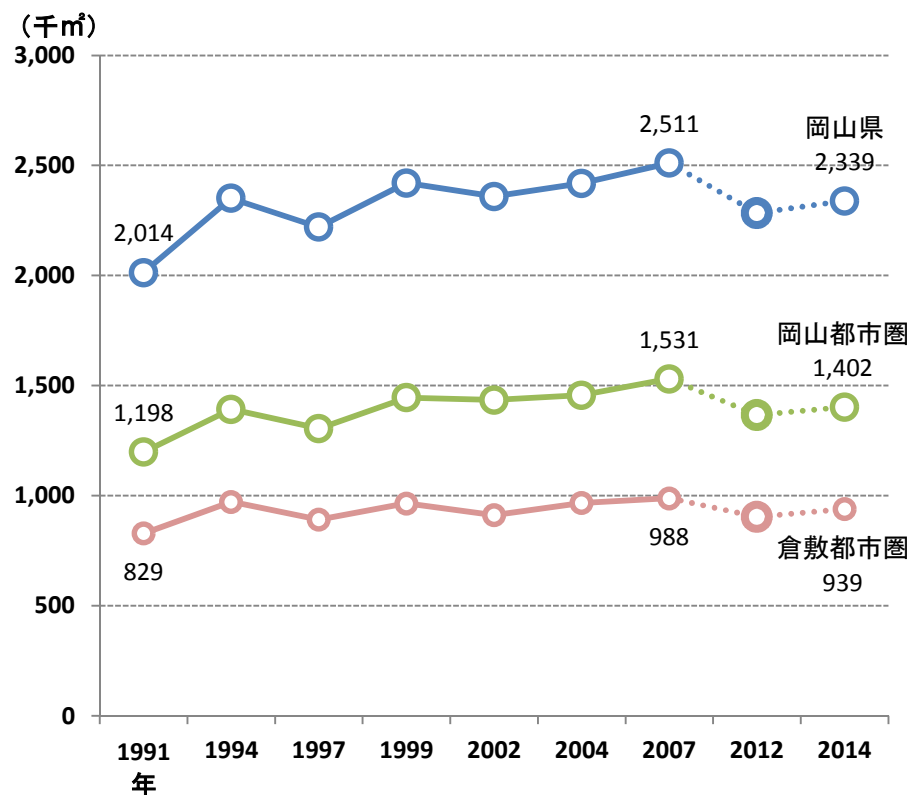
【商業】長期推移：店舗数・売場面積

- 岡山県・岡山都市圏・倉敷都市圏全てで小売業事業所数は減少を続けているが、その一方で小売業の売場面積は増加傾向にある（2012年・2014年の数値は2007年以前と比較できない）。
- 岡山都市圏では、1991年に約1.5万あった事業所数は2007年には10,925店と約30%減少したが、売場面積は119.8万㎡から153.1万㎡へと1.3倍の増加となっている。これはこの20年間に郊外への大型店舗の出店が飛躍的に増加したことが背景にあるものと考えられる。

□ 小売業事業所数の推移（岡山県・岡山都市圏・倉敷都市圏）



□ 売場面積の推移（岡山県・岡山都市圏・倉敷都市圏）



出所：経済産業省「商業統計調査」（1991～2007年、2014年）・「経済センサス活動調査」（2012年）

（注1）上記数値は、一部地域の調査結果に秘匿値があるため、全事業所の合計値とはなっていない場合がある。

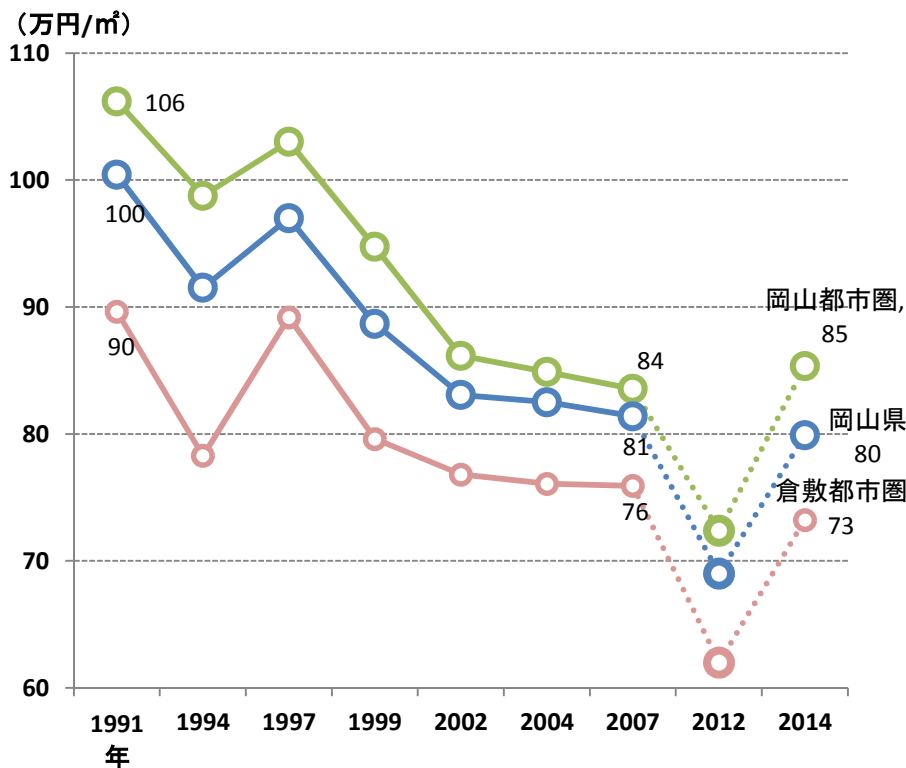
（注2）2007年以降の商業統計及び経済センサス活動調査は産業分類の変更等により調査方法が異なっているため、時系列での数値の比較はできない。

3. 基盤産業の動向

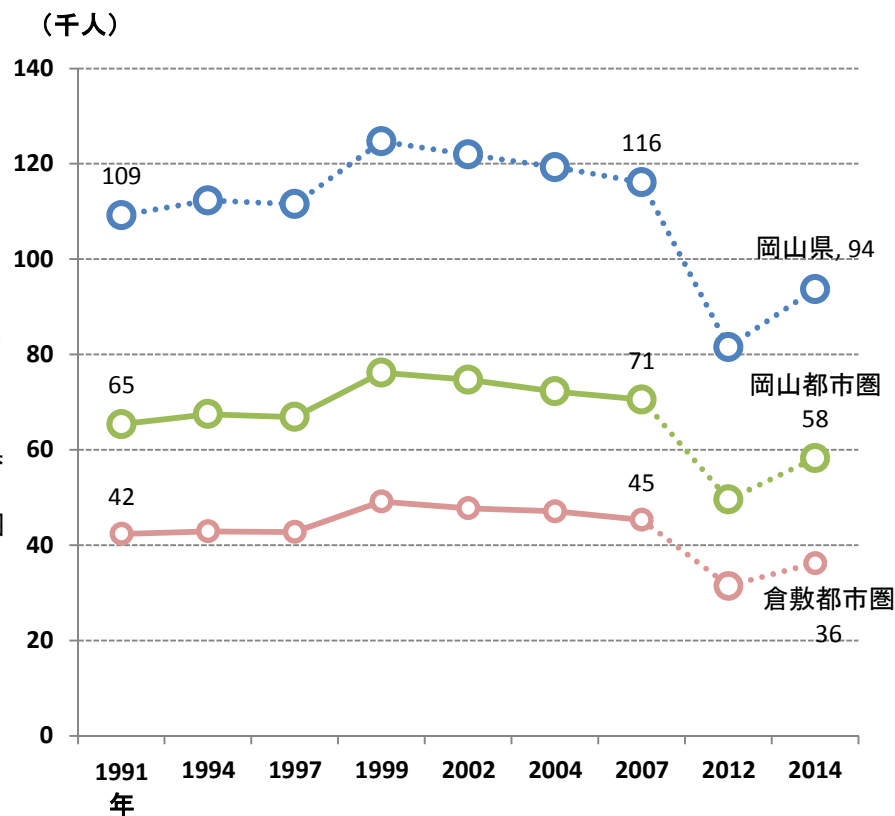
【商業】長期推移：売場効率・従事者数

- 年間商品販売額が減少傾向にある中で、売場面積が増加（店舗数は減少）しているため、販売額を売場面積で除することによって得られる売場効率は低下している。売場効率が低下すると商業環境が悪化していき、事業者はコスト削減のために従業者を減らすため、従事者数は減少していく。さらに、それでも事業が成り立たなければ、廃業・撤廃が進み、地域の買い物環境は不便さを増すことになる。
- 岡山都市圏では1991年には106万円/m²であったものが、2012年には72万円/m²と約3割売場効率は減少している。1990年代後半以降、従業者についても減少傾向にある。

□ 売場効率の推移（岡山県・岡山都市圏・倉敷都市圏）



□ 従事者数の推移（岡山県・岡山都市圏・倉敷都市圏）



出所：経済産業省「商業統計調査」（1991～2007年、2014年）・「経済センサス活動調査」（2012年）

（注1）上記数値は、一部地域の調査結果に秘匿値があるため、全事業所の合計値とはなっていない場合がある。

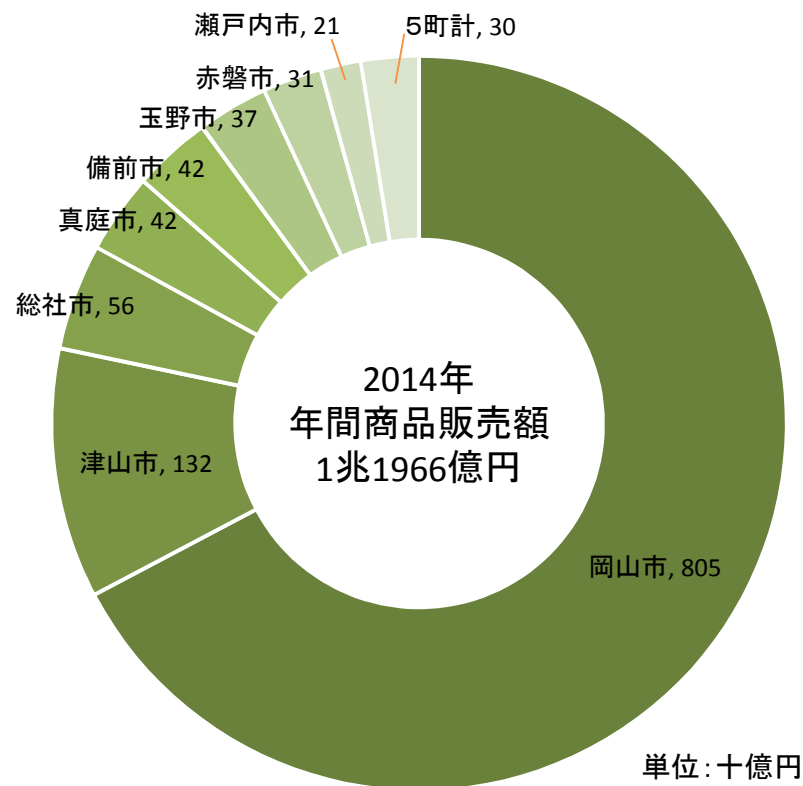
（注2）2007年以降の商業統計及び経済センサス活動調査は産業分類の変更等により調査方法が異なっているため、時系列での数値の比較はできない。

3. 基盤産業の動向

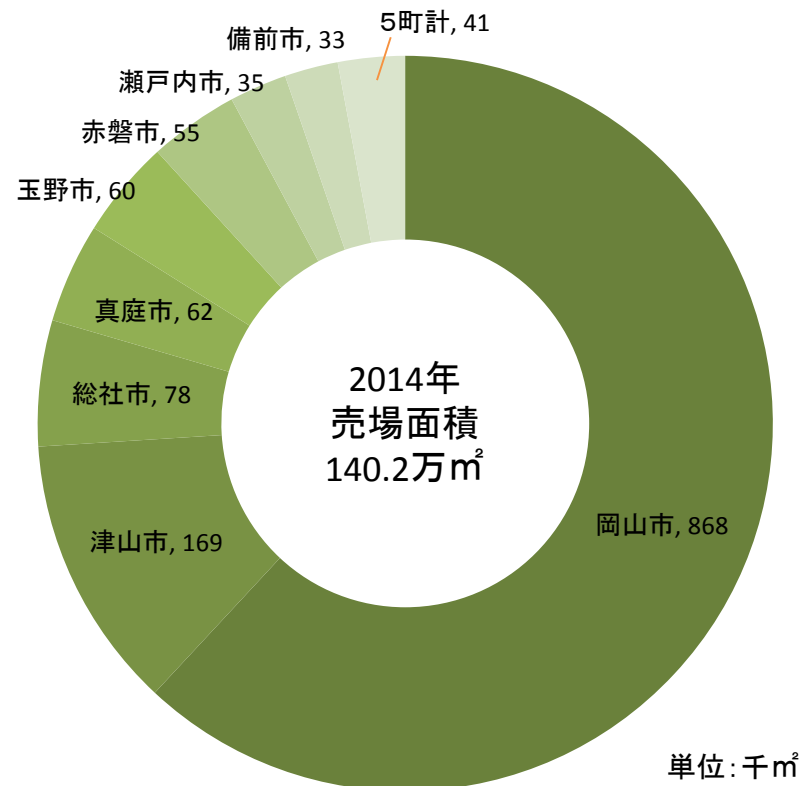
【商業】年間商品販売額・売場面積の市町別構成

- 商業の圏域内の構成は、圏域内の年間商品販売額 1兆1966億円のうち67%にあたる8050億円を岡山市が占めており、岡山市が商業の中心になっている。（店舗数・売場面積・従業者数についても同様の傾向である）
- 小売業の年間商品販売額は地域の人口規模におおむね比例することから、岡山市に次いで津山市・総社市・玉野市と続いている。

□ 年間商品販売額の市町構成



□ 売場面積の市町構成



□ 岡山都市圏の商業の基礎データ

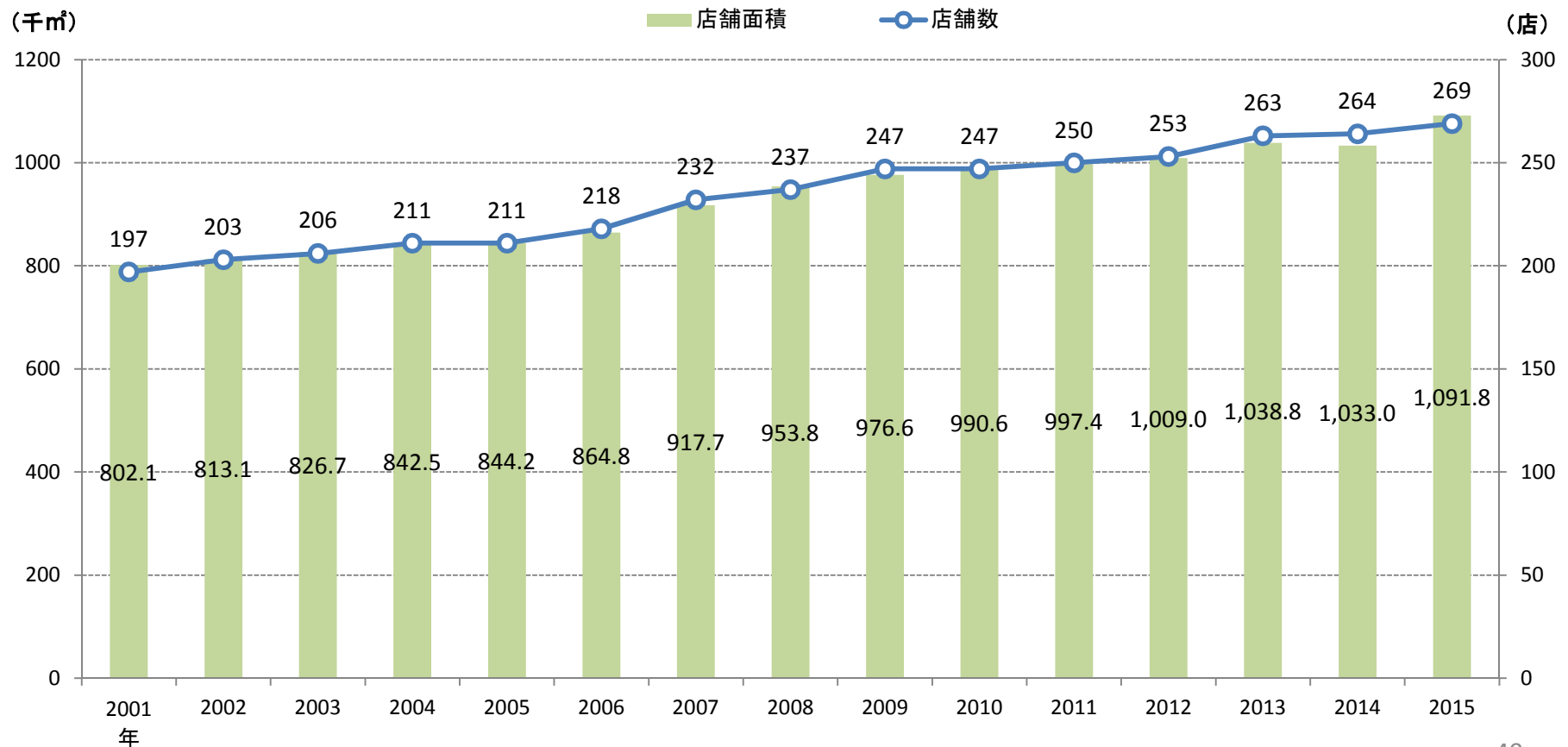
	店舗数		売場面積		従業者数		年間商品販売額		大型小売店舗		売場面積	
	(店舗)	構成比	(千㎡)	構成比	(人)	構成比	(十億円)	構成比	(店舗数)	構成比	(千㎡)	構成比
岡山都市圏	7,501		1,402.1		58,241		1,196.6		253		1,009.0	
岡山市	4,287	57.2%	868.3	61.9%	36,761	63.1%	805.0	67.3%	164	64.8%	682.4	67.6%
津山市	800	10.7%	169.2	12.1%	6,841	11.7%	131.8	11.0%	26	10.3%	132.0	13.1%
玉野市	398	5.3%	60.5	4.3%	2,135	3.7%	37.4	3.1%	14	5.5%	38.9	3.9%
総社市	385	5.1%	77.6	5.5%	2,957	5.1%	55.9	4.7%	8	3.2%	35.1	3.5%
備前市	300	4.0%	33.0	2.4%	1,654	2.8%	41.5	3.5%	7	2.8%	17.8	1.8%
瀬戸内市	209	2.8%	35.3	2.5%	1,410	2.4%	21.2	1.8%	6	2.4%	21.0	2.1%
赤磐市	215	2.9%	55.3	3.9%	1,871	3.2%	31.3	2.6%	11	4.3%	27.1	2.7%
真庭市	515	6.9%	61.6	4.4%	2,599	4.5%	42.0	3.5%	11	4.3%	35.4	3.5%
和気町	86	1.1%	20.0	1.4%	554	1.0%	9.6	0.8%	3	1.2%	13.7	1.4%
早島町	62	0.8%	3.5	0.3%	521	0.9%	9.4	0.8%	1	0.4%	1.6	0.2%
久米南町	43	0.6%	3.5	0.3%	209	0.4%	2.4	0.2%	0	0.0%	0.0	0.0%
美咲町	91	1.2%	5.8	0.4%	336	0.6%	3.3	0.3%	1	0.4%	1.2	0.1%
吉備中央町	110	1.5%	8.5	0.6%	393	0.7%	5.8	0.5%	1	0.4%	2.6	0.3%
【参考】岡山県	12,641		2,338.7		93,683		1,868.5		401		1,660.3	

出所：経済産業省「商業統計調査」（2014年）、東洋経済新報社「大型小売店舗総覧」（2015年）

3. 基盤産業の動向 【商業】大型小売店の動向

- 岡山都市圏の大型小売店舗（店舗面積1000㎡超）は、2001年の197店舗から2015年は269店舗と約1.4倍に増加している。店舗面積も同様に約80万㎡から約109万㎡と約1.4倍の増加である。
- 2014年12月の岡山駅前的大型商業施設開業もあり、店舗面積が2014年から2015年にかけて大幅に増加している。

□ 大型小売店の推移（岡山都市圏）

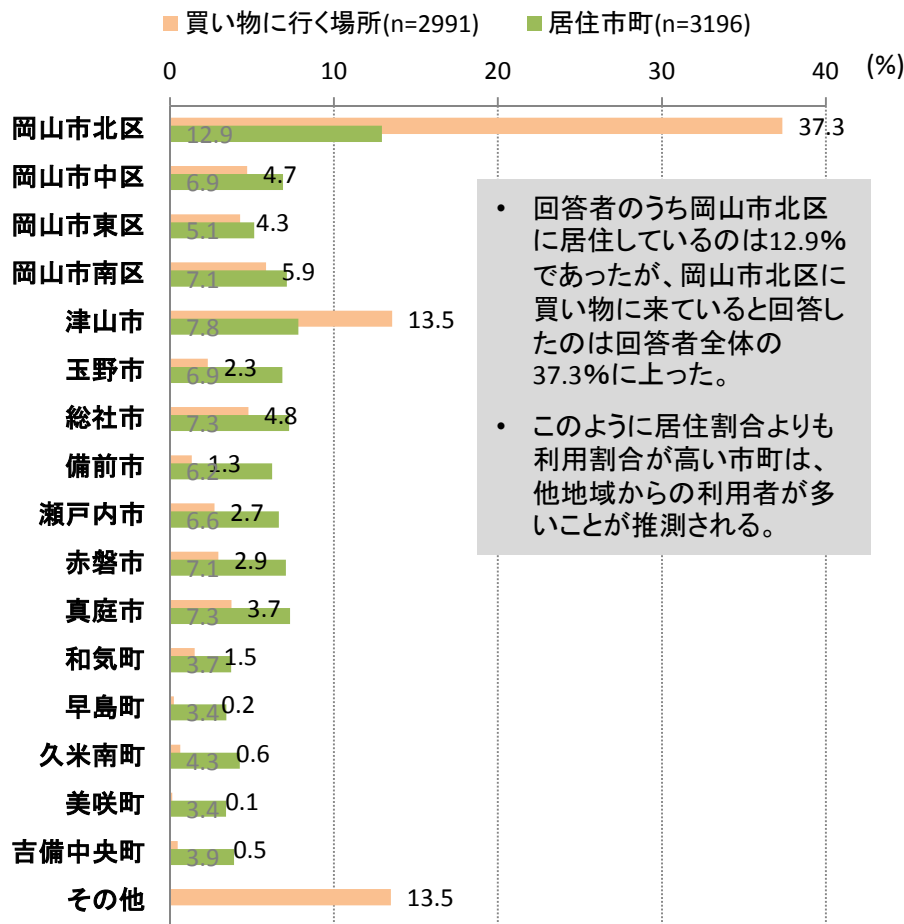


出所：東洋経済新報社「大型小売店舗総覧」

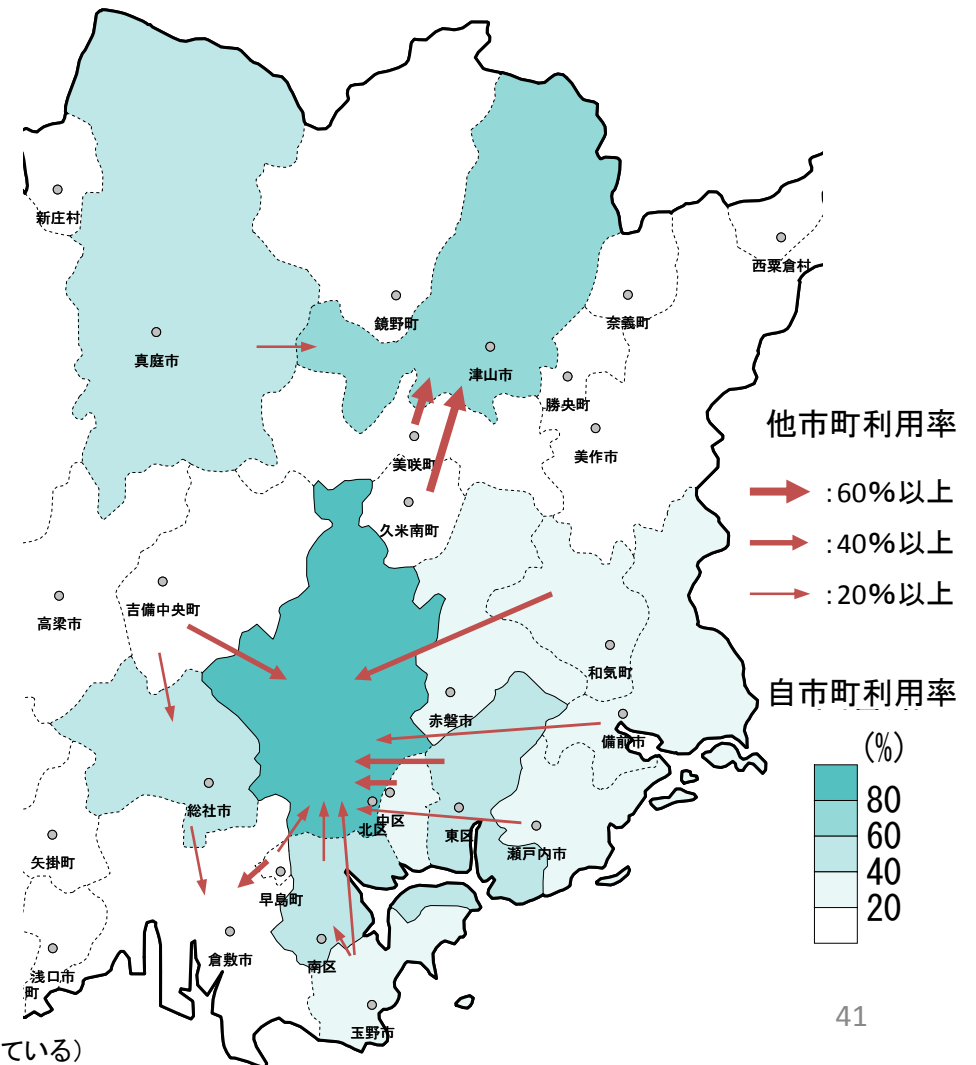
3. 基盤産業の動向 【商業】 消費者の移動状況

- 耐久消費財（電化製品など）や趣味品（衣服・靴など）の買回り品について消費者の買い物場所をみると、圏域全体で自市町内の利用率が80%を超えたのは岡山県北区のみとなった。岡山県北区には圏域南部から消費が集中していることがわかる。
- また圏域北部では津山市への一定の集中がみられる。

□ 消費者の移動状況（買回り品の買い物）



- 回答者のうち岡山市北区に居住しているのは12.9%であったが、岡山市北区に買い物に来ていると回答したのは回答者全体の37.3%に上った。
- このように居住割合よりも利用割合が高い市町は、他地域からの利用者が多いことが推測される。

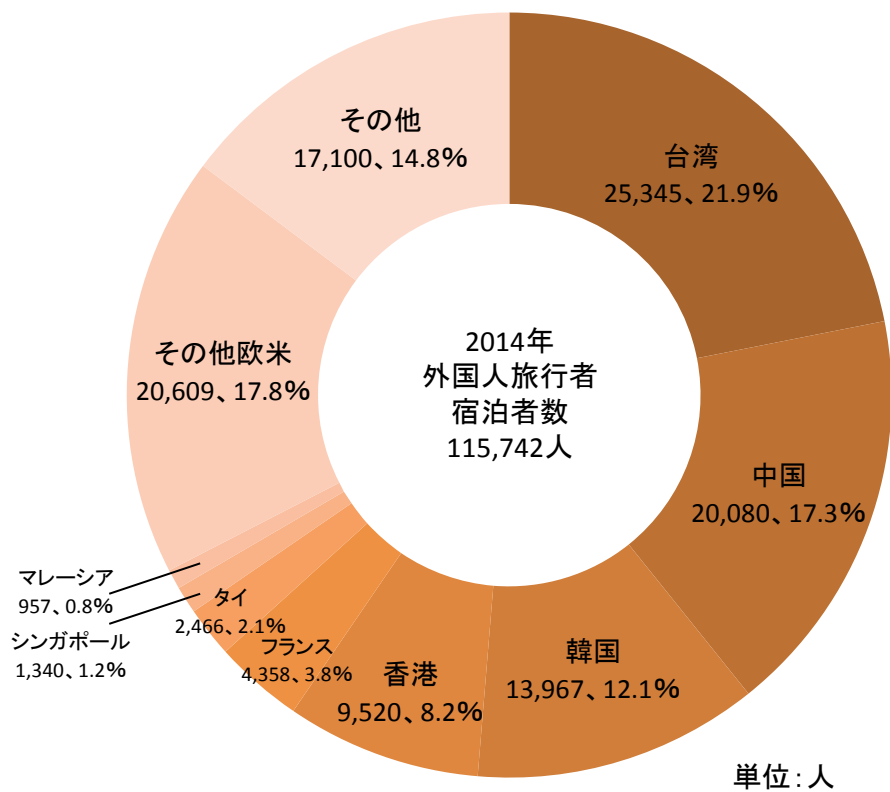


出所：岡山都市圏住民アンケートより(グラフ内のn値は不明を除く回答数を表している)

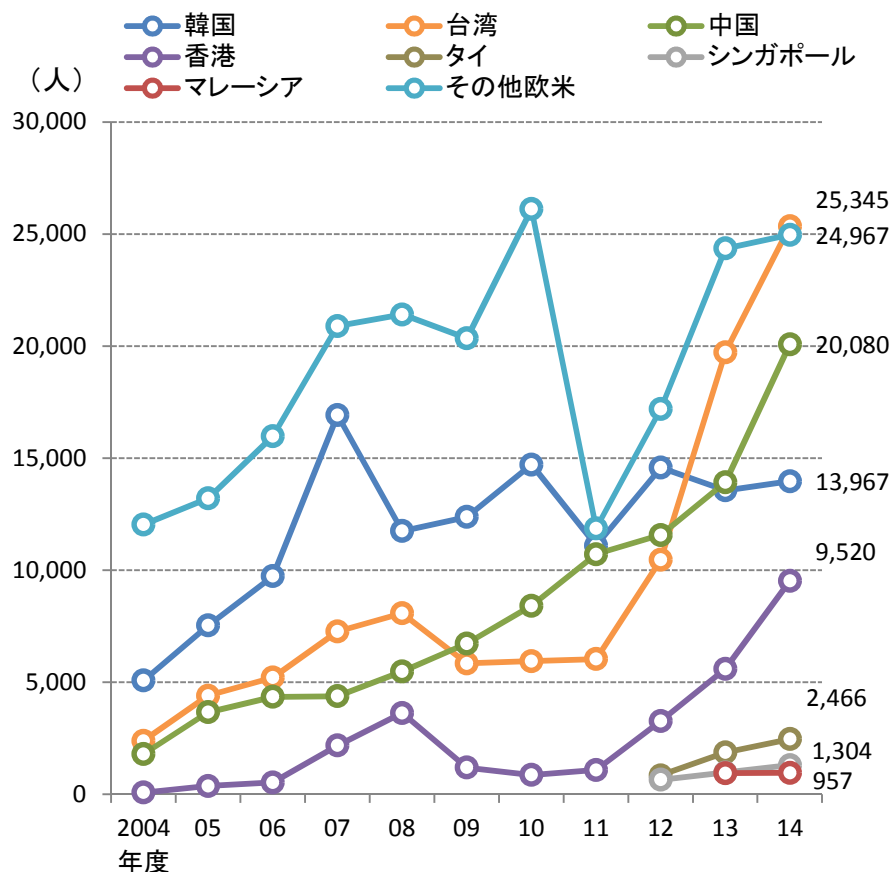
3. 基盤産業の動向 【観光】岡山県観光客数の推移

- 2014年の外国人旅行者宿泊者数は、アジアからの観光客が多く、その中でも台湾は全体の20%を占める割合となっている。次いで中国、韓国、香港となっている。
- 外国人宿泊者数の長期推移をみると、2004年時点では欧米からの観光客が多かったが、2011年には東日本大震災の影響もあり、その数が大幅に減少した。しかし、震災以降、台湾を筆頭にアジアからの観光客が増加し、2014年には外国人旅行者宿泊者の半数以上をアジアからの旅行者が占めている。

□ 岡山県外国人旅行者宿泊者数



□ 外国人旅行者宿泊者数長期推移



3. 基盤産業の動向 【観光】 地域資源一覧

- 岡山都市圏では地域資源として、農林水産物、鉱工業品、文化財、歴史的建造物、自然風景地が豊富にある。鯖やあなご等の高級水産物や、ひるぜん焼きそば（2011年B-1グランプリ1位）や津山ホルモンうどん（2011年B-1グランプリ2位）等、他地域では類を見ない特産品の数々が登録されている。
- ミシュラン発行の日本を紹介する旅行ガイド「ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン」には、岡山城・後樂園等が掲載され、当都市圏において海外観光客の期待が高まりつつある。

□ 岡山都市圏の地域資源一覧

分類	県内全域	岡山都市圏
農林水産物	桃、ぶどう、梨、ばら、洋ラン、なす、トマト、大根、ごぼう、黄ニラ、はくさい、レンコン、レタス、きゅうり、山の芋、アスパラガス、岡山県産茶、岡山県産米、黒大豆、大豆、小豆、竹の子、しいたけ	ヤマブドウ、イチジク、いちご、りんご、すもも、ブルーベリー、足守メロン、柿、オリーブ、ゆず、ソリダゴ、クレマチス、スイートピー、紫いも、小麦、巨大胚芽米はいいぶき、青大豆、そば、しょうが、い草、おかやま和牛肉、牛肉、蒜山ジャージー牛、蒜山ジャージー牛乳、生乳、おかやま黒豚、豚肉、鶏肉、鶏卵、猪肉、猪の皮、岡山カキ、イダゴ、鯖、あなご、メバル、美作材、マッシュルーム、ミツマタ
鉱工業品又は 鉱工業品の生産に 係る技術	繊維生地、アパレル製品、糸、綱、網、ハトムギ製品、醤油、みそ、酢	自動車部品、船舶部品、航空機部品、ステンレス製品、耐火物（耐火煉瓦、クレー）製品、農業用機械、岡山市の旭川の水、万成石、石灰製品、木質ペレット、木片コンクリート、木質チップ、備前焼、虫明焼、備前刀、勝山竹細工、郷原漆器、撫川うちわ、いぐさ製品、美作材、美作材を用いた家具・玩具、高田硯、がま細工、ひな人形、蒜山ジャージー乳製品、建部ヨーグルト、フルーツパフェ、落合羊羹、テンペ、朝日米米粉、朝日米米粉麺、津山ホルモンうどん、ひるぜん焼きそば、カキオコ、デミカツ丼、総社ドッグ、ふなめし、たまの自衛艦カレー、岡山の清酒、岡山のり
文化財、自然の風景地、温泉その他の地域の観光資源	桃園、ぶどう園、田園	吉備津神社、最上稲荷、旧犬養家住宅、津山城跡（鶴山公園）、閑谷学校、八塔寺、吉川八幡宮本殿、賀茂川歴史民俗資料館、加茂大祭、備中神楽、吉備路、大賀ハス、王子が岳、旭川、高梁川、吉備路風土記の丘、醍醐桜、蒜山高原、備中鍾乳穴、神庭の滝、オオサンショウウオ生息地、ほくぼうホテルの里、北庄の棚田、上叡の棚田、大併和西棚田、小山の棚田、湯原温泉、和気鶴飼谷温泉、雄町の冷泉、塩釜の冷泉、後樂園、岡山カルチャーゾーン、西川緑道公園、造山古墳、高松城跡、近水園、津山市城東伝統建造物群保存地区、衆樂園、旧津山扇形機関車庫、洪川海水浴場、勝山町並み保存地区、藤公園、まきばの館、三休公園、岡崎嘉平太記念館、吉備高原都市、ブルーベリー園、オリーブ園、備前焼の窯元、虫明焼の窯元、備前刀の見学展示施設、岡山の清酒の蔵元、玉野の進水式

3. 基盤産業の動向 【観光】 地域資源一覧

- アメリカをはじめとして、世界45カ国・28言語でサービスを展開する旅行ウェブサイト「トリップアドバイザー」では、口コミとともに地域の観光名所のランキングを掲載している。
- 久米南町では北庄の棚田や上臼の棚田のような田園風景が特徴的であるが、観光地としては知名度が少なく、トリップアドバイザーではランキング掲載が行われていなかった。

□ 岡山都市圏の各都市観光地ランキング

	岡山市	津山市	玉野市	総社市	備前市	瀬戸内市	赤磐市	真庭市	和気町	早島町	久米南町	美咲町	吉備中央町
1	後楽園	鶴山公園 (津山城)	おもちゃ王国	鬼の城-岩屋	旧閑谷学校	牛窓オリーブ園	岡山農業公園 ドイツの森 クローネン ベルク	蒜山大山 スカイライン 鬼女台展望 休憩所	藤公園	宇喜多提起点 之地	-	柵原ふれあい 鉢山公園	道の駅かよう
2	吉備津神社	つやま自然の 不思議館	みやま公園	備中国分寺	みなとの 見える丘公園	備前長船 刀剣博物館	サッポロワイン 岡山ワイナ リー	道の駅 風の家	和気神社	早島町 観光センター	-	本山寺	道の駅 かもがわ円城
3	犬島精錬所美 術館	道の駅 久米の里	王子が岳	鬼の城	片上大橋	牛窓神社	熊山英国庭園	神庭の滝	天王神社	龍神社	-	まきばの館	小森温泉
4	岡山城	旧津山藩 別邸庭園	渋川海岸	井山宝福寺	岡山県備前 陶芸美術館	牛窓諸島	石上布魂神社	勝山町並み 保存地区	和気町歴史民 俗資料館	千光寺	-	亀甲岩	片山邸
5	吉備津彦神社	津山駅扇形 機関車庫	渋川マリン 水族館	総社宮	日生諸島	前島	桃茂実苑	蒜山ハーブ ガーデンハー ビル	-	安養院	-	長安寺	円城 ふるさと村

目次

Contents	Page
I 岡山都市圏の人口構造	1
1. 人口の長期推移	2
2. 人口動態	3
II 岡山都市圏産業別の現状分析	7
1. 経済規模	8
2. 産業構造	10
3. 基盤産業の動向	21
III 岡山都市圏企業アンケート結果概要	47
1. アンケート調査の概要	48
2. 岡山都市圏における企業活動の状況	49
3. 公的産業振興について	52
IV 岡山都市圏企業・団体ヒアリング結果	53
1. ヒアリング調査の概要	54
2. ヒアリング調査結果	55

Ⅲ-1. アンケート調査の概要

- 岡山都市圏企業アンケートは、岡山都市圏に本社を置く企業について、①経営状況・経営上の課題、②公的産業振興策のあり方の2つを把握することを目的として実施した。全1,000通の調査票を発送し、回収数は502通（回収率50.4%。有効発送数ベース）である。

□ 岡山都市圏企業アンケート概要

項目	内容
調査目的	岡山都市圏に本社を置く企業について、①経営状況・経営上の課題、②公的産業振興策のあり方の2つを把握することを目的とする。
調査対象	圏域内に本社を置く従業員5名以上の企業2,060社（協同組合・団体等を除く）
データ数	サンプル数 1,000票（有効発送数997票） 有効回答数 502票（回収率50.4%）
調査時点	2015年11月5日～11月18日（本報告書掲載の有効回答数、回収率は11月30日までの回収分を反映）
標本抽出	調査対象となる企業から1,000社を無作為抽出
調査方法	自記入式アンケート調査票を郵送により配布・回収
調査事項	<ul style="list-style-type: none"> ● 基本事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ 会社概要（所在地、資本金、業種、従業員数） ● アンケート事項 <ul style="list-style-type: none"> ① 経営状態に関すること <ul style="list-style-type: none"> ・ 業績、取引先（地域）、会社の強み、圏域のメリット／デメリット ・ 人材確保の取組、人材（後継者等）の育成 ② 新分野への進出に関すること <ul style="list-style-type: none"> ・ 新分野への取組状況 ③ 公的産業振興策のあり方に関すること <ul style="list-style-type: none"> ・ 期待する公的産業振興策、具体的要望

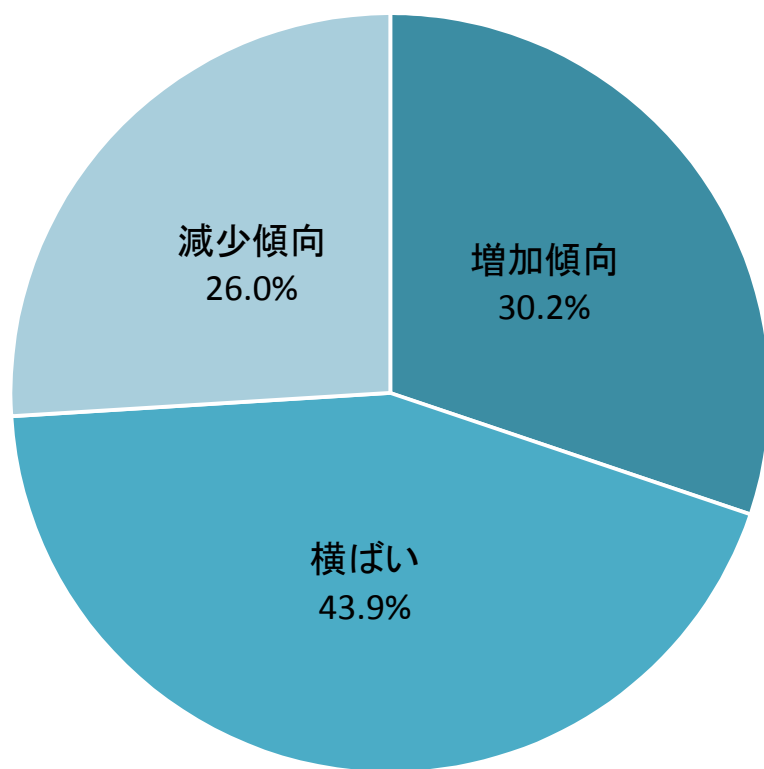
□ アンケート回収状況

市町村	発送数(票)	回収数(票)	回収率(%)
岡山市	444	219	49.3
津山市	141	74	52.5
玉野市	83	34	41.0
総社市	57	25	43.9
備前市	75	44	58.7
瀬戸内市	42	21	50.0
赤磐市	32	18	56.3
真庭市	67	26	38.8
和気町	13	6	46.2
早島町	8	3	37.5
久米南町	4	3	75.0
美咲町	19	11	57.9
吉備中央町	15	8	53.3
不明	-	10	-
合計	1,000 (有効発送数:997)	502	50.4 (有効発送数ベース)

Ⅲ-2. 岡山都市圏内における企業活動の状況

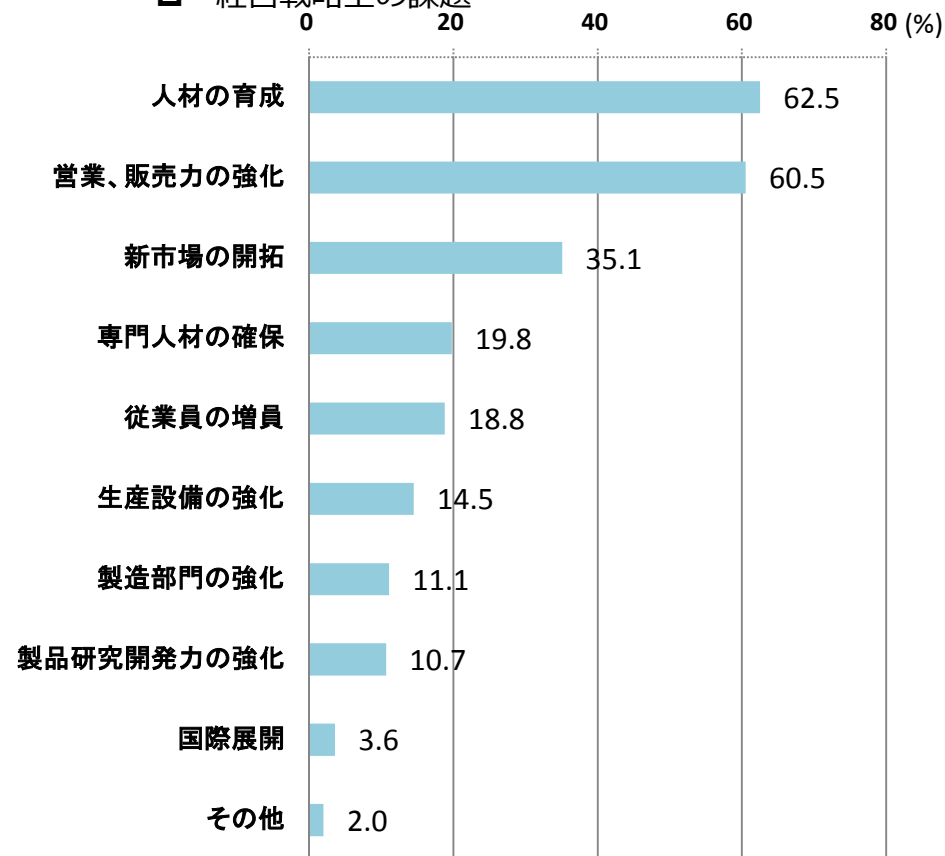
- 最近5年の売上の傾向は、「増加傾向」あるいは「横ばい」と回答した企業が約7割、「減少傾向」と回答した企業は約3割であった。
- 今後5年間の経営戦略における課題としては、「人材の育成」と「営業、販売力の強化」がともに約6割と最も多く、次いで「新市場の開拓」が続いた。「専門人材の確保」や「従業員の増員」を課題とする企業もそれぞれ約2割あり、「人材の育成」も含めると、人材を経営戦略上の課題としている企業が多いことが分かる。人口減少のなかで、市場拡大に対応するための市場開拓と人材不足への対応が求められている。

□ 最近5年の売上傾向



n=502

□ 経営戦略上の課題

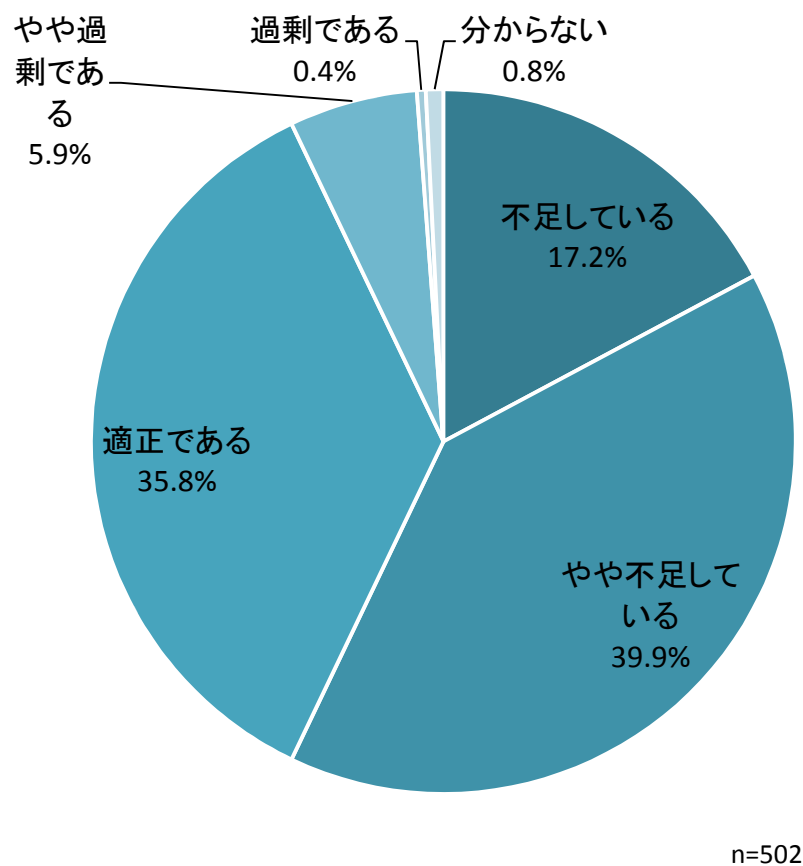


n=502

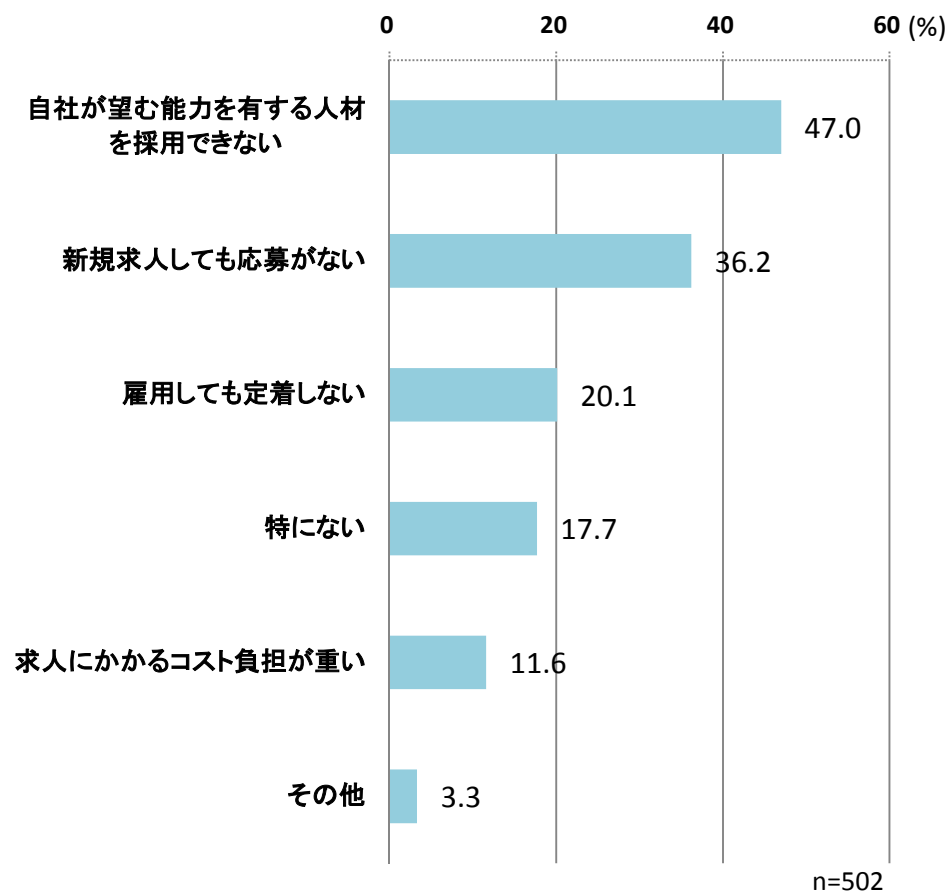
Ⅲ-2. 岡山都市圏企業アンケートの概要 【圏域内における企業活動】②

- 雇用状況について、「不足している」が約2割であり、「やや不足している」も含めると企業の約6割が人材不足を感じている。
- 新規採用において課題となっている点については、「自社が望む能力を有する人材を採用できない」が47.0%と最も多く、次いで、「新規求人しても応募がない」が36.2%と2番目に多い。企業側としては新規採用を行っていきたいが、求人をしてなかなか人が集まらなく苦勞していることが窺える。

□ 雇用の過不足感



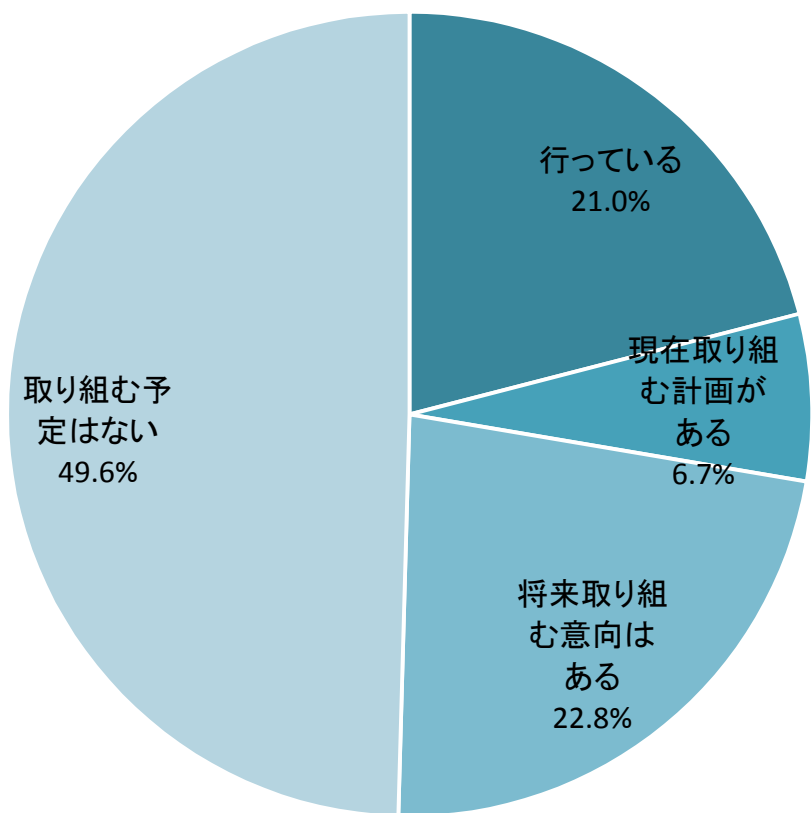
□ 採用上の問題



Ⅲ-2. 岡山都市圏企業アンケートの概要 【新分野への進出意向】

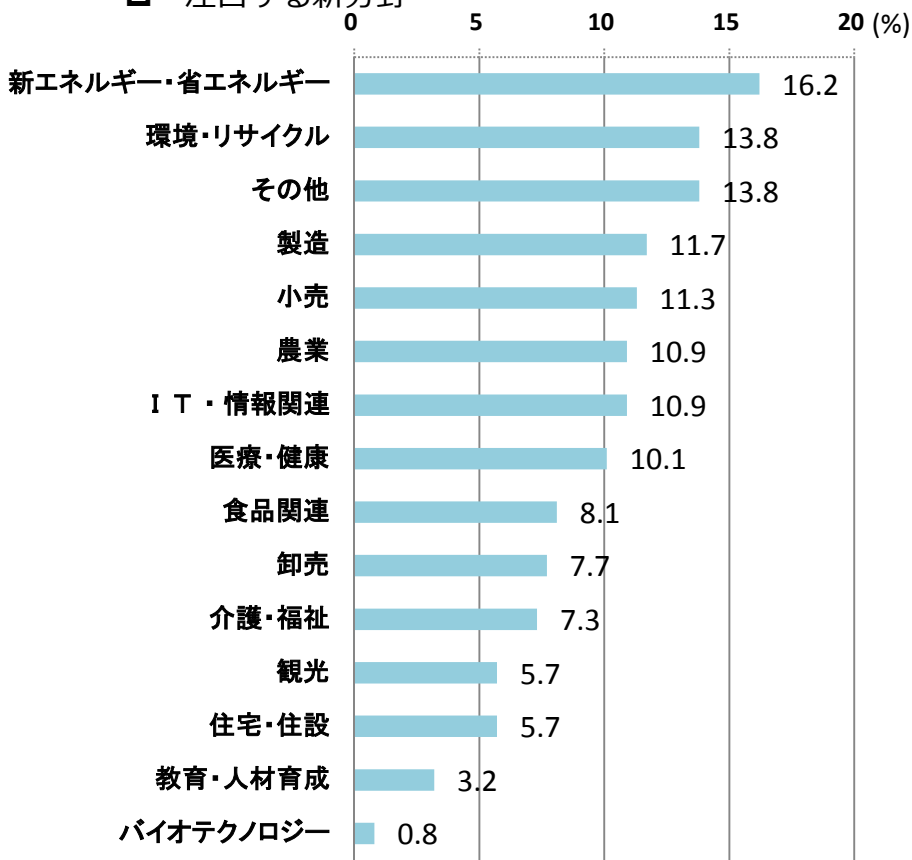
- 新分野、新業務への取組については、「行っている」が約2割、「現在取り組む計画がある」、「将来的に取り組む意向はある」をあわせて約3割、残り5割の企業については「取り組む予定はない」という回答であった。
- 具体的に重視している分野については、「新エネルギー・省エネルギー」が16.2%と最も高く、次いで「環境・リサイクル」が13.8%と続いている。電力・ガスの自由化などエネルギー・環境分野は、事業環境の変化が大きい分野であることが、関心の高さに表れているものと思われる。

□ 新分野への進出状況



n=502

□ 注目する新分野

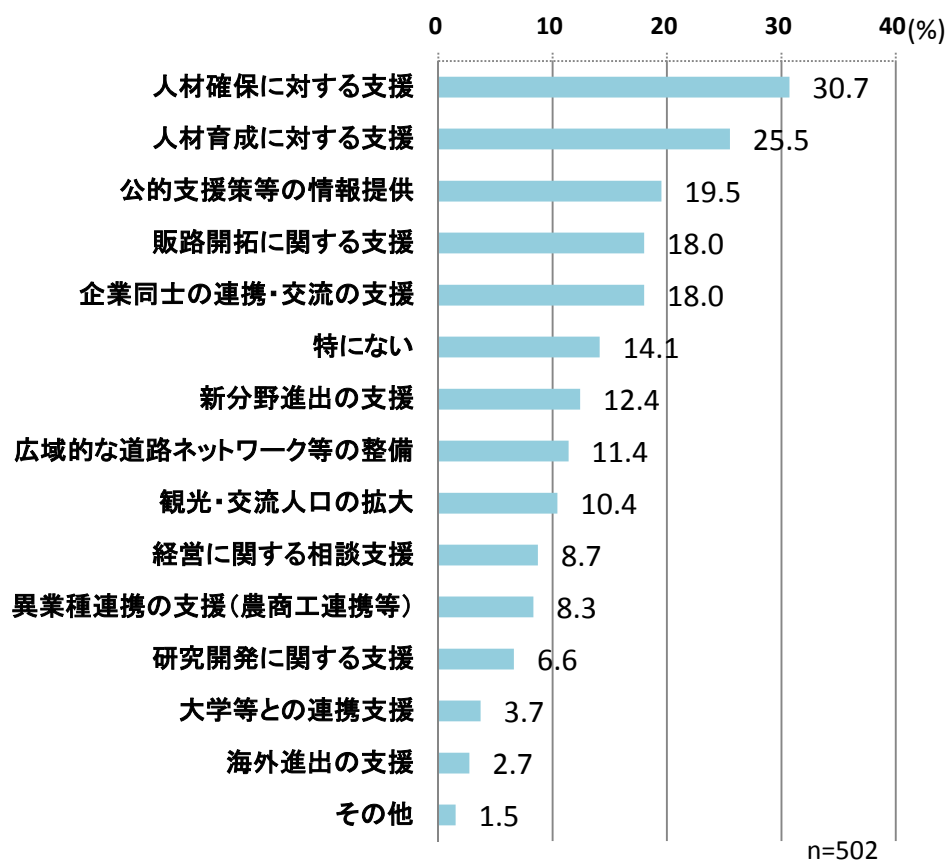


n=250

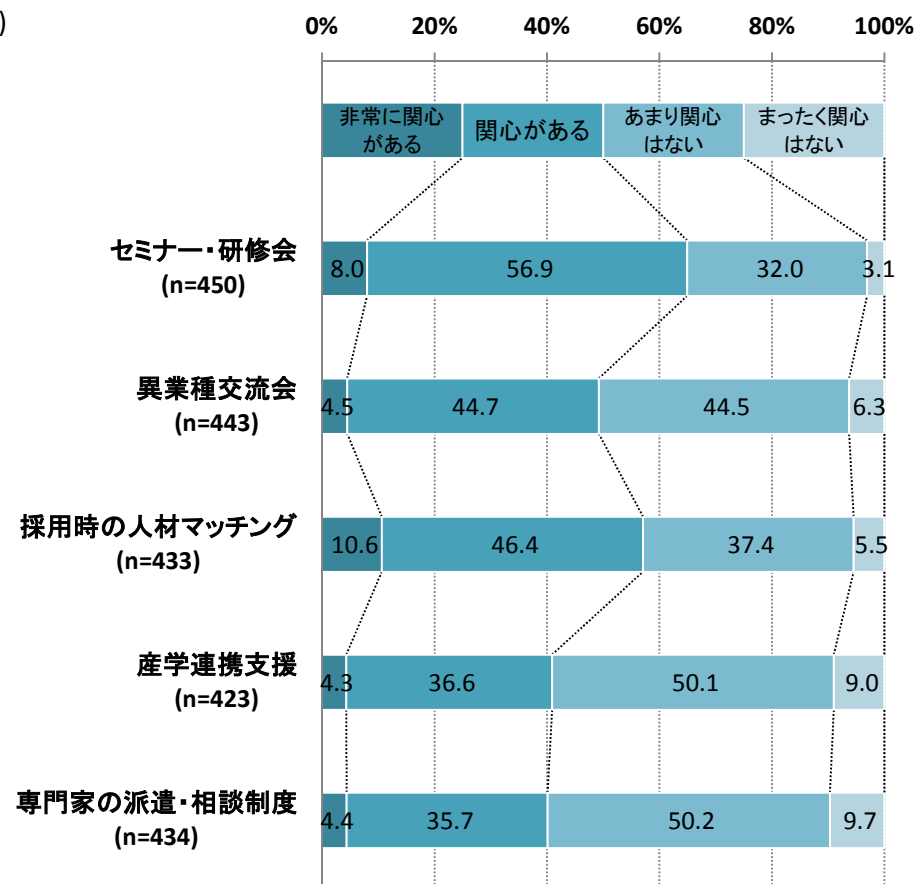
Ⅲ-3. 公的産業振興について

- 公的産業振興策として期待するものは、「人材確保に対する支援」「人材育成に対する支援」といった人材に関する項目が上位を占めており、戦略上の課題と同様に人材確保・育成への期待が大きいことが分かる。また、「公的支援策等の情報提供」「販路開拓に関する支援」「企業同士の連携・交流の支援」も求められている。
- 産業振興策について、「非常に興味がある」と「興味がある」をあわせた関心が最も高いものは「セミナー、研修会」であった。次いで「採用時の人材マッチング」「異業種交流会」と続いており、人材分野への関心が高い。

□ 公的産業振興策として重視するもの



□ 公的産業振興策についての関心度



出所: 岡山都市圏企業アンケートより(グラフ内のn値は不明を除く回答数を表している)

目次

Contents		Page
I	岡山都市圏の人口構造	1
	1. 人口の長期推移	2
	2. 人口動態	3
II	岡山都市圏産業別の現状分析	7
	1. 経済規模	8
	2. 産業構造	10
	3. 基盤産業の動向	21
III	岡山都市圏企業アンケート結果概要	47
	1. アンケート調査の概要	48
	2. 岡山都市圏における企業活動の状況	49
	3. 公的産業振興について	52
IV	岡山都市圏企業・団体ヒアリング結果	53
	1. ヒアリング調査の概要	54
	2. ヒアリング調査結果	55

IV-1. ヒアリング調査の概要

- 本調査ではデータ調査・アンケート調査に加え、圏域内に本社・本部を有する企業・団体に企業活動の状況、地域経済の課題、公的産業振興策への期待などについてヒアリング調査を実施した。
- ヒアリング対象は10の企業・団体である。ご協力いただいた企業・団体の皆様にはここに謝意を表させていただきます。

□ ヒアリング対象企業・団体の概要

社・団体	立地市町	業種
A社	岡山市	製造業(輸送用機械)
B社	岡山市	製造業(輸送用機械)
C社	岡山市	製造業(一般機械)
D社	津山市	製造業(一般機械)
E社	備前市	製造業(土石・窯業)
F社	赤磐市	製造業(一般機械)
G社	真庭市	製造業(土石・窯業)
H社	和気町	製造業(金属・非鉄金属)
団体I	岡山市	観光振興団体
団体J	津山市	中小企業振興団体

□ ヒアリング事項

主な質問事項
<ul style="list-style-type: none"> ■ これまでの取組に関すること <ul style="list-style-type: none"> ・ 圏域での企業の経緯 ・ 圏域のメリット／デメリット ■ 地域の経済活動が抱える課題に関すること <ul style="list-style-type: none"> ・ 人材の安定的な確保に対する取組 ・ 広域的な販路・誘客への現状と課題 ・ 地域の経済状況について ■ 公的産業振興策のあり方に関すること <ul style="list-style-type: none"> ・ 期待する公的産業振興策、具体的要望

IV-2. ヒアリング調査結果 【岡山都市圏に立地するメリット】

- 岡山都市圏に立地するメリットとしては、コストの安さ（人件費・土地価格）、港湾・研究機関の存在、生活環境の良さなどが挙げられた。

□ 岡山都市圏に立地するメリット

人材面	<ul style="list-style-type: none">・ 人材の確保が容易・ 給与水準が低いため、人件費が安くすんでいる
地理的環境	<ul style="list-style-type: none">● 土地価格の安さ<ul style="list-style-type: none">・ 土地の価格が安い。近時、圏域北部で新たに土地を購入し工場を新設したが、この地域に決めたのも価格が安かったことが大きい・ コストが安いことが地方のメリットである。工場用地として土地を購入したが他の地域と比べても土地価格が低く、その分建物にお金をかけることができた● 港湾の存在<ul style="list-style-type: none">・ 瀬戸内海の造船所の数は日本全体の約50%を占めているので、造船所との連携が取りやすいというのが最も大きなメリットである・ 運送の面で港が近いというのは（製品が重く、主な納入先が臨海部に立地する工場であるため）、かなり大きなメリットではある● 研究機関の存在<ul style="list-style-type: none">・ 大学等と共同研究する際、理科系の大学が近くにあり、連携がとりやすい
生活環境	<ul style="list-style-type: none">・ 社員にとっては岡山県という場所は非常に暮らしやすい環境にある・ 環境の良い場所なので、ものづくりを行う上で雑念なく仕事に没頭できる
競争環境	<ul style="list-style-type: none">・ （業種にもよるが）岡山県に進出してくる企業が少ないのも当社にとっては営業を行う面で非常に助かっている

IV-2. ヒアリング調査結果 【岡山都市圏に立地するデメリット】

- 岡山都市圏に立地するデメリットとしては、人材の確保が困難という点と、陸送での物流コストの高さが多く挙げられた。

□ 岡山都市圏に立地するデメリット

人材面	<ul style="list-style-type: none">● 人材の確保が困難<ul style="list-style-type: none">・ 人口減少社会であるので、人材の確保が困難になってきていて頭を抱えている・ 人材が安定的に確保できないというのが大きなデメリット・ 人が集まらないことである。製造業は人手不足と言われていたが、圏域北部は特に人が足りていない。結果的に良い人材も集まらない● その他<ul style="list-style-type: none">・ 他に大企業がないので社風的に社員がのんびりしているのもデメリットに感じる
地理的環境	<ul style="list-style-type: none">● 市場への遠さ・高い物流コスト(陸送)<ul style="list-style-type: none">・ 商品機械等はほぼ陸送で送り出していることから、機械が他県や他市町で壊れてしまって早急に対処が必要な場合、すぐに交換・修理ができない・ 物流コストが多くかかる点。当社は陸送によって商品を時間納入するため、部品によっては遠方の客(都内等)に届けるとき、非常に多くの物流コストがかかる・ デメリットは最大の市場である東京から遠いことである。時間、距離など物流面で考えるとやはり東京に近い方が良い● インフラ<ul style="list-style-type: none">・ 岡山空港工業団地エリアでは光回線が届いておらず、岡山空港の無線電波を借りての作業となっており、飛行機の離着陸時に電波が途切れることが多々あるところが非常に不便である
生活環境	<ul style="list-style-type: none">・ 圏域北部は若者が遊びに行くところがなく、電車・バスなどのインフラ整備も整っておらず、若者が住むのには苦勞する・ 岡山市と圏域中部・北部をつなぐ交通の便が良くないため、社内からは通勤しづらいという声も上がっている

IV-2. ヒアリング調査結果 【地域経済の問題点①】

- 地域経済の問題点として、各企業が強調したのは、人材確保面で競争が高まっているという点である。特に技術者・グローバル人材については大企業との競争に負けているのが現状とのことである。
- また、生活環境や産学連携についても課題が指摘されている。

□ 地域経済の問題点

人材面	<ul style="list-style-type: none">● 人材確保面での競争・ 優秀な人材は大手企業との取り合いに負けてしまう傾向にある・ ワーカーも技術者も確保しにくく、タイムリーに人員が確保できていない状況となっている。新卒をあまり採用できていない理由としては、給与面等で学生が大手志向になっており、県外へ流出してしまっていることが挙げられる・ 機械系に特化した人材は大手企業がほぼ青田買いしていく傾向にあり、その後に数少ない優秀な人材を採用するという方法となっている・ 圏域北部では人が集まらず、ハローワークに登録しても無駄である。大半が岡山市へ流れており、その次が関西エリアである・ グローバル人材が不足している。本当のグローバル人材とは、英語を話せるとか英語で交渉できるかではなく、日本に帰ってくることなくずっと海外で生活しても良いという人間であり、現在当社にもいない・ 人が集まらない理由としては、まず魅力的な企業がないこと。そしてアクセスが悪いことである(特に圏域北部)
生活環境	<ul style="list-style-type: none">・ アパートの空き物件が少なすぎる。従業員、特に採用したばかりの若者のなかには自宅から通勤できない人がいるが、近くでアパートを探すが見つからず、近隣市町でアパートを借りて通勤している。外から人を呼ぼうとしても住むところがないと集まらず、こうした状況を改善していくことが必要である
産学連携	<ul style="list-style-type: none">・ 産学連携を県の産業支援センター等と積極的に行っているが、自分たちがやりたい分野と100%一致したことをやってくれる所はあまりない・ 県内の大学と連携したいが、岡山県内にはそもそも大学が少なく、場所も遠いので実施しにくい

IV-2. ヒアリング調査結果 【地域経済の問題点②】

- 地域経済の問題点として、人材の不足と共に多く挙げられたのが、観光面である。地域経済にとって観光消費が重要という認識は浸透しており、観光インフラの整備や岡山らしい魅力づくりとその発信という点が課題として挙げられている。

□ 地域経済の問題点（つづき）

観光

- インバウンド向け観光インフラが未整備
 - ・ インバウンド観光に力を入れていくのがいいのではないか。あまり知られていないが和気町にはリンゴ農園があり日本一とも言われている藤棚もある。そうしたところを回り、そこで農業体験もできるなど周遊型観光をすることもおもしろいと思う
 - ・ 岡山市内の路面電車から降車する際、外国人が苦勞している場面を多々目撃することから、案内板の多言語化、設置数の増加を行うべき
- 岡山らしい魅力づくりと発信が不足
 - ・ 大きな問題点としては、岡山県は観光客にとって四国への入り口となっているだけのことが多いことである。新幹線が通るようになってから岡山県はただの通り道になっているケースが多く、観光客を岡山県内に留める又は呼び込む魅力が少ないように感じる
 - ・ 岡山県の主要な観光地としては岡山城や後樂園等が挙げられるが、岡山城はコンクリート壁を使用しており景観が崩れているように感じる。また、後樂園は作業員が作業服を着て作業していることに違和感を覚える。石川県の兼六園では作業員は法被を着て作業を行うなど、徹底して日本文化を発信するよう心掛けている。後樂園でもそれを見習うべき
 - ・ 鶴山公園をもっと主張するべきだと思う。お金をかけて天守閣を再現するとか思い切った取り組みが必要
 - ・ 湯郷温泉、湯原温泉など良い温泉はたくさんある。蒜山は西の軽井沢と呼ばれており、高原リゾートとして高質である。さらには、日本海側の観光地にも通じている。そういった埋もれている観光資源をもっと外へ発信していくべき
 - ・ 観光資源に関しては岡山市の岡山城や後樂園、真庭市の蒜山、総社市内に多数ある寺、県内各地にあるB級グルメ等地域によって様々なものが存在する。また、蒜山から鳥取の大山を経由して、日本海側に抜ける観光ルートもある。地域間でお互いの観光資源の再認識を促し、それをどう発信していくか広域圏全体で考えることが必要になる

IV-2. ヒアリング調査結果 【望ましい公的産業支援】

- 今後望ましい公的産業支援としては、人材面については外国人・U I J ターンについての支援、「岡山市シティプロモーション」などによる企業連携の場をすることによる商品開発・販路開拓支援、インフラ整備などが挙げられている。

□ 今後望ましい公的産業支援

人材面	<ul style="list-style-type: none"> • 外国人研修生の宿泊先が見つからなくて困っている。日本人が経営するアパートやマンションは治安という面で外国人を入居させたがらないので、宿泊先の紹介等の援助を行ってほしい • 他県から岡山に帰ってきたい人や、岡山に住んでみたい人にインターンとして来てもらいたいが、知名度の低い企業では、来て、働いてみないと、その良さはわからない。特に若い人には経験してもらわなければわからないことがあり、多くの若者に来てほしいので、行政の支援を期待している • 新卒をあまり採用できていないので、ワーカー・技術者共に増員したい当社としては、岡山県内での理科系の大学・専門学校を増加を望む
経営支援	<ul style="list-style-type: none"> • 企業が苦しい時の支援制度は、どのような企業でも非常に心強い存在となるので、緊急時の支援策を考え、いざというときはそれを実施してほしい
商品開発 販路開拓	<ul style="list-style-type: none"> • 岡山市が開催している「岡山市シティプロモーション」で他企業との連携が実現し消費者向け商品が完成した。そういった企業間での連携が生まれる場として、これからも展示会を開催してもらいたい • B to B（企業間の取引）から B to C（最終消費への販売）向けの商品・技術開発にも力を入れていきたいと考えており、商品開発や販路開拓について行政に後押ししてほしいと思っている
インフラ	<ul style="list-style-type: none"> • 岡山市から津山市間は一般道路しかなく、この区間の道路整備、鉄道整備をしっかりと行ってほしい • 岡山県全体でみると、観光・インフラ・企業誘致等の面で県が投資する場所は倉敷市や真庭市といった西部地域が多く、東部地域に関してはほとんど投資がされない • インフラの維持・更新には多額の資金が必要になるが、資金がないから維持・更新をしないというのではなく、一つの自治体で難しいのなら他の自治体も一緒になって統廃合しながら考えていくという方向に向いていかないといけない